

基本計画書

基 本 計 画			
事 項	記 入 欄		備 考
計 画 の 区 分	研究科の専攻の設置		
フ リ ガ ナ 設 置 者	コリツカ`イ`カホジ`ン トツリダ`イ`ク 国立大学法人 鳥取大学		
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	トツリダ`イ`カ`ガ`ク`イン 鳥取大学大学院 (Graduate School of Tottori University)		
大 学 本 部 の 位 置	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地		
大 学 の 目 的	<p>鳥取大学は、創立以来今日まで、地域の人々の幸福のために、実学を中心に地域の発展に取り組んできた。砂丘農業の取組から発展して世界に展開する乾燥地研究に象徴されるように、地域のための取組の成果を活かして世界に貢献してきた。その根底にあるものは、地域に寄り添いながら世界を視野に入れ、つねに厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心をもつ姿勢である。</p> <p>このような伝統を受け継いで、理論の修得と実践により問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を基本の理念として、全学を上げた学際的取組により教育、研究、社会貢献を進め、活力をもった持続的な地域の創生につとめるとともに、環境科学、ライフサイエンス等の特色ある分野において研究拠点の形成を進め、持続的な世界の構築に貢献する大学を目指していく。そのために次の3つの目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成 2. 地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究の推進 3. 国際・地域社会への貢献及び地域との融合 <p>これらの目標の達成に向けて、基本理念である「知と実践の融合」のもとに、次のようなビジョンをもって活動を行う。</p> <p>【教育】 時代に必要で現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組む。</p> <p>【研究】 地域から世界に広がる研究フィールドにおいて、基礎研究のみならず、社会的課題の解決へ向けた実践研究を行う。責任ある研究活動を行うとともに、そこから得た知見を学術知にとどめることなく、知的資源として社会へ還元する。</p> <p>【社会貢献】 地域と一体となって教育研究を推進するとともに、広く社会に役立つ研究成果を創出し、地域のみならず国際社会に還元する。大学の資源を活用して地域の活性化、地域医療の充実に貢献する。</p> <p>本学は、地域学部、医学部、工学部及び農学部等で構成されており、執行部と各学部との意思疎通や学部間の共通認識が図りやすく、状況に応じて迅速に対応できるという特色を活かし、学長のリーダーシップの下に、学内の資源を有効に活用し、効率的・機動的な大学運営を推進して目標の達成に努める。</p>		
新 設 学 部 等 の 目 的	<p>医科学専攻では、医療の質を向上させ、医療現場のみならず地域社会の健康と福祉の向上に貢献し、社会において先導的な役割を担う人材の養成を目指す。その理念を達成するため、以下の教育目標を実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心と科学の両面を理解できる基盤的知識の修得 2. 医学的知識や研究・医療倫理の修得 3. 分野横断的かつ俯瞰的な知識に根差した思考力の涵養 4. 医科学の高度化に貢献できる研究力の涵養 <p>【博士前期課程】 医科学専攻の理念及び教育目標のもとに、基礎医学を土台として、医学・医療に応用できる科学分野である医科学の深い学識を涵養するとともに先端研究を行うことで、医学的知識を持ち、生命科学、再生医学、保健学分野における高い専門性と倫理観を備え研究能力を有する高度専門職業人を育成する。</p> <p>【博士後期課程】 医科学専攻の理念及び教育目標のもとに、真理の探究などの基礎医学の研究、診断・治療・予防の原理に関する基盤研究、健康維持増進の研究、トランスレーショナル医学の推進やイノベーションの創出を独立して行い、基礎医学教員や保健学教員、企業等の研究者、さらには将来の医科学関連の起業家を育成する。</p>		

教	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新	医学系研究科		人	人	人	人	人	人	
			設	医学系研究科	27 (27)	14 (14)	11 (11)	14 (14)	66 (66)
分	医学系研究科		22 (22)	13 (13)	4 (4)	8 (8)	47 (47)	0 (0)	17 (17)
	計		27 (27)	15 (15)	11 (11)	14 (14)	67 (67)	0 (0)	— (—)
員	持続性社会創生科学研究科		20 (22)	29 (31)	9 (9)	1 (1)	59 (63)	0 (0)	108 (109)
	地域学専攻 (博士前期課程)		57 (59)	40 (40)	5 (5)	31 (32)	133 (136)	0 (0)	81 (82)
組	工学専攻 (博士前期課程)		26 (28)	14 (14)	6 (6)	5 (5)	51 (53)	0 (0)	76 (76)
	農学専攻 (博士前期課程)		13 (13)	13 (13)	2 (2)	1 (1)	29 (29)	0 (0)	93 (94)
織	国際乾燥地科学専攻 (博士前期課程)		5 (5)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	15 (15)
	医学系研究科 臨床心理学専攻 (修士課程)		33 (33)	26 (26)	18 (18)	56 (56)	133 (133)	0 (0)	51 (51)
設	医学専攻 (博士課程)		14 (14)	9 (9)	3 (3)	6 (6)	32 (32)	0 (0)	0 (0)
	工学研究科 機械宇宙工学専攻 (博士後期課程)		14 (14)	13 (13)	1 (1)	7 (7)	35 (35)	0 (0)	0 (0)
の	情報エレクトロニクス専攻 (博士後期課程)		13 (14)	8 (8)	0 (0)	7 (7)	28 (29)	0 (0)	0 (0)
	化学・生物応用工学専攻 (博士後期課程)		13 (14)	7 (7)	1 (1)	11 (12)	32 (34)	0 (0)	0 (0)
概	社会基盤工学専攻 (博士後期課程)		35 (37)	27 (27)	5 (5)	5 (5)	72 (74)	0 (0)	16 (16)
	連合農学研究科 生産環境科学専攻 (博士課程)		25 (25)	14 (14)	1 (1)	2 (2)	42 (42)	0 (0)	29 (29)
分	生命資源科学専攻 (博士課程)		16 (16)	12 (12)	1 (1)	1 (1)	30 (30)	0 (0)	17 (17)
	国際乾燥地科学専攻 (博士課程)		12 (12)	14 (14)	2 (2)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	4 (4)
要	共同獣医学研究科 共同獣医学専攻 (博士課程)		5 (5)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
	乾燥地研究センター		1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
要	事務局		2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター		2 (2)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
要	国際乾燥地研究教育機構		8 (10)	17 (20)	1 (1)	2 (2)	28 (33)	0 (0)	292 (292)
	教育支援・国際交流推進機構		0 (1)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	4 (5)	0 (0)	0 (0)
要	総合メディア基盤センター		3 (3)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	39 (39)
	研究推進機構		1 (1)	2 (3)	0 (0)	0 (1)	3 (5)	0 (0)	33 (33)
要	地域価値創造研究教育機構		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (8)
	染色体工学研究センター		181 (190)	172 (178)	83 (83)	234 (236)	670 (687)	0 (0)	— (—)
要	計		205 (214)	184 (190)	93 (93)	247 (249)	729 (746)	0 (0)	— (—)
	合計		205 (214)	184 (190)	93 (93)	247 (249)	729 (746)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		294 人 (294)	359 人 (359)	653 人 (653)					
	技 術 職 員		1,186 (1,186)	89 (89)	1,275 (1,275)					
	図 書 館 専 門 職 員		13 (13)	0 (0)	13 (13)					
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	80 (80)	82 (82)					
	計		1,495 (1,495)	528 (528)	2,023 (2,023)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	250,060 m ²	0 m ²	0 m ²	250,060 m ²					
	運 動 場 用 地	123,946 m ²	0 m ²	0 m ²	123,946 m ²					
	小 計	374,006 m ²	0 m ²	0 m ²	374,006 m ²					
	そ の 他	9,321,100 m ²	0 m ²	0 m ²	9,321,100 m ²					
	合 計	9,695,106 m ²	0 m ²	0 m ²	9,695,106 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体					
	132,192 m ² (132,192 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	132,192 m ² (132,192 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	102 室	75 室	589 室	3 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	医学系研究科 医科学専攻 (博士前期課程)			55 室						
	医科学専攻 (博士後期課程)			37 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能のため、 大学全体の 数		
	医学系研究科医科学専攻	699,057 [191,625] (699,057 [191,625])	19,150 [8,892] (19,150 [8,892])	6,141 [4,761] (6,141 [4,761])	6,096 (6,096)	32,734 (32,734)	32 (32)			
	計	699,057 [191,625] (699,057 [191,625])	19,150 [8,892] (19,150 [8,892])	6,141 [4,761] (6,141 [4,761])	6,096 (6,096)	32,734 (32,734)	32 (32)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	6,014 m ²	915		657,439						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体			
	3,321 m ²	武道場, 弓道場, 陸上競技場, 野球場, テニスコート, ラグビー兼サッカー場, 水泳プール								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費 (運営費交付金) による	
	経費の見積り	教員1人当たり研究費等		—	—	—	—	—		—
		共同研究費等		—	—	—	—	—		—
		図書購入費	—	—	—	—	—	—		—
		設備購入費	—	—	—	—	—	—		—
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		—								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	鳥取大学							鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	地域学部	年	人	年次人	人		倍			
	地域学科	4	170	—	510	学士 (地域学)	1.04	平成29年度		
	地域創造コース	4	60	—	180	学士 (地域学)	1.07	平成29年度		
	人間形成コース	4	55	—	165	学士 (地域学)	1.04	平成29年度		
国際地域文化コース	4	55	—	165	学士 (地域学)	1.03	平成29年度			

既設大学等の状況	地域政策学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度	鳥取県米子市西町86番地	※平成29年度より学生募集停止（地域政策学科，地域教育学科，地域文化学科，地域環境学科）	
	地域教育学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度			
	地域文化学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度			
	地域環境学科	4	—	—	—	学士（地域学）	—	平成16年度			
	医学部							1.00	鳥取県米子市西町86番地	平成28年度3年次編入学定員減（看護学専攻△8人，検査技術科学専攻△5人） 平成30年度3年次編入学定員減（看護学専攻△2人）	
	医学科	6	105	2年次 ⁵	655	学士（医学）	1.00	昭和24年度			
	生命科学科	4	40	—	160	学士（生命科学）	1.04	平成2年度			
	保健学科							1.01			平成11年度
	看護学専攻	4	80	—	322	学士（看護学）	1.01	平成11年度			
	検査技術科学専攻	4	40	—	160	学士（保健学）	1.02	平成11年度			
	工学部							1.02	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	※平成27年度より学生募集停止（機械工学科，知能情報工学科，電気電子工学科，物質工学科，生物応用工学科，土木工学科，社会開発システム工学科，応用数理工学科）	
	機械物理系学科	4	115	—	460	学士（工学）	1.02	平成27年度			
	電気情報系学科	4	125	—	500	学士（工学）	1.03	平成27年度			
	化学バイオ系学科	4	100	—	400	学士（工学）	1.01	平成27年度			
	社会システム土木系学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.01	平成27年度			
	機械工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	知能情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	物質工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	生物応用工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	土木工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	社会開発システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度			
	応用数理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度			
	農学部							1.03	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地	※平成29年度より学生募集停止（生物資源環境学科） ※平成25年度より学生募集停止（獣医学科）	
	生命環境農学科	4	220	—	660	学士（農学）	1.03	平成29年度			
	生物資源環境学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成11年度			
	共同獣医学科	6	35	—	210	学士（獣医学）	1.04	平成25年度			
	獣医学科	6	—	—	—	学士（獣医学）	—	昭和24年度			
	持続性社会創生科学研究科								鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地		
博士前期課程											
地域学専攻	2	20	—	40		0.57	平成29年度				
地域創生コース	2	10	—	20	修士（地域学）	0.25	平成29年度				
人間形成コース	2	10	—	20	修士（教育学）	0.90	平成29年度				
工学専攻	2	165	—	330	修士（工学又は学術）	1.21	平成29年度				
農学専攻	2	46	—	92	修士（農学）	1.03	平成29年度				
国際乾燥地科学専攻	2	20	—	40	修士（農学又は学術）	0.85	平成29年度				

既設大学等の状況	地域学研究科								鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地		
	地域創造専攻	2	—	—	—	修士（地域学）	—	平成19年度		平成29年度より学生募集停止（地域創造専攻，地域教育専攻）	
	地域教育専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	—	平成19年度			
	医学系研究科								鳥取県米子市西町86番地		
	修士課程										
	臨床心理学専攻	2	6	—	12	修士（臨床心理学）	0.91	平成21年度			
	博士課程										
	医学専攻	4	30	—	120	博士（医学）	0.85	平成16年度			
	博士前期課程										
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士（生命科学）	0.70	平成6年度			
	機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士（再生医科学）	1.18	平成15年度			
	保健学専攻	2	14	—	28	修士（保健学）	1.06	平成16年度			
	博士後期課程										
	生命科学専攻	3	5	—	15	博士（生命科学）	0.46	平成8年度			
	機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士（再生医科学）	0.23	平成15年度			
	保健学専攻	3	4	—	12	博士（保健学）	0.83	平成20年度			
	工学研究科									鳥取県鳥取市湖山町	
	博士前期課程										
	機械宇宙工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度		平成29年度より学生募集停止（機械宇宙工学専攻，情報エレクトロニクス専攻，化学・生物応用工学専攻，社会基盤工学専攻）	
	情報エレクトロニクス専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度			
	化学・生物応用工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度			
	社会基盤工学専攻	2	—	—	—	修士（工学）	—	平成20年度			
	博士後期課程										
	機械宇宙工学専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.44	平成20年度			
	情報エレクトロニクス専攻	3	6	—	18	博士（工学）	0.55	平成20年度			
	化学・生物応用工学専攻	3	4	—	12	博士（工学）	1.00	平成20年度			
	社会基盤工学専攻	3	5	—	15	博士（工学）	0.40	平成20年度			
農学研究科									鳥取県鳥取市湖山町		
修士課程											
フィールド生産科学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成21年度		平成29年度より学生募集停止（フィールド生産科学専攻，生命資源科学専攻，国際乾燥地科学専攻）		
生命資源科学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成21年度				
国際乾燥地科学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成21年度				
連合農学研究科									鳥取県鳥取市湖山町		
博士課程											
生産環境科学専攻	3	8	—	8	博士（農学）	0.93	平成30年度				
生命資源科学専攻	3	7	—	7	博士（農学）	0.85	平成30年度				
国際乾燥地科学専攻	3	4	—	4	博士（農学）	1.75	平成30年度				

既設大学等の状況	生物生産科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成元年度	鳥取県鳥取市湖山町	平成30年度より学生募集停止（生物生産科学専攻，生物環境科学専攻，生物資源科学専攻，国際乾燥地科学専攻）
	生物環境科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成元年度		
	生物資源科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成元年度		
	国際乾燥地科学専攻	3	—	—	—	博士（農学）	—	平成21年度		
共同獣医学研究科										
	博士課程									
	共同獣医学専攻	4	5	—	5	博士（獣医学）	1.40	平成31年度		
附属施設の概要		<p>名称：附属図書館</p> <p>目的：教育・研究や学習に必要な図書館資料を収集・整理して利用に供するとともに，電子ジャーナルの導入，二次文献情報データベースの整理，情報リテラシー教育への参画などを通じて学内の学術情報の流通基盤として機能し，鳥取大学における教育・研究活動を支援することを目的とする。</p> <p>所在地：中央図書館；鳥取市湖山町南4丁目101番地 医学図書館；米子市西町86番地</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p>								規模等（土地面積・建物面積）は別表のとおり
		<p>名称：附属幼稚園</p> <p>目的：幼児を保育し，適当な環境を与えて，その心身の発達を助長するとともに，鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：鳥取市湖山町北2丁目465番地</p> <p>設置年月：昭和42年6月（平成16年4月大学附属に転換）</p>								
		<p>名称：附属小学校</p> <p>目的：初等普通教育を施し，併せて鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月：昭和26年4月（改称，平成16年4月大学附属に転換）</p>								
		<p>名称：附属中学校</p> <p>目的：中等普通教育を施し，併せて鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月：昭和26年4月（改称，平成16年4月大学附属に転換）</p>								
		<p>名称：附属特別支援学校</p> <p>目的：知的障害者及び軽度発達障害者に対して小学校，中学校又は高等学校に準ずる教育を施し，併せて特別な教育的ニーズに応じた支援を行い，また，鳥取大学の教育計画に従って，教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い，兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：鳥取市湖山町西2丁目149番地</p> <p>設置年月：昭和53年4月（附属養護学校を平成16年4月大学附属に転換，平成19年4月改称）</p>								
		<p>名称：地域学部附属芸術文化センター</p> <p>目的：地域の芸術文化の振興並びに創造，発展，継承及びその活用による地域振興を目的とした地域貢献事業並びにこれと関連する研究・教育を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月：平成16年4月</p>								
		<p>名称：地域学部附属子どもの発達・学習研究センター</p> <p>目的：地域学部の子どもの発達・学習に関する学際的な研究に一つのまとまった形を付与するとともに，教育・研究の枠組みを附属学校部と共有することを目的とする。</p> <p>所在地：鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月：平成26年4月</p>								
		<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：医学部附属施設として，患者を診療し，医学の教育と研究を行うことを目的とする。</p> <p>所在地：米子市西町36番地の1</p> <p>設置年月：昭和26年3月</p>								

附属施設の概要	<p>名称 :工学部ものづくり教育実践センター</p> <p>目的 :工学部附属の教育施設として、ものづくり教育を通じて科学技術とものづくりの重要性を啓発し、もって創造的人材の育成と併せて研究に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成16年4月</p>
	<p>名称 :工学部附属クロス情報科学研究センター</p> <p>目的 :鳥取県内外の産学官が連携して情報科学等関連産業に係る高度な技術者を育成するとともにコア技術の研究に取り組み、地域産業の活性化に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成20年4月(附属電子ディスプレイ研究センターを平成29年4月改称)</p>
	<p>名称 :工学部附属地域安全工学センター</p> <p>目的 :地域社会の安全・安心と持続的発展へ寄与するため、安全・防災システムの構築、地域公共システムの構築・整備や交通、防災および生活に関する地域情報のシステム化を目指すことを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成24年4月</p>
	<p>名称 :工学部附属グリーン・サステイナブル・ケミストリー研究センター</p> <p>目的 :グリーン・サステイナブル・ケミストリーを実現し、省エネで廃棄物を出さない化学合成法、自然界で再生産できるエネルギーの開発、再生可能材料の創製について研究し、人類社会の持続的発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成24年10月</p>
	<p>名称 :農学部附属フィールドサイエンスセンター</p> <p>目的 :農地や森林などのフィールドを活用した研究・教育・地域貢献を実践すること、さらに農学部における総合的なフィールド科学の情報発信基地としての機能を担うことを目的とする。</p> <p>所在地 :湖山農場;鳥取市湖山町南4丁目101番地 大塚農場;鳥取市大塚3-1 教育研究林湖山の森;鳥取市湖山町西4丁目110番地 " 三朝の森;鳥取県東伯郡三朝町大谷 " 伯耆の森;鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷 " 蒜山の森;岡山県真庭市蒜山上徳山</p> <p>設置年月 :昭和24年5月(附属農場、附属演習林を平成17年4月に統合)</p>
	<p>名称 :農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター</p> <p>目的 :自然生態系の維持、植物の成長促進やストレス耐性の付与、環境汚染物質の浄化など多様な機能を持つ菌類きのこに関し、高レベルで特色のある体系的な教育と研究を進め、優秀な人材の育成と、産業の活性化や新産業の創出を目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成17年4月</p>
	<p>名称 :農学部附属動物医療センター</p> <p>目的 :一般市民に対して動物診療を提供すると共に、獣医学の臨床教育および研究に資することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :昭和28年8月(附属家畜病院を平成22年4月改称)</p>
	<p>名称 :農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター</p> <p>目的 :鳥インフルエンザなど社会的にインパクトの大きな鳥由来人獣共通感染症における防疫対策を確立し、国家および地方防疫に貢献することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成17年4月</p>
	<p>名称 :農学部附属共同獣医学教育開発推進センター</p> <p>目的 :農学部及び岐阜大学応用生物科学部による共同教育を有効、かつ、効率的に実施するための教育方法及び教育内容を改善・開発・調整すること、及び連携・共同獣医学教育に関する情報を発信することにより獣医学教育の質の向上・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成25年4月</p>

附属施設の概要	<p>名 称 :医学系研究科臨床心理相談センター</p> <p>目 的 :地域住民に対する臨床心理相談及び臨床心理に関する援助活動並びに教育・研究を行うことを目的とする。</p> <p>所 在 地 :米子市西町36番地の1</p> <p>設置年月 :平成20年4月</p>
	<p>名 称 :共同獣医学研究科附属獣医学教育研究開発推進センター</p> <p>目 的 :大学院教育における鳥取及び岐阜両大学大学院共同獣医学研究科間のスムーズな連携体制の構築の実現や、学外連携機関との大学院教育・連携教育の推進を目指すとともに、獣医学に係る学段階と大学院の教育の接続の展開を図ることを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成31年4月</p>
	<p>名 称 :乾燥地研究センター</p> <p>目 的 :全国共同利用施設として、乾燥地の砂漠化防止及び開発利用に関する基礎的研究を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、この分野の研究に従事するものの利用に供することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市浜坂1390番地</p> <p>設置年月 :平成2年6月(農学部附属砂丘利用研究施設を転換し、設置)</p>
	<p>名 称 :国際乾燥地研究教育機構</p> <p>目 的 :乾燥地や開発途上国等に関する研究・教育を全学体制で展開し、我が国トップの研究教育拠点を形成することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市浜坂1390番地</p> <p>設置年月 :平成27年1月</p>
	<p>名 称 :教育支援・国際交流推進機構</p> <p>目 的 :鳥取大学における教育関係支援組織の連携により、機能的な組織を形成し、大学教育、学生支援等の充実及び国際交流の推進を図ることを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成20年4月(大学教育支援機構を平成29年4月改組)</p>
	<p>名 称 :入学センター</p> <p>目 的 :教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、入学者選抜制度の改善及び入学者選抜の円滑な実施を図るとともに、本学への入学希望者に対する総合的な広報活動等及びアドミッションポリシーに対応した学生募集を行うことを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成15年4月(アドミッションセンターを平成19年6月改組)</p>
	<p>名 称 :教育センター</p> <p>目 的 :教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、大学教育の円滑な実施を図るとともに、大学教育改善のための企画及び開発等を行い、大学教育及び学生支援の充実に寄与することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成15年4月(大学教育総合センターを平成20年4月改組)</p>
	<p>名 称 :学生支援センター</p> <p>目 的 :教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、学生生活支援全般に係る事項について、企画・開発等を行い学生支援活動の充実を寄与することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成26年4月</p>
	<p>名 称 :教員養成センター</p> <p>目 的 :教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学体制による教員養成等の円滑な実施を図るための企画・調整、教員養成に係るカリキュラムの開発・編成、教育実習の企画・立案及び現職教員の研修等を行うとともに、人間発達と学習能力形成に優れた質の高い実践的指導力を有する人材を養成し、その成果を広く地域に還元することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成25年2月</p>
	<p>名 称 :キャリアセンター</p> <p>目 的 :教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、全学的な立場による、大学教育の円滑な実施を図るとともにキャリア教育及び就職支援等の充実を寄与することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成22年4月</p>

附属施設の概要	<p>名 称 :国際交流センター</p> <p>目 的 :教育支援・国際交流推進機構の教育研究施設として、本学の国際化について企画・立案するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成15年4月(留学生センターを平成16年4月改称)</p>	
	<p>名 称 :総合メディア基盤センター</p> <p>目 的 :本学の学内共同教育研究施設として、本学の情報ネットワーク及びセンターの電子計算機システムを管理運用し、本学における研究、教育その他の業務のための共同利用に供するとともに、情報処理の円滑かつ効率的な推進を図ることを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成11年4月(総合情報処理センターを平成16年4月改組)</p>	
	<p>名 称 :研究推進機構</p> <p>目 的 :本学における研究活動の効果的かつ創造的な実施のための研究環境の機能強化を推進し、本学の研究力の一層の向上を図るとともに、研究成果を社会に還元することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地 米子市西町86番地</p> <p>設置年月 :平成15年4月(生命機能研究支援センター、産学連携推進機構を平成30年4月に統合)</p>	
	<p>名 称 :地域価値創造研究教育機構</p> <p>目 的 :地域価値を創造するための地域参加型研究及び地域実践型教育を融合的かつ全学的に推進すること等により、全国に先駆けて人口減少、少子・高齢化、産業空洞化等が進む地域の創生に貢献することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :平成29年10月(産学・地域連携推進機構を改組)</p>	
	<p>名 称 :染色体工学研究センター</p> <p>目 的 :染色体工学技術を基盤として、学問的、社会的に国際競争力のある研究および人材育成を実践することを目的とする。</p> <p>所 在 地 :米子市西町86番地</p> <p>設置年月 :平成21年4月</p>	
	<p>名 称 :保健管理センター</p> <p>目 的 :本学における学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い、健康の保持増進を図ることを目的とする。</p> <p>所 在 地 :鳥取市湖山町南4丁目101番地</p> <p>設置年月 :昭和44年4月</p>	

附属施設の規模等

〔鳥取地区〕		(単位: m ²)	
名 称	土 地	建 物	
		建面積	延面積
保健管理センター	508,118 (※1)	348	343
附属図書館		1,886	4,322
地域学部 附属芸術文化センター, 附属子どもの発達・学習研究センターを含む		3,027	9,615
工学部 ものづくり教育実践センター, 附属クロス情報科学研究センター, 附属地域安全工学センター, 附属グリーン・サステイナブル・ケミストリー研究センターを含む		10,227	33,504
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(湖山農場), 附属菌類きのこ遺伝資源研究センター, 附属動物医療センター, 附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター, 附属共同獣医学教育開発推進センター, 附属獣医学教育研究開発推進センターを含む		12,797	25,763
総合メディア基盤センター		0	0
教員養成センター		0	174
研究推進機構 地域価値創造研究教育機構を含む		1,119	2,347
共通教育棟 入学センター, 教育センター, 学生支援センター, キャリアセンター, 国際交流センターを含む		3,396	9,869
附属小学校, 附属中学校			5,830
附属特別支援学校	18,587	2,807	3,445
附属幼稚園	4,297	1,106	1,075
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林湖山の森)	(※2) 46,693	1,036	4,060
乾燥地研究センター 国際乾燥地研究教育機構を含む	978,344	8,268	10,881
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(大塚農場)	56,083	470	468

〔米子地区〕		(単位: m ²)	
名 称	土 地	建 物	
		建面積	延面積
医学部(一) 附属図書館医学図書館を含む	36,760 (※3)	13,159	38,510
附属病院	52,928 (※4)	26,177	91,486
医学部(二) 研究推進機構, 染色体工学研究センターを含む	45,113	3,098	11,441

〔その他の地区〕		(単位: m ²)	
名 称	土 地	建 物	
		建面積	延面積
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林三朝の森)	1,865,902	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林伯耆の森)	332,882	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林蒜山の森)	5,732,636	1,268	1,372

※1 本部管理棟その他, 大学院連合農学研究科, 鳥取地区放射線施設, 職員宿舎を含む。

※2 国際交流会館, 職員宿舎を含む。

※3 職員宿舎を含む。

※4 職員宿舎を含む。

鳥取大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
鳥取大学				鳥取大学				
地域学部				地域学部				
地域学科	170	-	680	地域学科	170	-	680	
医学部				医学部				
医学科(6年制)	105	5 ^{2年次}	530	医学科(6年制)	80	5 ^{2年次}	505	
生命科学科	40	-	160	生命科学科	40	-	160	
保健学科	120	-	480	保健学科	120	-	480	
工学部				工学部				
機械物理系学科	115	-	460	機械物理系学科	115	-	460	
電気情報系学科	125	-	500	電気情報系学科	125	-	500	
化学バイオ系学科	100	-	400	化学バイオ系学科	100	-	400	
社会システム土木系学科	110	-	440	社会システム土木系学科	110	-	440	
農学部				農学部				
生命環境農学科	220	-	880	生命環境農学科	220	-	880	
共同獣医学科(6年制)	35	-	210	共同獣医学科(6年制)	35	-	210	
計	1,140	5 ^{2年次}	4,740	計	1,115	5 ^{2年次}	4,715	
鳥取大学大学院				鳥取大学大学院				
持続性社会創生科学研究科				持続性社会創生科学研究科				
地域学専攻(M)	20	-	40	地域学専攻(M)	20	-	40	
工学専攻(M)	165	-	330	工学専攻(M)	165	-	330	
農学専攻(M)	46	-	92	農学専攻(M)	46	-	92	
国際乾燥地科学専攻(M)	20	-	40	国際乾燥地科学専攻(M)	20	-	40	
医学系研究科				医学系研究科				
医学専攻(4年制D)	30	-	120	医学専攻(4年制D)	30	-	120	
				<u>医科学専攻(M)</u>	<u>35</u>	-	<u>70</u>	専攻の設置(事前伺い)
				<u>医科学専攻(D)</u>	<u>8</u>	-	<u>24</u>	専攻の設置(事前伺い)
生命科学専攻(M)	10	-	20	<u>0</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
生命科学専攻(D)	5	-	15	<u>0</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
機能再生医科学専攻(M)	11	-	22	<u>0</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
機能再生医科学専攻(D)	7	-	21	<u>0</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
保健学専攻(M)	14	-	28	<u>0</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
保健学専攻(D)	4	-	12	<u>0</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
臨床心理学専攻(M)	6	-	12	<u>0</u>	<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成32年4月学生募集停止
工学研究科				工学研究科				
機械宇宙工学専攻(D)	6	-	18	機械宇宙工学専攻(D)	6	-	18	
情報エレクトロニクス専攻(D)	6	-	18	情報エレクトロニクス専攻(D)	6	-	18	
化学・生物応用工学専攻(D)	4	-	12	化学・生物応用工学専攻(D)	4	-	12	
社会基盤工学専攻(D)	5	-	15	社会基盤工学専攻(D)	5	-	15	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生産環境科学専攻(D)	8	-	24	生産環境科学専攻(D)	8	-	24	
生命資源科学専攻(D)	7	-	21	生命資源科学専攻(D)	7	-	21	
国際乾燥地科学専攻(D)	4	-	12	国際乾燥地科学専攻(D)	4	-	12	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
共同獣医学専攻(4年制D)	5	-	20	共同獣医学専攻(4年制D)	5	-	20	
計	383	-	892	計	<u>375</u>	-	<u>868</u>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学系研究科医科学専攻（博士前期課程）)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤的教育科目	基礎医科学概論	1前	1			○			4					兼1	オムニバス
	実用的解剖学特論	1前	1			○								兼1	オムニバス
	実用的生理学特論	1前	1			○				1				兼1	共同
	薬理学・薬物療法学特論	1前	1			○								兼2	オムニバス
	医療倫理学特論	1前	1			○				1		1		兼1	遺伝カウ オムニバス
	医療安全学特論	1前	1			○			2					兼4	オムニバス
	知財戦略特論 I	1前	1			○			1					兼3	オムニバス・ 共同（一部）
	小計（7科目）	—	7	0	0	—	—	—	7	2	0	1	0	兼12	—
分野横断的科目	知財戦略演習 I	1後		1			○		1					兼1	共同
	腫瘍医療学特論	1後		2		○			3	1					オムニバス
	認知症予防学特論	1前		2		○			2		1	1			オムニバス
	地域医療システム学特論	1後		1		○			2	1		1			オムニバス
	病態生理学特論	1前		2		○			5						がん看護 オムニバス
	臨床薬理学特論	1前		2		○			2						がん看護 オムニバス
	医療統計解析学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	統計ソフトウェア演習	1後		2			○		2						共同
	ストレス医療学特論	1前		2		○			1						
	教育の原理と方法	1後		2		○			1		1	1			オムニバス
	小計（10科目）	—	0	18	0	—	—	—	13	3	2	3	0	兼1	—
専門家養成科目（医科学）	医療機器開発特論	1後		2		○			1					兼3	オムニバス・ 共同（一部）
	分子神経科学特論	1前		2		○			1			3			オムニバス
	システム神経科学特論	1前		2		○			1			3			オムニバス
	細胞分化・老化機構学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	細胞工学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	遺伝子医科学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	再生医科学特論	1前		2		○			1			2			オムニバス
	遺伝子再生医科学演習	1通		2			○		1	1					共同
	再生医工学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	再生医工学演習	1通		2			○		1	1					共同
	遺伝子治療学特論	1前		2		○				1					
	遺伝子治療学演習	1通		2			○			1					
	細胞分子機構学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	細胞分子機構学演習	1通		2			○		1	1					共同
	免疫認識学特論	1前		2		○				1					
	免疫認識学演習	1通		2			○			1					
	発生生物学特論	1後		2		○			1						
	発生生物学演習	1通		2			○		1						
	実験腫瘍病理学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	実験腫瘍病理学演習	1通		2			○		1	1					共同
	神経病態・遺伝子疾患学特論	1前		2		○			1		1				オムニバス・ 共同（一部）
	神経病態・遺伝子疾患学演習	1後		2			○		1		1				オムニバス
	病態細胞学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	病態細胞学演習	1後		2			○		1	1					オムニバス
	病態制御学特論	1前		2		○			1		2				オムニバス
	病態制御学演習	1後		2			○		1		1				オムニバス
	生体機能・情報解析学特論	1前		2		○			1	1	1				オムニバス
生体機能・情報解析学演習	1後		2			○		1		1				オムニバス	
環境科学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス	
環境科学演習	1後		2			○		1	1					オムニバス	
認知症予防学演習	1後		2			○		2		1	1			オムニバス	

専 門 家 養 成 科 目 (医 科 学)	基礎人類遺伝学特論Ⅰ	1前		2		○			3	1				兼1	遺伝カウ オムニバス
	基礎人類遺伝学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1				兼1	遺伝カウ オムニバス
	基礎人類遺伝学演習Ⅰ	1前		1			○		2					兼1	遺伝カウ オムニバス
	基礎人類遺伝学演習Ⅱ	1後		1			○		3	1	1				遺伝カウ オムニバス
	臨床遺伝学特論	1前		1		○			1						遺伝カウ
	臨床遺伝学演習	1後		1			○		1						遺伝カウ
	遺伝サービス情報学演習	1前		1			○		3	1	1			兼2	遺伝カウ オムニバス
	遺伝医療と社会特論	1後		1		○			1	1	1	1			遺伝カウ オムニバス
	遺伝医療と倫理演習	1後		1			○		1	2				兼1	遺伝カウ オムニバス
	遺伝カウンセリング特論	1前		2		○				1				兼7	遺伝カウ オムニバス
	遺伝カウンセリング演習Ⅰ	1後		1			○		1	1					遺伝カウ オムニバス・ 共同(一部)
	遺伝カウンセリング演習Ⅱ	2前		1			○		1	1				兼1	遺伝カウ オムニバス・ 共同(一部)
	遺伝カウンセリング実習Ⅰ	1後		2				○	2	1	1	1		兼1	遺伝カウ 共同
	遺伝カウンセリング実習Ⅱ	2通		4				○	2	1	1	1		兼1	遺伝カウ 共同
小計(45科目)	—	0	83	0	—	—	—	18	11	6	7	0	兼12	—	
専 門 家 養 成 科 目 (保 健 学)	看護管理学特論	1後		2		○			1					兼1	がん看護 オムニバス
	看護理論	1前		2		○			2	1				兼4	がん看護 オムニバス
	生活機能看護学特論	1前		2		○			1		1			兼4	オムニバス
	生活機能看護学演習	1後		2			○		1		1				オムニバス
	成人看護学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	成人看護学演習	1後		2			○		1	1					オムニバス
	高齢者看護学特論	1前		2		○			1						
	高齢者看護学演習	1後		2			○		1						
	地域母子看護学特論	1前		2		○			3		1				オムニバス
	地域母子看護学演習	1後		2			○		3		1				オムニバス
	成育看護学特論	1前		2		○			3		1				オムニバス
	成育看護学演習	1後		2			○		3		1				オムニバス
	統合支援看護学特論	1後		2		○			2		1				オムニバス
	統合支援看護学演習	1後		2			○		1		1				オムニバス
	精神保健学特論	1前		2		○			1						
	精神保健学演習	1後		2			○		1						
	看護コンサルテーション特論	1前		2		○			1						がん看護
	看護倫理学特論	1前		2		○			1						がん看護
	看護学研究方法特論	1前		2		○			1						がん看護
	看護教育学特論	1後		2		○			1						がん看護
	フィジカルアセスメント特論	1前		2		○			5	1	1				がん看護 オムニバス
	がん看護に関する病態生理学	1前		2		○			3	1					がん看護 オムニバス
	がん看護に関する理論	1前		2		○			2	1					がん看護 オムニバス
がん治療支援に関わる看護援助論	1前		2		○			2	1	1				がん看護 オムニバス	
緩和ケア特論Ⅰ	1前		2		○			2		1				がん看護 オムニバス	
緩和ケア特論Ⅱ	1後		2		○			1		2				がん看護 オムニバス	
緩和ケア演習Ⅰ	1後		2			○		2						がん看護 オムニバス	
緩和ケア演習Ⅱ	1後		2			○		1						がん看護	
がん看護学実習Ⅰ	1後		2				○		1					がん看護	
がん看護学実習Ⅱ	1後		2				○		1					がん看護	
がん看護学実習Ⅲ	2前		6				○		1					がん看護	
小計(31科目)	—	0	66	0	—	—	—	14	3	5	0	0	兼5	—	
特 別 研 究	医科学特別研究	1～2		10			○		15	10	4	8			遺伝カウ
	保健学特別研究	1～2		10			○		10	3					がん看護
	小計(2科目)		0	20	0	—	—	25	12	4	8	0	0	—	
合計(95科目)		—	7	187	0	—	—	27	14	11	14	0	兼27	—	
学位又は称号	修士(医科学) 修士(保健学)		学位又は学科の分野				医学関係、保健衛生学関係(看護学関係)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>医学系研究科医科学専攻（博士前期課程）に2年以上在学し、基盤的教育科目、分野横断的科目、専門家養成科目及び特別研究の各条件を満たして修得した単位の合計が30単位以上で、かつ学位論文（修士）の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>また、認定遺伝カウンセラー®の受験資格の取得を目指す学生及びがん看護専門看護師の専門看護師教育課程の修了を目指す学生については、以下の指定された授業科目の必要単位数を修得し、かつ学位論文（修士）の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>基盤的教育科目、分野横断的科目、専門家養成科目及び特別研究の各修得条件は、以下のとおりである。</p> <p>○基盤的教育科目から7単位修得すること。</p> <p>○分野横断的科目から1単位以上修得すること。</p> <p>ただし、がん看護専門看護師の専門看護師教育課程の修了を目指す学生については、「病態生理学特論」、「臨床薬理学特論」を含め4単位以上を修得すること。</p> <p>○専門家養成科目から以下の条件を満たすこと。 修士（医科学）の学位を取得するためには、専門家養成科目（医科学）から8単位以上を修得すること。修士（保健学）の学位を取得するためには、専門家養成科目（保健学）から8単位以上を修得すること。</p> <p>ただし、認定遺伝カウンセラー®の受験資格の取得を目指す学生については、専門家養成科目（医科学）のうち「基礎人類遺伝学特論Ⅰ」、「基礎人類遺伝学特論Ⅱ」、「基礎人類遺伝学演習Ⅰ」、「基礎人類遺伝学演習Ⅱ」、「臨床遺伝学特論」、「臨床遺伝学演習」、「遺伝サービス情報学演習」、「遺伝医療と社会特論」、「遺伝医療と倫理演習」、「遺伝カウンセリング特論」、「遺伝カウンセリング演習Ⅰ」、「遺伝カウンセリング演習Ⅱ」、「遺伝カウンセリング実習Ⅰ」、「遺伝カウンセリング実習Ⅱ」の21単位を修得すること。</p> <p>がん看護専門看護師の専門看護師教育課程の修了を目指す学生については、専門家養成科目（保健学）のうち「看護コンサルテーション特論」、「看護倫理学特論」、「看護学研究方法特論」、「看護教育学特論」、「看護管理学特論」、「看護理論」から8単位以上、「フィジカルアセスメント特論」、「がん看護に関する病態生理学」、「がん看護に関する理論」、「がん治療支援に関わる看護援助論」、「緩和ケア特論Ⅰ」、「緩和ケア特論Ⅱ」、「緩和ケア演習Ⅰ」、「緩和ケア演習Ⅱ」、「がん看護学実習Ⅰ」、「がん看護学実習Ⅱ」、「がん看護学実習Ⅲ」の26単位、合計34単位以上を修得すること。</p> <p>○特別研究から、修士（医科学）の学位を取得するためには「医科学特別研究」10単位を、修士（保健学）の学位を取得するためには「保健学特別研究」10単位を修得すること。</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学系研究科医科学専攻(博士後期課程))															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科基盤的教育	医科学研究特論	1前	1			○			1						
	生命・医療倫理学特論	1前	1			○				1				兼5 オムニバス	
	高次基盤医学特論	1前	1			○								兼8 オムニバス	
	小計(3科目)	—	3	0	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼13 —	
スペシャリスト教育科目(医科学)	知財戦略特論Ⅱ	1前		2		○								兼4 オムニバス・共同(一部)	
	知財戦略演習Ⅱ	1前		1			○							兼2 共同	
	分子応答制御学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1				オムニバス	
	分子応答制御学演習Ⅰ	1前		1			○		1	1				共同	
	感染防御機構学特論Ⅰ	1前		2		○				1					
	感染防御機構学演習Ⅰ	1前		1			○			1					
	高次発生生物学特論Ⅰ	1前		2		○			1						
	高次発生生物学演習Ⅰ	1前		1			○		1						
	先端腫瘍学特論Ⅰ	1前		2		○			1	1					オムニバス
	先端腫瘍学演習Ⅰ	1前		1			○		1	1					共同
	行動神経科学特論	1前		2		○			1			3			オムニバス
	行動神経科学演習	1前		1			○		1			3			共同
	遺伝子・染色体機能医科学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	遺伝子・染色体機能医科学演習	1前		1			○		1	1					共同
	分子医学特論	1前		2		○				1					
	分子医学演習	1前		1			○			1					
	腫瘍生物学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	腫瘍生物学演習	1前		1			○		1	1					共同
	循環再生医学特論	1前		2		○			1	1					オムニバス
	循環再生医学演習	1前		1			○		1	1					共同
	先進保健学特論	1前		2		○			4	2					オムニバス
小計(21科目)	—	0	32	0	—	—	—	11	9	0	3	0	兼4 —		
育スペシャリスト教育科目(保健学)	統合保健学研究方法特論	1前		2		○			4	1	1				オムニバス
	成人・高齢者保健学特論	1前		2		○			3	1	1				オムニバス
	成育地域保健学特論	1前		2		○			3	1					オムニバス
	地域保健学特論	1前		2		○			3		1				オムニバス
小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	11	3	2	0	0	0	—	
アドバンス教育科目(医科学)	分子応答制御学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					オムニバス
	分子応答制御学演習Ⅱ	1後		1			○		1	1					共同
	感染防御機構学特論Ⅱ	1後		2		○				1					
	感染防御機構学演習Ⅱ	1後		1			○			1					
	高次発生生物学特論Ⅱ	1後		2		○			1						
	高次発生生物学演習Ⅱ	1後		1			○		1						
	先端腫瘍学特論Ⅱ	1後		2		○			1	1					オムニバス
	先端腫瘍学演習Ⅱ	1後		1			○		1	1					共同
	神経機能再生学特論	1後		2		○			1						
	神経機能発達学特論	1後		2		○			1						
	染色体医科学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	染色体医科学演習	1後		1			○		1	1					共同
	腫瘍生物応用医科学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	腫瘍生物医科学演習	1後		1			○		1	1					共同
	組織工学特論	1後		2		○			1	1					オムニバス
	組織工学演習	1後		1			○		1	1					共同
腫瘍治療学特論	1後		2		○				1						
腫瘍治療学演習	1後		1			○			1						
先進保健学統合演習	1後		1			○		4	2					オムニバス	
先進保健学探索演習	1後		1			○		4	2					オムニバス	
小計(20科目)	—	0	30	0	—	—	—	11	9	0	0	0	0	—	

アドバンス教育科目(保健学)	成人・高齢者保健学統合演習	1後		1			○		3	1	1				オムニバス
	成人・高齢者保健学探索演習	1後		1			○		3	1	1				オムニバス
	成育地域保健学統合演習	1後		1			○		3	1					オムニバス
	成育地域保健学探索演習	1後		1			○		3	1					オムニバス
	地域保健学統合演習	1後		1			○		3		1				オムニバス
	地域保健学探索演習	1後		1			○		3		1				オムニバス
	小計(6科目)	—	0	6	0		—		9	2	2	0	0	0	—
特別研究	統合医科学特別研究	1~3		4			○		12	9	4	8			
	統合保健学特別研究	1~3		4			○		9						
	小計(2科目)	—	0	8	0		—		21	9	4	8	0	0	—
合計(56科目)		—	3	84	0		—		22	13	4	8	0	兼17	—
学位又は称号	博士(医科学) 博士(保健学)		学位又は学科の分野				医学関係、保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
<p>医学系研究科医科学専攻(博士後期課程)に3年以上在学し、基盤的教育科目、スペシャリスト教育科目、アドバンス教育科目及び特別研究の各条件を満たして修得した単位の合計が12単位以上で、かつ学位論文(博士)の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>基盤的教育科目、スペシャリスト教育科目、アドバンス教育科目及び特別研究の各修得条件は、以下のとおりである。</p> <p>○基盤的教育科目から3単位修得すること。</p> <p>○スペシャリスト教育科目から2単位以上、アドバンス教育科目から1単位以上を修得し、合計5単位以上を修得すること。 ただし、博士(医科学)の学位を取得するためには、スペシャリスト教育科目(医科学)から2単位以上を、アドバンス教育科目(医科学)から1単位以上を修得すること。博士(保健学)の学位を取得するためには、スペシャリスト教育科目(保健学)から2単位以上を、アドバンス教育科目(保健学)から1単位以上を修得すること。</p> <p>○特別研究から、博士(医科学)の学位を取得するためには、「統合医科学特別研究」の4単位を、博士(保健学)の学位を取得するためには、「統合保健学特別研究」の4単位を修得すること。</p> <p>また、本医科学専攻の博士前期課程を経ずに、博士後期課程に入学する者については、入学試験問題による選抜のうえで、入学決定後、入学までに基礎医学知識を身につけさせるため、博士前期課程の基盤的教育科目のうち「実用的解剖学特論」、「実用的生理学特論」、「薬理学・薬物療法学特論」について、単位外として入学前にe-learning教材の視聴を促す。さらに、入学後、博士前期課程の基盤的教育科目のうち「基礎医科学概論」を単位外として履修させる。</p>									1学年の学期区分			2学期			
									1学期の授業期間			15週			
									1時限の授業時間			90分			

授 業 科 目 の 概 要			
（医学系研究科医科学専攻（博士前期課程））			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤的教育科目	基礎医科学概論	<p>（概要）</p> <p>生命現象を解明する生命科学と人間を理解し健康と福祉に貢献する保健学を融合させ、どのように自らの学びや研究に生かしてゆくべきかを学生と共に討議して、心と科学の統合を指向した医科学について俯瞰的に理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（2 竹内 隆／2回）</p> <p>生命科学の研究の理念と手法、発想法について講義するとともに、対面式授業により、学生同士によるディスカッションを通じたグループワークを行い、上記内容の理解を深める。</p> <p>（7 久留 一郎／2回）</p> <p>医学はその発展の歴史から病気がいかにして発生し、人を障害し、如何に癒すのかを自然科学的に明らかにすることに主眼が置かれてきた。一方で人は如何に生き如何に死ぬべきかという哲学的問題は哲学や看護学や保健学で取り扱われてきた。我が国の超高齢化社会を迎えて、疾患を科学する流れに加えて、如何に生きそして死んでゆくべきかという問題は緩和ケアの観点からも最近大いに議論されている。そこで2回に渡って自然科学としての医学に哲学的思考をどのように生かしてゆくべきかを講義し、学生と共に討議して行きたい【オムニバス方式】第1回：医学の発展の歴史と自然科学、第2回：医学の発展の歴史と哲学との関連</p> <p>（68 渡邊 達生／2回）</p> <p>本講義では、「生命」について生物学的視点から追求する。「エネルギー産生により物理的法則に逆らって存在する」ことが「生命」の科学的本質であることを理解するとともに、体温調節を例にとりながら、ホメオスターシスと「生命」の関連を学習する。対面授業を行い、異なる分野の学生間のディスカッションを行う。</p> <p>（9 深田 美香／1回）</p> <p>医療は複雑性、不確実性、一回性という特徴を内在している。医療という臨床の場に立つ専門職には、そこで生起する現象を外から見る科学的態度と内から知る哲学的態度が求められる。個々人が望む自分らしい生（死を含む）を支援する営みには、「関係性と全体性」を根源とするケアと「帰納的・経験的な合理性」を包含するサイエンスの相補、つまり、医科学の知識とその創造が重要な意味をもつ。そこで、看護学を「ケアとしての科学」の観点から説明し、関係性、個別性・多様性、内発性を手掛かりに、医科学の医療への貢献可能性について議論を深める。</p> <p>（23 鰐岡 直人／1回）</p> <p>医学は人間に恩恵をもたらしてきた。背景に多くの研究者の成果がある。例として、人間に厄災を生じさせる微生物の発見がある。その後、感染症に対応した病原体の診断法と治療法の開発に結びついた。また、人間が特定の疾病に罹患したときの生理学的変化のパターンがあり、多くの臨床検査法が開発されてきた。近年においては、Internet of Things (IoT) を用いた診断装置も実臨床に応用されている。医学に関連した臨床検査学の発展と今後の展望に関して講義し学生と共に討議する。</p>	オムニバス方式
	実用的解剖学特論	<p>人体の構造と機能の理解を深めながら、臨床的に有用な実用的解剖学を学修して、疾患や治療を理解できる能力を修得する。循環器系では、心臓および全身の重要血管について解剖学的特徴を学習するとともに、循環器疾患と最新治療に関係する解剖学を修得する。神経系では、末梢神経の走行や支配領域を理解して神経疾患の症状について考察できる能力を修得する。運動器系ではスポーツ医学やロコモティブシンドロームを意識しながら、筋、関節、骨に関する解剖学的理解を深める。</p>	

基盤的教育科目	実用的生理学特論	<p>生体は37兆個の細胞が様々な臓器を形成し、それぞれがお互いに調和を取りながら、全体としてその生命を維持している。この生体の基本的機能を教授するとともに、機能異常になったために起こる疾病について病態生理学的観点から講義する。循環・免疫・神経系・内分泌・代謝の正常と異常についてe-learningの教材を使用しながら理解を深める。医学教育者、技術開発者（創薬を含む）、地域支援実践者の養成の基盤となる授業を目標とする。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。</p>	共同
	薬理学・薬物療法学特論	<p>（概要） 様々な疾患・病態に対する新規治療薬の開発には、治療標的を抽出する能力が求められる。本講義ではいくつかの疾患・病態を取り上げ、各種治療薬の作用点、作用機序および薬理作用について学び、治療標的を探索する上での基本的知識を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（69 今村 武史／6回） 内分泌代謝系疾患治療薬を取り上げ、上述の講義を行う。</p> <p>（80 三明 淳一郎／2回） 心血管系疾患治療薬を取り上げ、上述の講義を行う。</p>	オムニバス方式
	医療倫理学特論	<p>（概要） 医療倫理学特論では、医科学専攻必修科目として、医療および医科学研究における倫理問題についての基本的な知識と思考力を養うための授業を行う。全8回のうちの6回は生命倫理・医療倫理を専門とする安藤泰至が担当し、他の1回ずつを研究倫理が専門の遠藤佑輔と、医学教育が専門の高橋洋一が担当する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（35 安藤 泰至／6回） 前半の4回は、医療においてなぜ「倫理」が重要なのか、「インフォームド・コンセント」の歴史と現状、医科学研究の文化と研究倫理、および医療者の守秘義務と個人情報保護について解説する。後半の2回は、出産・誕生をめぐる医療倫理問題と死をめぐる医療倫理問題について、国内外の議論の現状を紹介する。</p> <p>（86 遠藤 佑輔／1回） 医科学研究のなかで臨床研究とはどのようなものかを説明した上で、これまでの歴史的経緯やさまざまな問題事例（事件）、および現行の法律や指針について解説し、臨床研究を行ううえで遵守すべき倫理指針及び信頼性確保のための方策について授業する。</p> <p>（64 高橋 洋一／1回） インフォームド・コンセントや患者の自己決定権といった理念が医療現場のなかで実効性をもつためには、医療者と患者の関係のさまざまなあり方と、それに対応するコミュニケーションのあり方についての体験的理解が必要であることについて、事例についての簡単なグループワークを併用しつつ体得させる。</p>	オムニバス方式

<p>基盤的教育科目</p>	<p>医療安全学特論</p>	<p>(概要) 医療安全の概要、感染対策、医薬品安全、医療機器安全、インフォームドコンセントなどについて医療安全学を修得する。安全管理をめぐる取り組みの動向を理解することとともに、医療現場の課題について専門的知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(10 片岡 英幸／3回) 医療安全の概要、重要医療事故など紹介し医療安全の歴史に触れ、医療事故防止への対応、チーム医療の必要性を考察する。医療機器、人工呼吸器、血液透析、人工心肺、医療事故調査、事故発生時の対応、気道閉塞、気管切開チューブ管理、誤嚥、緊急気管切開、チーム医療などについて教授する。</p> <p>(8 萩野 浩／1回) 身体的機能、精神的機能、活動状況、施設設備などの環境要因、危険度の把握、監視体制、ケア提供者側の要素などの転倒・転落における発生要因、改善策について教授する。</p> <p>(71 稲垣 喜三／1回) 患者安全を念頭に置いた「高次集中治療室での鎮静と鎮痛」、「検査や処置時の鎮静と鎮痛」、「病棟での鎮静と鎮痛」を概説し、鎮静・鎮痛における使用薬物の適応や患者監視モニタリングの必要性について講義する。</p> <p>(72 黒崎 雅道／1回) インフォームドコンセントの実践には、患者の自己決定権を尊重し、患者・家族と医療者との信頼関係の形成が重要で、より良いチーム医療を実践するために必要な説明、同意、記録などについて教授する。</p> <p>(78 島田 美樹／1回) 医薬品の用法・用量、禁忌、相互作用、副作用、安全性、医薬品取り扱い、医薬品の安全管理・保管上の注意、取り間違い防止、医薬品情報の提供などについて教授する。</p> <p>(77 千酌 浩樹／1回) 院内感染の多剤耐性菌、アウトブレイク発生予防、抗菌薬の適正な選択と使用、医療器具の消毒・滅菌、病院環境の衛生管理、手洗い、手指消毒など感染制御の対策について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>知財戦略特論 I</p>	<p>(概要) 特許権を中心とした知的財産権に関する基礎知識のほか、発明品が特許に値するものかどうかを調べるときのJ-PlatPatでの検索方法を学ぶとともに、どのような発明が特許として認められるのかについて実例をもとに学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(26 植木 賢・83 上原 一剛／4回) (共同) 人間の創造活動により生み出される無形財産である知的財産について概説するとともに、これらの知的財産を保護する法律上の権利である知的財産権に関する基礎知識を教授する。また、発明品が特許に値するかどうかを調べるときに用いられるJ-PlatPatでの検索方法や、検索結果の整理法についてパテントマップを取り上げて説明する。</p> <p>(87 大原 高秋／2回) 発明、デザイン、ブランド、営業秘密、著作物などの具体例を取り上げて産業財産権(特許権、実用新案権、意匠権、商標権)に関する基礎知識を教授する。</p> <p>(93 中西 康裕／2回) 特許権に関する基礎知識として特許制度(特許出願手続き、特許明細書、特許権の保護・権利行使など)について概説し、どのような発明が特許として認められるのかについて実例をもとに解説する。</p>	<p>オムニバス方式・共同(一部)</p>
<p>分野横断的科目</p>	<p>知財戦略演習 I</p>	<p>研究開発現場へ参加して現場でのニーズや課題を抽出し、その課題に対する解決策をグループワークによるディスカッションを通じて見出していく演習を行うとともに、この過程で得られた発明を、知的財産権に仕上げるための演習も行う。対象領域の周辺技術に関する知的財産に関する情報収集などの実習も実施する。</p>	<p>共同</p>

分野横断的科目	腫瘍医療学特論	<p>(概要) 腫瘍の発生、病理学(細胞診、組織検査とその技術を含む)、診断および治療について、遺伝子の観点も含めて肝腫瘍、骨・軟部腫瘍、肺腫瘍、造血器腫瘍、大腸腫瘍など例を挙げて講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(22 北村 幸郷/8回) 腫瘍の診断および治療に必要な、腫瘍の概念、腫瘍の病理学総論を細胞診、組織検査とその技術を含めて習得し、各論として肝腫瘍を中心に、病理学的特徴、診断、治療について講義する。</p> <p>(8 萩野 浩/1回) 骨腫瘍における骨代謝についてその病態を説明する。健全な骨代謝状態と比較して骨吸収と骨形成のアンカップリングについての理解を図る。 骨軟部悪性腫瘍の治療について化学療法と外科的治療について、実際の治療例を提示して説明する。</p> <p>(23 齋岡 直人/2回) 肺癌の診断と治療について講義する。肺癌は特定の遺伝子変異があれば分子標的治療薬が有効な癌である。分子生物学的観点から説明する。</p> <p>(39 中川 真由美/4回) 腫瘍の発生や進展には、先天的な異常や、複数の遺伝子が多段階の過程で変異し蓄積したものが関係している。そこで、腫瘍の診断や原因究明には遺伝子解析が非常に有用であり、基礎的な遺伝子解析法を解説したのち、造血器腫瘍として白血病、固形腫瘍として大腸癌を例に挙げて講義を行う。</p>	オムニバス方式
	認知症予防学特論	<p>(概要) 認知症予防における一次予防、二次予防、三次予防を講義する。認知症の定義、認知症をきたす疾患、診断、治療、看護、ケアについて講義する。アルツハイマー病のバイオマーカーの現状使用可能なものと研究開発中のものを講義する。診断と治療評価に必要な臨床検査について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 浦上 克哉/11回) 認知症の定義、認知症をきたす疾患、診断、治療、予防について講義する。認知症をきたす疾患については、4大認知症(アルツハイマー病、レビー小体病、血管性認知症、前頭側頭型認知症)の原因、病態、診断法、治療を正しく理解する。治療については、薬物治療と非薬物治療の両者を講義する。さらに、海外での認知症対策についても紹介する。</p> <p>(12 山本 美輪/2回) 認知症高齢者が住み慣れた地域での生活や”その人らしさ”を支える看護の総合的な理解を深めるため、加齢に伴う身体的変化を理解し、認知機能低下予防の視点を踏まえた認知症高齢者やその家族のQOLを考えた看護、ケアについて考察する。山本美輪 (2回)</p> <p>(48 高村 歩美/1回) アルツハイマー病のバイオマーカーの現状使用可能なものと研究開発中のものを講義する。</p> <p>(63 河月 稔/1回) 認知症の診断と治療評価に必要な臨床検査について講義する。</p>	オムニバス方式

分野横断的科目	地域医療システム学特論	<p>(概要) 地域で提供されている医療について、システム理論、ケアシステム論、ソーシャルサポート論などについて概説し、在宅療養者やその家族等、地域医療ケアシステムを必要とする健康問題への考察を通して地域ケアシステムの意義や構築手法について学ぶ。また、事例等を通して、ケアシステムの現状と課題、住民とのネットワークや共同活動の重要性、資源開発等の手法について学び、医療・看護職の役割について考察を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(14 鈴木 康江／3回) 地域周産期医療を中心に、産後包括支援、地域での育児支援の在り方、行政、施策との関係などについて解説する。</p> <p>(62 徳嶋 靖子／3回) 地域の高齢者を中心に地域ケアシステムについて解説。実践例を紹介しながら、地域医療・保健・看護システムについて解説する。</p> <p>(41 濱田 紀宏／1回) 地域で暮らす人への医療提供として、訪問医療やそこの医療者(医師、看護師、リハなど)の連携について解説。僻地医療の実践、地域医療実践者の次世代育成について解説。</p> <p>(24 尾崎 米厚／1回) 世界の各地域での医療の実態とその支援方法について、WHOや各国の医療保健への考え方、日本人として医療者として、国際医療保健にどのような支援ができるのか、考えるかについて議論。国際地域医療保健システムについて解説、教授する。</p>	オムニバス方式
	病態生理学特論	<p>(概要) 対象に起こり得る主な疾病や症候の原因・要因、危険因子、メカニズム、薬理作用を理解し、病態生理学の知識を深める。対象の病態生理学的変化を把握、モニタリング、管理するために必要な情報を理解し、エビデンス解釈と判断を行い、高度な看護実践へ統合するための知識と技術を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(14 鈴木 康江／7回) 生殖機能の変化を解釈・判断するために必要な知識について講義し、事例を通して病態生理学的変化を解釈・判断する過程を学ぶ。呼吸機能、水・電解質バランス、造血機能、生体防御機能の変化を解釈、判断するために必要な知識について学ぶ。</p> <p>(13 花木 啓一／3回) 循環機能、代謝・内分泌機能、消化器系機能の変化と薬理作用を解釈・判断するための必要な知識について講義。</p> <p>(17 吉岡 伸一／2回) 自律神経機能、神経・精神機能の変化を解釈・判断するための必要な知識について講義。</p> <p>(8 萩野 浩／1回) 運動機能の変化を解釈・判断するための必要な知識について講義。</p> <p>(10 片岡 英幸／2回) 感覚機能、腎・内分泌機能の変化を解釈・判断するための必要な知識について講義。</p>	オムニバス方式

分野横断的科目	臨床薬理学特論	<p>(概要) 対象者の健康問題に応じた薬物治療について、薬力学的・薬物動態学的、薬剤管理学的見地から理解した上で、高度な看護実践へ活かすため、様々な薬物の作用機序や有害作用、薬剤使用の判断やモニタリング、服薬管理について学び、対象者の薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、最良の治療やケアの提供に参画するための知識、技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(19 網崎 孝志／8回) 臨床薬理学の総論として、薬理学の基礎、薬力学・薬物動態、服薬支援について解説し、議論する。また、循環器系の薬物療法について解説し、議論する。</p> <p>(17 吉岡 伸一／7回) 総論として、薬物療法における有害事象やアドヒアランスについて解説し、議論する。また、呼吸器、消化器、代謝異常、精神疾患での薬物療法について解説し、議論する。</p>	オムニバス方式
	医療統計解析学特論	<p>統計学的仮説検定と回帰分析を中心として、臨床統計や生物統計で用いられる解析手法について解説する。全体をとおして、p値、信頼区間、効果量についての注意点を理解させる。Rを使った演習により実践力を養成する。臨床研究論文での解析事例について考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(19 網崎 孝志／8回) 平均や位置の検定、回帰分析、線形モデル、一般化線形モデル、ロジスティック回帰について講義と演習を行う。</p> <p>(38 藤原 伸一／7回) 比率や関連性の検定、検出力と標本サイズ、分散分析について講義と演習を行う。</p>	オムニバス方式
	統計ソフトウェア演習	<p>科学研究で用いる基本的な統計学的解析方法の実際について、PCソフトウェア (SPSS) を用いた演習により理解を深める。統計解析を念頭に置いた質問紙の作成とデータ形式の設定の方法について理解し、実際のデータを用いて、群間比較、相関解析、比率の検定を演習で実践し、統計解析手法についての基盤的知識・技能を修得する。</p>	共同
	ストレス医療学特論	<p>ストレスに満ちた現代は、こころの時代と呼ばれているように、ストレスを上手に管理し、精神面の安定を促すことが不可欠になってきている。ストレスが身体的、心理的面に及ぼす影響、心理的評価法、ストレスと精神疾患との関連性、学校、職場、人間関係、保健医療福祉の現場で、ストレスを管理する方法などについて解説し、臨床的、基礎的な観点から、内外の文献をもとに講義する。</p>	
	教育の原理と方法	<p>(概要) 急激に変化する社会において、学力についての考え方も問いなおされている。何を学ぶかと同様にどのように学ぶかが問われており、自ら学び続ける自己教育力の育成が重要である。教育の原理を問いなおし、学ぶ力を育む教育について議論を深めるとともに、学習者が主体的に学習に取り組むための自己教育力の獲得について教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(9 深田 美香／6回) 教育が個人にとっても本質的な意味と、社会にとっても本質的な意味を同時に洞察し、今日の教育をめぐる課題と学びのあり方の転換について講義する。さらに、特定の知識とスキルを扱う授業の中で、学習者が主体的に学習に取り組むための自己教育力の獲得について講義する。</p> <p>(42 奥田 玲子／4回) 学習者が経験から学び続ける力を高め、内省的学習により、自己教育力を高めていく過程について、また、深く持続的な学びに必要となる自己の信念・価値・思考過程を内省的・探究的に観察しながら学習するリフレクションの過程について講義する。</p> <p>(65 三好 雅之／5回) 意味のある学び方を習得するための方略として、インストラクショナルデザインについて講義する。とくに、学習者が自分の学びをデザインすることができるようになるために必要な学習支援者としての具体的方略について講義する。</p>	オムニバス方式

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学 ）</p>	<p>医療機器開発特論</p>	<p>（概要） 医療機器分野でのイノベーション創出に資するため、医療機器やその開発に必要な知識（医療機器の定義、医機法の定義、医療機器開発プロセス、医療機器開発における課題など）を享受するとともに、イノベーション創出に必要な発想法（発明案）や心構え（アントレプレナーシップ、欲求の6段階説）に関する講義を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（26 植木 賢／6回） 医療機器分野でのイノベーション創出に必要な発想法（発明案）や心構え（やる気の心理学や欲求の6段階説）に関する講義を行うとともに、これまでの医療機器分野でのイノベーション事例を紹介する。</p> <p>（26 植木 賢・84 古賀 敦朗／1回）（共同） 鳥取大学医学部附属病院における医療機器等開発に関する取り組みについて事例を交えて紹介する。</p> <p>（84 古賀 敦朗／1回） 医療機器分野でのイノベーション創出の心構えの一つとしてアントレプレナーシップについての講義を行う。技術ロードマップ、ビジネスプラン、資金計画など医療機器分野に特化した知識を教授する。</p> <p>（83 上原 一剛／5回） 医療機器やその開発に必要な知識（医療機器の定義、医機法の定義、医療機器開発プロセス、医療機器開発における課題など）に加え、医療機器の国際展開を図るために必要となる知識（ISO13485、FDA、510(k)、CEマーキングなど）に関する知識を教授する。</p> <p>（86 遠藤 佑輔／2回） 医療機器の認証・承認に必要な臨床研究（人を対象とした医学系研究）に関する知識（PICO、PECO、IRB、統計解析、倫理指針など）や臨床研究法に関する知識を教授する。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
	<p>分子神経科学特論</p>	<p>（概要） 中枢神経系を構成する神経細胞と神経回路の特徴を構成分子に注目して概説する。神経細胞が持つ特徴的な細胞形態や神経伝達に関与する分子の役割や調節機構、また各種神経回路の神経化学的特徴に注目し、中枢神経系の機能の分子機構とそれらに対する薬物の効果を理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（5 畠 義郎／6回） 神経細胞と神経回路の化学的特徴を概説する。</p> <p>（54 一坂 吏志／3回） 脳機能調節の神経化学に関する講義を行う。</p> <p>（55 佐藤 武正／3回） 神経細胞の形態を支える分子機構に関する講義を行う。</p> <p>（57 亀山 克朗／3回） シナプス伝達の分子機構に関する講義を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学）	システム神経科学特論	<p>（概要） 中枢神経系は様々な神経核や皮質領野から構成されるが、それぞれの神経核や領野は固有の機能を持ちながらも他の部分と調和し機能を発揮する。中枢神経系の各部分が担う機能や形態について多面的に解説し、各部分の相互作用を併せて考察することで、中枢神経系の働きを統合的に理解することを目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（5 畠 義郎／6回） 脳の活動や形態を調べる様々な手法についてその特徴や成果について講義を行う。神経細胞と神経回路の化学的特徴を概説する。</p> <p>（54 一坂 史志／3回） 感覚と運動の統合機能に関する講義を行う。</p> <p>（55 佐藤 武正／3回） 運動とその調節の神経機構に関する講義を行う。</p> <p>（57 亀山 克朗／3回） 感覚情報の脳内処理に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	細胞分化・老化機構学特論	<p>（概要） 発生過程における細胞分化あるいは老化メカニズムの理解は、機能再生やその技術開発に向けて基盤となる部分である。最新の細胞分化あるいは誘導法および細胞・個体レベルの老化分子機構について解説し、再生医療やがんを含む難治性疾患治療の可能性について理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（4 久郷 裕之／8回） 細胞および個体レベルにおける老化機構の分子メカニズムに関して講義を行う。</p> <p>（31 香月 康宏／7回） 細胞分化に関する基盤知識や最新の誘導法について講義する。</p>	オムニバス方式
	細胞工学特論	<p>（概要） 多種多様な細胞に共通する基本構造を理解させた上で、細胞がもつ特定の性質を人工的に改変し、新たな機能を有する細胞や個体の作出方法や古典的なものから最新の技術（ゲノムライティング）の基礎と染色体工学技術等の利用について解説し、当該研究領域における国内外の動向と最新の研究課題について討論しながら、本研究領域における発展性や可能性についての理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（4 久郷 裕之／8回） 細胞レベルにおける遺伝子、染色体改変などの基本原理や手法についての講義を行う。</p> <p>（31 香月 康宏／7回） 個体レベルにおける遺伝子、染色体改変方式などの原理と方法について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	遺伝子医科学特論	<p>（概要） 種々の疾患の病因・病態を遺伝子医科学の視点で概説する。臨床研究或いは実際の臨床現場で使用されている遺伝子診断や遺伝子治療などについても、基本原理、有効性、治療効果、副作用などを概説する。最新の遺伝子医科学の理解を深めるよう指導を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 汐田 剛史／8回） 疾患の病因・病態と遺伝子治療に関する講義を行う。</p> <p>（33 土谷 博之／7回） 疾患の病因・病態と遺伝子診断に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式

専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学 ）	再生医科学特論	<p>（概要） 再生医科学の原理、テクノロジーの進歩を、肝臓領域を中心に概説する。再生医科学の総合的な理解を深め、最新のテクノロジーや治療法を理解できるよう指導を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 汐田 剛史／8回） 過去から現在までの再生医学の研究の歩みを理解できるよう指導を行う。</p> <p>（59 板場 則子／6回） 肝臓領域の再生医科学の基本的知識、テクノロジーの進歩、臨床応用について全体的な理解を深めるように指導を行う。</p> <p>（60 河野 洋平／1回） 肝臓領域の再生医学の現状を講義し指導する。</p>	オムニバス方式
	遺伝子再生医科学演習	<p>遺伝子医学と再生医学は密接に関連している。そこで、遺伝子医学と再生医学の立場より、両者が密接に関係する基礎研究や臨床研究（試験）について概説し、双方向性の理解を深めるように指導する。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。</p>	共同
	再生医工学特論	<p>（概要） 幹細胞の概念の理解と臨床医学における幹細胞を用いた再生医療の役割について最近の考え方を解説する。幹細胞の特性とその分化機構について概説し、現在の薬物治療や非薬物治療では限界が見えている疾患に対しての新たなアプローチとしての再生医療及び組織工学について理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 久留 一郎／8回） 臨床医学に应用されている再生医療及び組織工学の実際に関して講義を行う。</p> <p>（34 白吉 安昭／7回） 幹細胞医学に関する基盤知識を講義する。</p>	オムニバス方式
	再生医工学演習	<p>幹細胞の基本特性と分化機構並びにその誘導法、および臓器障害に認められる病態の基本的な知識とその病態モデル作成と介入の技能を教育し、当該領域における国内外の動向と最新の再生医療及び組織工学に関する研究課題について系統的に討論しながら理解させ、自らの実験計画に応用できるように指導する。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。</p>	共同
	遺伝子治療学特論	<p>遺伝子治療の概念の理解と臨床医学における様々なベクターを用いた遺伝子治療の役割について最近の考え方を解説する。ベクターの特性とその治療戦略について概説し、がんや遺伝病をはじめとする難治疾患に対する新たなアプローチとしての遺伝子治療について理解を深める。</p>	
	遺伝子治療学演習	<p>ベクターの基本特性と改変法ならびにその解析法、および難治疾患の病態の基本的な知識とその病態モデル作成の技能を教育し、当該領域における国内外の動向と最新の研究課題について系統的に討論しながら理解させ、自らの実験計画に応用できるように指導する。</p>	
	細胞分子機構学特論	<p>（概要） 生命現象を分子レベルで理解するため、核内外に大別される細胞内の事象における分子細胞生物学的な機構について歴史的な背景や病態と関連性を交えて講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 初沢 清隆／8回） 核外のタンパク質のオルガネラ間輸送の分子機構について講義する。</p> <p>（28 堀 直裕／7回） 核内における遺伝子の機能発現制御の分子機構について講義する。</p>	オムニバス方式

専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学 ）	細胞分子機構学演習	細胞分子機構特論の講義内容に関するキーワード（オルガネラ接触部位、オートファジー、エンドサイトーシス、インスレーターとクロマチン構造、インプリント制御、DNAメチル化・脱メチル化など）をもとに原著論文を選択し、内容についてのプレゼンテーションを行う。質疑応答、疑問点についての全体討論を通じ、論文内で明らかにされた細胞内現象における分子機構および問題点等を共有し理解する。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同
	免疫認識学特論	免疫機構は病原体などの外来異物に対しこれらを排除する反応を起こすことで感染を防御する。一方で免疫機構は内因性の核酸や老化細胞の成分などを認識し炎症反応を起こす可能性を持つ。この働きは時に自己免疫疾患などの生体に不慣れた反応を引き起こす。本講義では、これら外因性および内因性の種々の分子が免疫細胞に認識されるメカニズムについて学習し、免疫における「自己と非自己」の判別についての考察を深める。	
	免疫認識学演習	免疫認識学特論での学習内容を基に、外来異物、内因性分子の認識にはじまるさまざまな免疫反応の複雑さ、および免疫学に関する最新の知見について、原著論文読解を中心に学習する。さらに学習内容について少人数での討議、プレゼンテーションを行い、既存の学説に関して自分の考えを提示できる問題提議能力、また英語論文読解力、プレゼンテーション能力の向上を図る。	
	発生生物学特論	（概要） 生物は一つの受精卵が分裂を繰り返しながら複雑かつ精密な調節を受けて発生する。この過程で様々な細胞に分化するとともに形態形成を行い、器官、そして個体を形成する。一方、大規模に損失した器官の再構成を行う再生過程においても複雑かつ精密な調節によって細胞の増殖、分化、形態形成が行われ、損失部分が再構築される。本講義では、動物における発生および再生のしくみ、発生と進化によって生じた生物の普遍性・多様性との関係、医学への応用と課題、などについて講義する。	
	発生生物学演習	発生生物学の基盤となった古今の主要研究の論文や最新の重要論文を学生自身で探索、選択、講読する。そして、他者にわかりやすく説明、質疑応答を行う。また、自身が選択した論文や他者の発表する論文に対し、批判的検討を加え、問題点や新たな課題を探索する。これらを通じて論文読解力を向上させ、発生生物学へのより深い理解を図るとともにプレゼンテーション能力を涵養する。	
	実験腫瘍病理学特論	（概要） 腫瘍学を実験病理学の観点から教授する。腫瘍の発生から再発・浸潤・転移を含む悪性化に至る過程を進展させる諸要因について理解の基礎となる概論や研究の方法等を修得させる。また、ヒト及びマウス等の実験動物に生じたがん組織について病理組織学的観点から教授する。併せて形態学的特徴やそれらに関連する遺伝子発現異常等の解析方法を教授する。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡田 太／8回） 腫瘍の発生から再発・浸潤・転移を含む悪性化に至る過程を進展させる諸要因について講義する。 （30 尾崎 充彦／7回） がんの病理組織学的特徴と遺伝子発現異常等との関連性について講義する。	オムニバス方式
	実験腫瘍病理学演習	腫瘍分野における実験病理学に関する主要研究の論文や最新の重要論文を学生自身で探索、選択させる。その論文を熟読し、当該論文の新規性や独創性について他者にわかりやすく説明、質疑応答を行う。これらを通じて、自身が取り組んでいる研究テーマにおける問題点や新たな課題を探索し、腫瘍学へのより深い理解を図る。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学 ）</p>	<p>神経病態・遺伝子疾患学特論</p>	<p>（概要） 神経系の正常発生と、神経変性疾患や遺伝病などの病態及び修復・治療について、分子・細胞レベルから、個体レベルで薬学的観点も含め解析することを学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（21 森 徹自／7回） 神経系の正常な発生について、細胞生物学的、分子生物学的視点から理解する。更にはその破綻状態である認知症などの各種神経疾患について、遺伝子改変動物を含む疾患モデル動物を用いた研究をもとに病態を理解し、治療の可能性について薬学的観点も含め講義する。</p> <p>（47 上田 悦子／7回） ヒト各種遺伝病の診断に関わる遺伝子解析法について、データベースを活用した遺伝子情報収集や変異個所の特定、分析法の種類・解析手順を、具体例を挙げて講義する。</p> <p>（21 森 徹自・47 上田 悦子／1回）（共同） 上記の内容を踏まえて、神経発生学的観点から遺伝病の解析方法について総括する。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
	<p>神経病態・遺伝子疾患学演習</p>	<p>（概要） 神経発生、各種神経疾患や遺伝病に関する病態と薬理作用についての最新の文献を講読・議論する事で理解を深め、科学的探究心を養う。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（21 森 徹自／15回） 神経系における発生や細胞更新、および認知症などの各種神経疾患に関する病態と薬理作用についての最新の英語論文を講読、討論する事で、当該領域における研究の動向を把握するとともに、解析方法について演習する。</p> <p>（47 上田 悦子／15回） ヒトの遺伝子解析に関する内外の文献講読と遺伝子解析の実践を通して、ヒト遺伝子疾患の診断や治療に関する新技術や方法の習得に努めさせる。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>病態細胞学特論</p>	<p>（概要） 病態の基礎となる細胞病理学を中心に細胞診、組織検査とその技術および免疫組織化学、電子顕微鏡、遺伝子関連領域の技術も含めて講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（22 北村 幸郷／11回） 細胞病理学を主として、細胞障害、炎症、代謝障害、発生異常、循環障害、免疫異常、腫瘍について講義し、特に細胞診、組織検査とその技術ならびに免疫組織化学、電子顕微鏡、病理組織材料での遺伝子検索などの技術も含めて講義する。</p> <p>（39 中川 真由美／4回） 今日では、病態の理解あるいは診断に遺伝子検査が多く行われている。遺伝子検査の基礎と臨床応用について理解することは医療に携わる者として非常に有益であると考えられ、遺伝子解析法の基礎的な講義を行った後、腫瘍・感染症の遺伝子診断や薬剤感受性検査などについて講義を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学）</p>	<p>病態細胞学演習</p>	<p>（概要） 細胞病理学や遺伝子関連領域について、論文講読、症例検討を行い、細胞診、組織検査とその技術、免疫組織化学、電子顕微鏡、遺伝子検索の原理や技術を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（22 北村 幸郷／16回） 細胞病理学の細胞障害、炎症、代謝障害、発生異常、循環障害、免疫異常、腫瘍について症例の病理組織標本を用いて、細胞診、組織検査とその技術ならびに免疫組織化学、電子顕微鏡、遺伝子検索技術なども含めて習得する。</p> <p>（39 中川 真由美／14回） 病態細胞学特論で学んだ、腫瘍・感染症の遺伝子診断や薬剤感受性遺伝子の解析を中心に内外の論文を検索し講読する。また、医学分野でよく用いられる遺伝子検査を実習し、講義だけでは理解しにくい原理や技術を習得する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>病態制御学特論</p>	<p>（概要） 病態解析のため、多くの臨床検査法がある。代表的な疾患の検査法を概説し、病態管理や治療に役立つ新規開発した医療機器や検査法について説明する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（23 鯉岡 直人／7回） 呼吸器疾患全般に関して概説し、診断・検査法を中心に講義する。情報通信技術を応用した近距離通信による機器接続やインターネットを利用したIoT（Internet of Things）機能をもつ医療機器の仕組みと利用法を重点的に講義する。</p> <p>（49 下廣 寿／4回） 内分泌・代謝疾患について概説し、代表的な診断・検査法について説明する。新しく開発した脂質系検査法などについて生化学的および分子生物学的な視点から講義する。</p> <p>（50 佐藤 研吾／4回） 超音波診断装置の仕組みと代表的な検査法について説明する。新たな超音波検査領域の臨床応用について講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>病態制御学演習</p>	<p>（概要） 呼吸器疾患、内分泌・代謝疾患に関して、病態制御の視点から臨床生理から分子生物学まで広範囲の文献を読解させて議論するとともに、解析方法について演習させる。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（23 鯉岡 直人／16回） 呼吸器疾患に関する論文を読解させ検討する。生体信号から測定された時系列データ解析法について演習させる。開発したIoT対応の医療機器などについての論文を検討した後、仕組みと利用法について、実際の機器を用いて演習させる。特許取得法についても説明する。</p> <p>（49 下廣 寿／14回） 内分泌・代謝疾患について論文を読解させ検討する。脂質系検査法などについて演習させる。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学）</p>	<p>生体機能・情報解析学特論</p>	<p>（概要） 臨床生理学検査に関する実践法と、そこから得られたデータの解析法（二次処理による新たな情報の獲得法）について紹介するとともに、それらの臨床応用について解説、議論する。また、種々の臨床データ解析からシミュレーション技術まで、バイオインフォマティクスの概念についても講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（50 佐藤 研吾／7回） 日常の臨床生理学検査として、心電図、脳波、超音波画像について、情報的特徴について講義し、得られた情報の二次的処理の手法を解説する。特に、超音波検査についての新知見や検査結果を利用した医療機器開発について解説する。</p> <p>（19 網崎 孝志／4回） 時系列データ（脳波や分子シミュレーションデータ）のスペクトル解析や主成分・独立成分解析（前処理、次元縮小）など、また、薬物動態などを例に回帰に類する解析（階層モデルなど）の基本的事項を解説する。</p> <p>（38 藤原 伸一／4回） 定量的構造活性相関(QSAR)とその創薬研究への応用について解説する。また、タンパク質や核酸など生体高分子の構造・機能解析能ための分子動力学シミュレーションについて、その基本的事項と応用例を解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>生体機能・情報解析学演習</p>	<p>（概要） 臨床生理学的検査法、データ解析やバイオインフォマティクスについて、内外の文献を講読し討議する。また、関連する研究の計画・成果・展望についてプレゼンテーションを行い、討議する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（19 網崎 孝志／16回） 臨床データ（波形データ、集団薬物動態データ）の解析、バイオインフォマティクス、特に構造バイオインフォマティクス（分子シミュレーションを含む）</p> <p>（50 佐藤 研吾／14回） 臨床での生体機能に関する検査（超音波検査、心機能検査、電気生理検査など）</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>環境科学特論</p>	<p>（概要） 食事を含む環境中の生理活性物質の生体への影響について講義する。また、環境とヒトとの関わり、環境保全と生態系の変化などについて講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（18 二宮 治明／8回） コレステロールを中心に、食事の脂質の体内動態について講義する。さらに、遺伝性素因および後天性素因による脂質代謝異常症の発症機序と病態生理を講義する。</p> <p>（38 藤原 伸一／7回） 地球温暖化やオゾン層の破壊などの環境問題について、その概要と現状、および、それが生態系に及ぼす影響について、最新の知見をもとに、将来的課題や展望を講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>環境科学演習</p>	<p>（概要） 食事を含む環境中の生理活性物質の生体への影響の評価方法について、内外の文献を精読し討議する。また、様々な環境問題について、最新の文献を精読し討議する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（18 二宮 治明／16回） コレステロールの体内動態およびその異常に基づくヒトの疾患について、重要な文献を精読・討議し、近年の研究の動向を理解する。</p> <p>（38 藤原 伸一／14回） 地球温暖化やオゾン層の破壊などの環境問題について、最新の文献を中心に精読・討議し、環境問題の現状、将来的課題や展望に関する近年の研究の動向を理解する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学 ）</p>	<p>認知症予防学演習</p>	<p>（概要） 認知症の各種検査法について文献抄読を行う。その解析の実践方法等について演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（20 浦上 克哉／22回） アルツハイマー病やその他の認知症の原因遺伝子や蛋白の解析に関する文献抄読を行う。アルツハイマー病やその他の認知症の原因遺伝子や蛋白の解析に関する演習を行う。</p> <p>（12 山本 美輪／4回） 認知症高齢者が住み慣れた地域での生活や”その人らしさ”を支える看護の総合的な理解を深め、認知症ケアの動向や認知機能低下予防の視点を踏まえた認知症高齢者やその家族のQOLを考えた非薬物療法を主とした具体的な看護、ケア（パーソンセンタードケア、リアリティオリエンテーション、回想法、ユマニチュード等）について考察する。</p> <p>（48 高村 歩美／2回） アルツハイマー病やその他の認知症のバイオマーカーに関する文献抄読を行う。アルツハイマー病やその他の認知症のバイオマーカー解析の実践方法に関する演習を行う。</p> <p>（63 河月 稔／2回） 認知症の診断と治療評価に必要な臨床検査について文献抄読を行う。認知症の診断と治療評価に必要な臨床検査について測定方法について演習を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>基礎人類遺伝学特論 I</p>	<p>（概要） 細胞遺伝学、分子遺伝学、メンデル遺伝学、非メンデル遺伝学、集団遺伝学、ゲノム解析技術の基礎的内容を理解し、説明できるように教授する。遺伝カウンセリングに必要な人類遺伝学の基礎的知識について講義を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（27 難波 栄二／6回） 以下の項目について講義を行う。（1）遺伝学とは（総論）、（2）遺伝学の歴史、（12）生殖・発生遺伝、（13）体細胞遺伝、（14）集団遺伝、（15）ゲノム解析の技術</p> <p>（73 前垣 義弘／6回） 以下の項目について講義を行う。（3）細胞分裂と染色体分離、（4）染色体の構造とその分析法、（5）染色体異常、（9）メンデル遺伝、（10）非メンデル遺伝、（11）多因子遺伝</p> <p>（1 初沢 清隆／1回） 以下の項目について講義を行う。（6）分子遺伝学1、DNA・RNA・遺伝子の基本構造、DNAの複製・修復</p> <p>（18 二宮 治明／1回） 以下の項目について講義を行う。（8）遺伝生化学、生体分子の機能と代謝の基本的事項</p> <p>（28 堀 直裕／1回） 以下の項目について講義を行う。（7）分子遺伝学2、遺伝子発現の機構と遺伝子バリエント</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学）</p>	<p>基礎人類遺伝学特論Ⅱ</p>	<p>（概要） ヒト疾患に関連する遺伝的原因の同定、家系分析、遺伝カウンセリングが対応する代表的な疾患についての遺伝メカニズムならびに臨床像、疫学、診断法、治療、再発予防、ケアについて理解することを目的とし、遺伝的原因の同定、家系分析、染色体異常症、遺伝性疾患のメカニズムと疾患の遺伝的メカニズムと特徴を講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（27 難波 栄二／10回） 以下の項目について講義を行う。（1）ヒト疾患ゲノムの同定、（2）連鎖解析と関連解析の基礎、（6）単一遺伝子病1、（7）単一遺伝子病2、（8）単一遺伝子病3、（11）多因子遺伝病、（12）先天異常、（13）生活習慣病、（14）免疫遺伝、（15）薬理遺伝</p> <p>（73 前垣 義弘／4回） 以下の項目について講義を行う。（4）染色体異常症1、（5）染色体異常症2、（9）腫瘍遺伝1、（10）腫瘍遺伝2</p> <p>（36 笠城 典子／1回） 以下の項目について講義を行う。（3）家系図と家系分析、家系図の重要性と家系分析、バイズ分析</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>基礎人類遺伝学演習Ⅰ</p>	<p>（概要） 染色体解析、ゲノム解析、ゲノムデータ解析などの人類遺伝学の重要な技術を演習を通じて習得し、具体的な理解を得ることを目的とする。染色体解析やゲノム解析の技術、さらにゲノムデータの解析結果を説明できるように指導を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（27 難波 栄二／10回） 以下の項目について指導する。（1）遺伝学的検査の装置、（6）細胞解析技術、（7）細胞イメージング技術、（8）動物実験と遺伝医療、（9）遺伝子データの解析方法Ⅰ、（11）遺伝生化学1、（12）遺伝生化学2、（13）組織適合性の遺伝、（14）生殖と発生、（15）まとめと討論</p> <p>（73 前垣 義弘／3回） 以下の項目について指導する。（4）遺伝子解析技術1、（5）遺伝子解析技術2、（10）遺伝子データの解析方法Ⅱ</p> <p>（4 久郷 裕之／2回） 以下の項目について指導する。（2）染色体解析技術1、（3）染色体解析技術2</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門 家 養 成 科 目 (医 科 学)</p>	<p>基礎人類遺伝学演習Ⅱ</p>	<p>(概要) 遺伝カウンセラーとして基礎知識となる、医療情報の収集、現病歴・既往歴聴取、家族歴聴取、家系図作成、遺伝形式の推定、遺伝的リスクの推定などについて演習を通じて体験することで、具体的に理解することを目的とする。クライアントの病歴、家族歴を聴取し、家系図を作成および家系図より遺伝形式を推定し、遺伝的リスクの推定を行うことができるように指導を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(36 笠城 典子／9回) 以下の項目について講義および演習を行う。(1) 現病歴・既往歴聴取1、(2) 現病歴・既往歴聴取2、(4) 家族歴聴取1、(5) 家族歴聴取2、(6) 家系図作成1、(7) 家系図作成2、(10) 病院事務とチーム医療、(12) 看護師とチーム医療、(15) まとめ</p> <p>(27 難波 栄二／3回) 以下の項目について指導する。(3) 診療録からの情報収集・医療情報の収集、(8) 遺伝形式の推定・遺伝的リスクの推定、(11) 医師とチーム医療</p> <p>(19 網崎 孝志／1回) 以下の項目について演習する。(9) Bayesの定理を用いた再発率の計算</p> <p>(14 鈴木 康江／1回) 以下の項目について講義する。(13) 助産師とチーム医療、医療における助産師の役割</p> <p>(49 下廣 寿／1回) 以下の項目について講義する。(14) 臨床検査技師とチーム医療、医療における臨床検査技師の役割</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>臨床遺伝学特論</p>	<p>(概要) 遺伝カウンセリングが対応する代表的な疾患について臨臨床像、疫学、診断法、治療、再発予防、ケアについて理解することを目的とする。遺伝カウンセリングが対応する代表的な疾患について臨臨床像、疫学、診断法、治療、再発予防、ケアについて講義する。</p>	
	<p>臨床遺伝学演習</p>	<p>(概要) 診断に必要な遺伝学的検査の選択、結果解釈、これらの情報をわかりやすく正確に伝える技術を実際に行い、理解、習得することを目的とする。さらに、遺伝病の治療、遺伝学的検査の精度やインフォームドコンセント、次世代シーケンサーの報告書、先端医療の倫理問題の理解も深める。臨床遺伝の場で提供すべき情報、実施した遺伝学的検査の結果解釈および正確にわかりやすい情報提供のための遺伝学的検査の精度やインフォームドコンセントの書式、次世代シーケンサー解析、先端医療の倫理についても教授する。</p>	

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学 ）</p>	<p>遺伝サービス情報学演習</p>	<p>（概要） 医療情報や医療情報システムについて理解し、ネットワーク、セキュリティ、データベース関連の基本事項をおよび個人情報の取り扱いを習得する。遺伝カウンセリングに必要な情報の収集方法、文献の検索方法を解説し、最新の情報、文献を精読し、概要を説明することで、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（36 笠城 典子／6回） 以下の項目について演習する。（10）文献検索1、（11）文献検索2、（12）文献購読1、（13）文献購読2、（14）文献購読3、（15）文献購読4</p> <p>（19 網崎 孝志／3回） 以下の項目を講義および演習する。（1）情報セキュリティ、（2）データベース、（8）情報の表現・管理と解釈</p> <p>（79 近藤 博史／2回） 以下の項目を講義および演習する。（4）医療情報システムの発展プロセス、（5）電子カルテと地域医療ネットワーク</p> <p>（27 難波 栄二／1回） （2）医療における個人情報保護と情報漏洩対策を解説する。</p> <p>（14 鈴木 康江／1回） （7）看護情報システム構築のプロセス、運用について解説する。</p> <p>（73 前垣 義弘／1回） （9）遺伝医学情報サイト、遺伝関連学会サイト、コンソーシアムサイトについて講義する。</p> <p>（49 下廣 寿／1回） （6）臨床検査と情報システム、検査部での被検者・検体の流れ、情報の管理・保護・伝達について解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>遺伝医療と社会特論</p>	<p>（概要） 日本における社会福祉制度の歴史、保健社会福祉制度の基礎、社会福祉援助技術の基礎を学習する。遺伝医療に関わる社会保障制度・政策および社会福祉の基礎について講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（13 花木 啓一／3回） 以下の項目を講義する。（1）社会保障の概論、（4）難病や障害者に関わる制度・政策、（8）医療福祉に関わる職種について</p> <p>（36 笠城 典子／2回） 以下の項目を講義する。（2）日本の医療保険制度の歴史、（3）現在の医療保険制度と問題点</p> <p>（66 原田 崇／2回） 以下の項目を講義する。（5）母子保健と制度・政策1、（6）母子保健と制度・政策2</p> <p>（51 大山 賢治／1回） 以下の項目を講義する。（7）がんに関わる制度・政策</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学 ）</p>	<p>遺伝医療と倫理演習</p>	<p>（概要） 先端医療・生殖医療の現場における生命倫理的諸問題、遺伝医療に関する国内外の規制、遺伝医療の倫理問題を教授し、遺伝医療とゲノム医療における倫理的社会的な問題、それに関連するガイドラインや法律等について議論する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（27 難波 栄二／7回） 以下の項目を解説し、議論する。（2）遺伝医療領域の倫理ジレンマ、（3）出生前診断の倫理、（11）遺伝学的検査、医学研究における日本の倫理の問題、（12）個人情報と遺伝情報の日本の倫理問題、（13）遺伝研究における日本の倫理について、（14）生殖補助医療に関する倫理問題、（15）遺伝医療とゲノム医療における倫理的社会的な問題</p> <p>（36 笠城 典子／4回） 以下の項目を解説し、議論する。（4）神経疾患の発症前診断の倫理、（5）家族性腫瘍の発症前診断の倫理、（9）遺伝情報のプライバシー問題、（10）社会における遺伝情報の使用についての問題</p> <p>（73 前垣 義弘／3回） 以下の項目を解説し、議論する。（6）小児の遺伝学的検査に関する倫理、（7）網羅的遺伝子解析に関する倫理、（8）新生児スクリーニングにおける倫理</p> <p>（35 安藤 泰至／1回） （1）優生思想の歴史と現在－遺伝医療をめぐる倫理の背景について議論する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>遺伝カウンセリング特論</p>	<p>（概要） 遺伝カウンセリングに来談する人々に対する援助は主として人と人との関係を通じて行われる。さらに、遺伝医療は、親子、同胞、血縁者、パートナー関係にも影響を及ぼし、対人関係にも影響する。良好な人間関係を形成するために、心理的特性とその対応を講義し、理解することを目的とする。コミュニケーションについて学び、心理学の代表的な心理理論の基本、主要な心理検査法について特徴を理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（76 井上 雅彦／2回） 以下の項目を講義する。（6）アセスメント面接法、（7）行動観察法</p> <p>（70 兼子 幸一／3回） 以下の項目を講義する。（8）精神疾患1・主な精神疾患の臨床的特徴、（9）精神疾患2・精神疾患領域の専門職および連携、（10）危機介入理論1・主要な危機介入理論の基本</p> <p>（36 笠城 典子／3回） 以下の項目を講義する。（13）遺伝カウンセリング1・遺伝カウンセリングの流れ、（14）遺伝カウンセリング2・遺伝カウンセリングの構成要素、（15）遺伝カウンセリング3・事例を用いた遺伝カウンセリングの解説</p> <p>（74 菊池 義人／2回） 以下の項目を講義する。（2）パーソンセンタードアプローチ、（3）人間発達理論</p> <p>（81 岩田 正明／2回） 以下の項目を講義する。（11）危機介入理論2・危機的状況のアセスメントの基本、（12）危機介入理論3・危機介入技術の基本</p> <p>（75 最上 多美子／1回） 以下の項目を講義する。（5）心理検査法</p> <p>（82 竹田 伸也／1回） 以下の項目を講義する。（1）コミュニケーション</p> <p>（85 福崎 俊貴／1回） 以下の項目を講義する。（4）パーソナリティ理論</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学）</p>	<p>遺伝カウンセリング演習Ⅰ</p>	<p>（概要） 遺伝カウンセリングを実践するうえで必要な遺伝カウンセラーとしての基本的な知識・技術・態度を習得することを目的に、事例を用いて遺伝カウンセリング実施前に準備しておく内容、プレカウンセリング内容、遺伝的背景についてのアセスメント、問題の明確化、遺伝カウンセリングの記録、クライアントへの対応、遺伝カウンセリングに必要な情報・資料等について考え、準備、実践できる能力を習得する。クライアントの問題、心配を明確化し、遺伝カウンセリングの目標設定および実施準備ができ、家族歴の聴取、家系図作成、遺伝形式の説明を含むクライアントへの対応について演習する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（36 笠城 典子／8回） 以下の項目について演習を行う。（1）提示された事例についての準備、（2）遺伝カウンセリング1・家系図作成、遺伝形式説明、（5）遺伝カウンセリング4・問題・課題の明確化、遺伝カウンセリングの目標設定、（6）遺伝カウンセリング5・心理・社会的問題の明確化、（7）遺伝カウンセリング6・遺伝学的リスクの説明に必要な情報、（8）遺伝カウンセリング7・遺伝学的リスクの説明に必要な情報の入手（9）遺伝カウンセリング8・説明に有用なツールの作成、（13）遺伝カウンセリング12・クライアントが活用できる専門職・機関の説明</p> <p>（27 難波 栄二／6回） 以下の項目について演習を行う。（3）遺伝カウンセリング2・病歴、受けている医療情報の整理、（4）遺伝カウンセリング3・遺伝学的背景のアセスメント、（10）遺伝カウンセリング9・検査・診断に関連した情報の説明、（11）遺伝カウンセリング10・治療・生活に関連した情報の説明、（12）遺伝カウンセリング11・クライアントが活用できる社会資源の説明、（14）遺伝カウンセリング13・クライアントに説明、対応する際に求められる、法律、倫理規範、社会通念等の説明</p> <p>（27 難波 栄二・36 笠城 典子／1回）（共同） （15）まとめ。役割分担せずに共同で行う。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>
	<p>遺伝カウンセリング演習Ⅱ</p>	<p>（概要） ロールプレイを行いながら臨床遺伝学の知識と遺伝カウンセリングの基本的技術を身につけ、遺伝カウンセリングの準備から終結までの計画を立てることができ、認定遺伝カウンセラーとしての実践的な技術および対応能力を習得する。遺伝カウンセリングに必要なスキルを身につけ、クライアントの立場に立って、自律的決定を尊重した支援を行うために必要なことを考え、実践できる能力を習得し、遺伝カウンセリングの実践の準備を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（27 難波 栄二／2回） ロールプレイの目的、意義、方法について教授する。ロールプレイについてまとめを行う。</p> <p>（36 笠城 典子／1回） 遺伝カウンセリングでのコミュニケーションスキルを確認し、遺伝カウンセリングの流れを解説する。</p> <p>（27 難波 栄二・36 笠城 典子／8回）（共同） ロールプレイの事例検討、クライアント役の基本シナリオの作成、遺伝カウンセリングに必要な資料作成の指導を役割分担せずに共同で行う。</p> <p>（27 難波 栄二・73 前垣 義弘・36 笠城 典子／4回）（共同） ロールプレイを実施し、フィードバックを行い、改善点を指導する。役割分担せずに共同で行う。</p>	<p>オムニバス方式・ 共同（一部）</p>

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 医 科 学）</p>	<p>遺伝カウンセリング実習Ⅰ</p>	<p>（概要） 遺伝カウンセリングに陪席してクライアントの多様な来談目的を理解し、個々のニーズに応じた情報提供の準備方法を習得し、遺伝カウンセリングの進め方について理解する。 1. 鳥取大学医学部附属病院遺伝子診療科の遺伝カウンセリングに同席できるようにクライアントに承諾を得る。 2. 事前に対象疾患や検査結果に関する情報を入手できるよう指導する。 3. 遺伝カウンセリングに同席し、クライアントへの接し方、クライアントの様子を観察できるよう指導する。 4. 遺伝カウンセリングでの家系図作成、観察したクライアントの様子や医療者とのやり取りを記録し、遺伝カウンセリング記録が作成できるよう指導する。 5. 作成した遺伝カウンセリング記録のスーパーバイズを行い、討議する。 6. 遺伝カンファレンスに参加し、理解できるように指導する。 7. 次世代シーケンサー解析のミーティングで内容を理解できるよう指導する。</p> <p>上記の内容を6名の教員（27 難波栄二・73 前垣義弘・13 花木啓一・36 笠城典子・52 鞍嶋有紀・66 原田崇）が役割分担せず行う。</p>	<p>共同</p>
	<p>遺伝カウンセリング実習Ⅱ</p>	<p>（概要） 臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーの指導のもとで遺伝カウンセリングを実践的に指導する。遺伝カウンセリングへの陪席、説明、記録作成、遺伝カンファレンスを通して、医療職者としてのスキルを体得し、様々な医療関係者の連携を理解する。 1. 鳥取大学医学部附属病院遺伝子診療科の遺伝カウンセリングに同席できるようにクライアントに承諾を得る。 2. 事前に対象疾患や検査結果に関する情報を入手できるよう指導する。 3. 遺伝カウンセリングで家系図作成、来談経緯など導入部を実施し、家系内のリスクを適切に判断できるように指導する。 4. クライアントにとって必要な情報の一部を提供できるよう指導する。 5. クライアントの様子や医療者とのやり取りを観察・記録し、遺伝カウンセリング記録を作成できるよう指導する。 6. 遺伝学的検査実施から検査結果返却までの過程を理解できるよう指導する。 7. 作成した遺伝カウンセリング記録のアセスメント・スーパーバイズを行い、討議する。 8. 遺伝カンファレンスで同席したセッションについて説明し、担当者と症例の問題点・課題について討議する。 9. 次世代シーケンサー解析のミーティングで内容を理解できるよう指導する。 10. 学会発表やセミナー、患者会・サポートグループに積極的に参加し、最新の情報を得たり、関係者との交流が深められるよう指導する。</p> <p>上記の内容を6名の教員（27 難波栄二・73 前垣義弘・13 花木啓一・36 笠城典子・52 鞍嶋有紀・66 原田崇）が役割分担せず行う。</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学）</p>	<p>看護管理学特論</p>	<p>（概要） 最良の看護を提供するための計画、組織化、指示、調整、統制などの諸活動に必要な理論を教授し、効果的実践について検討する。同時に、合理的な医療チームの組織化と医療システムの構築により医療、看護の質を補償するとの視点から、医療事故対策としてのリスクマネジメント展開の倫理的根拠および基本的方法論について講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（14 鈴木 康江／13回） 管理の基本、組織論、リスク管理等について教授する。医療管理のためのシステム論、管理のための理論について解説する。</p> <p>（89 中村 真由美／2回） 病院管理、看護部管理の実践方法について、具体的に教授。管理計画、組織論リスク管理など理論をどのように実践に結び付けるのかについて事例を用いて紹介する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学 ）</p>	<p>看護理論</p>	<p>（概要） 看護の枠組みと方向性を導く主要な看護理論（大理論・中範囲理論）を取り上げ、それを概説する。看護理論に関する理解を深めるとともに、看護の中心概念（看護のメタパラダイム）に対する理解を深め、「看護とは何か」といった看護に対する全体的な見方を明確にしていく。</p> <p>（オムニバス方式／15回）</p> <p>（37 谷村 千華／10回） 1. 看護理論とモデルの概要、歴史、主要概念の定義について概説し、看護になぜ理論が必要なのか、その意義や活用方法を教授し、討議する。 2. ナイチンゲールの看護論を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。 3. ロイの適応モデルを学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。 4. 看護実践場面を取り上げ、看護援助を行う枠組みとして、理論を適用し、事例を帰納的に振り返り、現象の説明や課題を検討する。</p> <p>（9 深田 美香／3回） トラベルビーの看護論およびオランダの関係論について主要概念を概説し、人間関係および患者-看護者との相互作用に着目した看護の方法を教授する。文献抄読や討議を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。</p> <p>（16 松浦 治代／2回） オレムのセルフケアモデルについて概説し、セルフケア理論・セルフケア不足理論・看護システム理論の基本的概念を深めるとともに、文献抄読、事例検討、討議を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>生活機能看護学特論</p>	<p>（概要） 住み慣れた場所で個人的健康価値に基づいて自立した生活を送るために、生活機能（生活活動を維持するはたらき）の維持・向上は極めて重要である。生活機能を生理学的、行動学的側面から捉え、ストレングスモデルの観点から生活機能を理解（評価）し、支援する方法を議論する。特に、呼吸や循環などの心身機能、および、日常生活行動のセルフケアやコミュニケーション、家庭生活、社会生活などの活動と参加に重点を置いて講義する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（9 深田 美香／2回） 多様化する健康の価値観と生活のあり方についての概念モデルを概観し、個人や地域社会のもつ力を活用した看護のアプローチ方法について講義する。とくにストレングスモデルの考えに基づき、生活機能を理解（評価）し、支援する方法について講義する。</p> <p>（42 奥田 玲子／5回） 生活機能を日常生活行動のセルフケアおよび家事、仕事、余暇、地域活動などの社会参加の観点から捉え、住み慣れた場所で個人的健康価値に基づいて自立した生活を送るためのアプローチ方法について講義する。</p> <p>（92 山崎 祐輔／2回） 人間の生活機能と障害を判断するための分類（国際生活機能分類）について概説するとともに、リハビリテーションの理念や多職種連携の現状と課題について講義する。さらに、生活機能を包括的に捉える視点や生活機能の評価と支援の基本的な考え方を講義する。</p> <p>（88 曾田 武史／2回） 生活機能を心身機能の観点から捉え、自立した生活を送るための呼吸、循環能力評価とそのリハビリテーションについて講義する。とくに、呼吸リハビリテーション、心臓リハビリテーションの実際と多職種連携の実際や課題について講義する。</p> <p>（90 和田 崇／2回） 生活機能を基本動作の観点から捉え、自立した生活を送るための基本的な生活動作能力評価とそのリハビリテーションについて講義する。とくに、基本動作と生活行動の関連から、日常生活動作の自立と必要な運動療法について講義する。</p> <p>（91 平松 哲哉／2回） 生活機能をコミュニケーションの観点から捉え、自立した生活を送るためのコミュニケーション能力評価とそのリハビリテーションについて講義する。とくに、言語聴覚療法の実践について講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専 門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学）	生活機能看護学演習	<p>（概要）</p> <p>生活機能（生活活動を維持するはたらき）を高める看護の現状と課題を探求する。生活機能について検討した研究を講読し、複雑な現象を解明する手法とエビデンスが構築される過程について学び、看護実践に寄与する研究能力を修得する。さらに、生活機能の理解（評価）や支援方法に関する健康課題を探索的に議論し、自己の研究課題を明確化する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（8 萩野 浩／18回）</p> <p>生活機能看護学に関する文献講読を通して、エビデンスを見出すための研究デザイン、研究計画、研究結果の解析方法、研究成果のプレゼンテーション方法について教授する。研究デザインにより得られるエビデンスの相違や研究成果の一般化の考え方について講義する。</p> <p>（42 奥田 玲子／12回）</p> <p>生活機能を高めるための様々なエビデンスについて文献講読により議論し、生活機能向上を目指した看護実践方法について教授する。エビデンスを活用した看護実践の重要性やエビデンスの活用方法について講義する。</p>	オムニバス方式
	成人看護学特論	<p>（概要）</p> <p>成人の身体と心の健康問題に対し、対象の理解や現象の理解を深められるように指導する。そのためには、対象の理解や現象の理解を深め、看護実践の質を高めるために、事象を見つめ、解釈する視点を広げだけでなく、病を抱える対象に関する理解を深めるための、ストラテジーを身につけさせる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（11 中條 雅美／10回）</p> <p>国内外のがん看護の現状を検討させるとともに、コミュニケーション・アンドロロジー・ケアリング・ストレスコーピングなどの成人看護に必要な理論について教授する。</p> <p>（37 谷村 千華／5回）</p> <p>成人看護に必要なセルフマネジメントとアクティブラーニングやインストラクショナルデザインなどの学習理論、自己効力感理論、行動変容理論などを教授する。これらの理論を用いた文献抄読を行い、学生の批判的思考を養うとともに研究への適用の方法について検討する。</p>	オムニバス方式
	成人看護学演習	<p>（概要）</p> <p>文献の精読により、特別研究の遂行に必要な専門知識（論文の活用の仕方、論文の読み方、問題を見る視点、目標を設定する視点、方法を選ぶ視点、分析方法に対する視点、データを眺める視点、研究をまとめる視点）や情報収集能力を獲得する。発表を通して、プレゼンテーション能力を養う。各自のリサーチクエストionsにあった研究手法が選択できるようになることを目標に指導する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（11 中條 雅美／20回）</p> <p>成人看護学に関する論文や、成人看護学に関する書籍を精読させ、クリティークすることを通して、成人看護学への知見を深めることができるよう指導する。</p> <p>（37 谷村 千華／10回）</p> <p>成人看護学に関する論文や成人看護学に関する書籍を精読させ、クリティークすることを通して、目的に沿った研究手法を学ぶとともに成人看護学への知見を深めることができるよう指導する。また、学生間でプレゼンテーション、ディスカッションを行わせ、自己研鑽能力や表現能力を養う。</p>	オムニバス方式
	高齢者看護学特論	<p>超高齢社会となった日本における高齢者の健康・生活に関連する概念や理論を学び、高齢者を総合的にアセスメントし、またその家族も”看護の対象”とした多角的な援助方法を考察し、効果的実践への研究方法や援助を指導する。</p>	
	高齢者看護学演習	<p>超高齢社会となった日本における高齢者の身体的変化を理解し、国内外のケアシステム、高齢者やその家族のQOL向上への看護援助とそのエビデンスを考察するため、老年看護学に関する論文をクリティークし、効果的実践への研究方法や援助を指導する。</p>	

<p>専門 家 養 成 科 目 (保 健 学)</p>	<p>地域母子看護学特論</p>	<p>(概要) 多様な特徴を持つ母子とその家族が、その人らしく地域で生活するための包括的支援について、ライフサイクルとマタニティサイクルの多様性と連続性の視点を重視しながら、対象者の特徴、支援システム、看護理論や看護方法、地域で生活する母子とその家族の子育て・健康支援のための国の施策について授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(15 佐々木 くみ子／4回) 子育て・健康支援のための国の施策や子育て世代包括支援と子育て世代包括支援における看護の役割、妊娠期から育児期の親の発達と子育てに課題を抱える母子とその家族への養育支援について授業を行う。その上で、子育て世代包括支援における医療・保健・福祉・教育の役割と機能、連携と協働について議論する</p> <p>(14 鈴木 康江／4回) NICUに入院する子どもとその家族の支援について考察する。また妊娠中から育児期、特に低出生体重児の成育環境と家族、地域との関係について考察する。</p> <p>(13 花木 啓一／3回) 小児期の健康問題、特に生活習慣病を小児期のうちに予防するために、地域で暮らす母子へどのような支援を行うべきか。小児期のメタボリックシンドローム予防のための医療・保健・福祉・教育の連携の重要性について授業する。</p> <p>(45 池田 智子／4回) 学童期・思春期の次世代を担う子どもの健やかな成長・発達の支援と地域で生活する子育て期及び中高年女性の健康支援について、地域特性・保健事業を関連づけてアセスメントし、ヘルスプロモーションアプローチを用いた健康教育システムについて授業を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>地域母子看護学演習</p>	<p>(概要) ライフサイクルとマタニティサイクルの多様性と連続性の視点を重視し、地域で暮らす母子とその家族がその人らしく生活するための包括的支援について学習した内容を、演習では、対象者や学習者の特性に応じた具体的支援とするための方法について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(13 花木 啓一／6回) 小児期の健康問題、特に生活習慣病を小児期のうちに予防するために、地域で暮らす母子へどのような支援を行うべきか。小児期のメタボリックシンドローム予防のための医療・保健・福祉・教育の連携の具体的事例について演習で理解を深める。</p> <p>(15 佐々木 くみ子／8回) 妊娠期から育児期の親の発達および養育支援について実践的演習によって理解を深める。また、子育て世代包括支援における医療・保健・福祉・教育の役割と機能、連携と協働について実践的演習によって理解を深め、子育て世代包括支援における看護の役割について議論する。</p> <p>(14 鈴木 康江／8回) NICUに入院する子どもとその家族の支援について考察する。また妊娠中から育児期、特に低出生体重児の成育環境と家族、地域との関係について演習をし、議論し理解を深める。</p> <p>(45 池田 智子／8回) 学童期・思春期の次世代を担う子どもの健やかな成長・発達の支援又は地域で生活する子育て期及び中高年女性の健康支援に関する現状について、地域特性・保健事業を関連づけてアセスメントし、具体的な健康教育システムのあり方について議論を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門 家 養 成 科 目 (保 健 学)</p>	<p>成育看護学特論</p>	<p>(概要) 女性のライフステージにおける保健と健康問題、子どもの成長発達と生活環境、子どもの虐待の実態とその予防対策、家族構成員の成長に伴う家族看護などの理解に必要な専門領域と関連する医学、保健などを解説し、地域に貢献できる成育看護学の理解を深めさせるとともに、その研究方法を議論する。更にセクシャリティに関する課題についても考察していく。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(14 鈴木 康江／4回) 性と生殖に関する現代の課題について解説し、議論する。子どもの成育と家族関係との関連、周産期医療における課題について助産学的視点から解説、議論する。</p> <p>(13 花木 啓一／3回) 子どもの成長・発達に関わる健康問題の特徴について、主に内分泌学的視点から解説する。併せて、現代において多様化した小児保健分野の健康課題の特徴とその支援について教授する。</p> <p>(15 佐々木 くみ子／4回) 妊婦の生活習慣が妊娠経過に及ぼす影響について、親性の発達と子どもの養育について、マルトリートメントを予防するための妊娠期からの継続的な養育支援について、最近の研究から解説、議論する。</p> <p>(45 池田 智子／4回) 女性の内分泌環境の変化から生じる思春期、成熟期、更年期、老年期のライフステージにおける健康課題の特徴とその支援のあり方について解説、議論する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>成育看護学演習</p>	<p>(概要) 子どもの成長発達と生活環境、女性のライフステージにおける保健と健康問題、虐待の実態とその予防対策、家族構成員の成長に伴う家族看護など、成育看護学特論で学習した内容を、成育看護学演習により、それぞれの職域や立場に応じた具体的理解へ導く。</p> <p>(オムニバス方式／全30回)</p> <p>(13 花木 啓一／6回) 子どもの成長・発達に関わる健康問題と、現代において多様化した小児保健分野の健康課題について、その特徴と支援方法について演習し、理解を深める。</p> <p>(14 鈴木 康江／8回) 性と生殖に関する現代の課題について議論する。子どもの成育と家族関係との関連、周産期医療における課題について助産学的視点から演習し、理解を深める。</p> <p>(15 佐々木 くみ子／8回) 安全で安心な妊娠出産育児期を迎えるための妊婦の好ましい生活習慣について、親性の発達や子どもの養育に関連する科学的根拠に基づくマルトリートメントを予防するための妊娠期からの継続的な養育支援について演習を通して理解を深める。</p> <p>(45 池田 智子／8回) 現代女性が抱えるライフステージにおける健康課題を踏まえ、主体的に健康保持増進するための支援方法をそれぞれの職域、立場に応じた支援方法を検討し、理解を深める。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専 門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学 ）	統合支援看護学特論	<p>（概要） 地域で生活する人の生涯を連携しながら支援する地域の医療・保健・福祉の課題、現状について講義する。健康課題の施策化・実践に必要な知識として地域保健実践の基本理念、理論、実践手法について教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（16 松浦 治代／7回） 1. ヘルスプロモーションの理念について、地域保健の歴史の変遷もふまえ教授する。 2. 多職種連携を支援するシステム構築・施策化の現状、課題、手法について教授する。</p> <p>（46 金田 由紀子／7回） 多職種連携を支援するシステム構築・施策化の現状、課題、手法について教授する。</p> <p>（24 尾崎 米厚／1回） 疫学研究の視点から、地域保健・医療・福祉の現状及び課題、またその理解に必要な基礎的な知識、ケアシステムの構築及び施策化への対応について教授する。</p>	オムニバス方式
	統合支援看護学演習	<p>（概要） 文献検討、討議から、地域で生活する人々の健康を支援するシステム構築、連携・協働について関心を深め、また其々の専門職の役割について明確化させる。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（16 松浦 治代／15回） 1. 地域保健、政策・施策化、システム構築、等に関する文献を精読、討議し、現状、課題を把握する。 2. 学生其々の所属、専門職の立場から、連携における専門性、その活動の方法、連携のあり方について発表させる</p> <p>（46 金田 由紀子／15回） 疫学研究、質的帰納的研究の手法について、論文、事例を提示しその手法について、討議発表させる。</p>	オムニバス方式
	精神保健学特論	<p>地域における精神障害者ケアを実践するための方法論、精神看護学の他の看護学領域への応用、精神保健の諸制度、知的障害者、てんかんのある人の地域生活支援、地域における看取りの実践などについて、精神保健の面を含めて講義する。さらに在宅生活志向の観点から、障害の有無に関わらず、災害や防災活動などにおける地域生活支援についても解説する。</p>	
	精神保健学演習	<p>地域で生活するさまざまな人の健康と福祉について、看護職の役割と機能、精神保健医療制度、介護者の支援、子どもの地域での療養生活、家族支援、ストレス対策などに関する政策の効果と問題点について、その基盤となる内外の文献を幅広く抄読し、議論し、検証させる。さらに、地域における精神保健活動について考察させ、自己の研究課題を明確化させる。</p>	
	看護コンサルテーション特論	<p>保健・医療・福祉の場でケアを提供する専門職者が直面するさまざまな問題を解決するための具体的援助方法としてコンサルテーションの理論と方法について教授する。看護コンサルテーションの概念および実践モデルを理解し、看護師の役割の一つであるコンサルテーションの具体的な展開方法を講義する。さらに、看護コンサルテーションの実践モデル、コンサルタントの役割、個人もしくは組織を対象としたコンサルテーションのプロセスについても講義する。</p>	
	看護倫理学特論	<p>看護における倫理的問題を多方面から検討でき、看護職者としての倫理的判断や意思決定能力の向上、または看護倫理原則を理解し、看護臨床現場における看護職医療専門職の実践における倫理調整方を考察できるよう指導する。</p>	
	看護学研究方法特論	<p>看護現象についての課題を探求していくために必要な認識論的前提と方法論的基礎を概説する。その上で、研究課題に適合する看護理論もしくは概念枠組みを用いた研究デザイン、現象そのものに迫ろうとする研究デザイン、研究方法の妥当性および信頼性、Evidence-Based Nursingに資する研究方法論について教授する。先行研究による成果を知るための文献検討の方法、量的記述的研究、因果関係探索型研究、仮説検証型研究および質的帰納的研究などの研究方法論について概説し、研究計画の立案方法、論文クリティーク方法について講義する。</p>	

専 門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学）	看護教育学特論	看護学教育の動向を概観し、看護学教育の基本的な原理、看護学教育の特徴、教育課程、授業展開、教育評価などについて教授する。看護教育制度の成り立ちと特徴、看護継続教育の基本的考え方を概説した上で、看護学教育の課題について、看護学生を含む看護専門職者の個々人のあらゆるキャリア発達の過程の中で、その進展支援やキャリア開発の方向性を生涯学習の視点から、看護における教育の在り方やその本質を講義する。	
	フィジカルアセスメント特論	<p>（概要）</p> <p>高度実践看護師に必要な、身体・心理（精神）を含めた、フィジカルアセスメントの方法を学ぶ。特に複雑な健康問題をもった対象の身体状況を審査し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（15 佐々木 くみ子／6回）</p> <p>高度看護実践看護師に必要なフィジカルアセスメントの概要について授業を行う。中枢神経系・感覚系、循環器系、消化器系、女性生殖器系の症状のフィジカルアセスメントの方法、フィジカルアセスメントから得た情報をどのようにケアに生かせばよいのかについて授業を行う。専門領域で遭遇する複雑な健康問題（症状）を呈する事例の臨床判断の実際について授業を行う。</p> <p>（8 萩野 浩／1回）</p> <p>高度看護実践看護師に必要な運動系の症状のフィジカルアセスメントの方法、フィジカルアセスメントから得た情報をどのようにケアに生かせばよいのかについて授業を行う。</p> <p>（17 吉岡 伸一／2回）</p> <p>高度看護実践看護師に必要な精神症状や意識障害の症状のフィジカルアセスメントの方法、フィジカルアセスメントから得た情報をどのようにケアに生かせばよいのかについて授業を行う。</p> <p>（10 片岡 英幸／1回）</p> <p>高度看護実践看護師に必要な頭頸部の症状のフィジカルアセスメントの方法、フィジカルアセスメントから得た情報をどのようにケアに生かせばよいのかについて授業を行う。</p> <p>（44 三好 陽子／3回）</p> <p>高度看護実践看護師に必要な腎・泌尿器系、男性生殖器系の症状および痛みを来す病態と症状のフィジカルアセスメントの方法、フィジカルアセスメントから得た情報をどのようにケアに生かせばよいのかについて授業を行う。</p> <p>（23 鱒岡 直人／1回）</p> <p>高度看護実践看護師に必要な呼吸器系の症状のフィジカルアセスメントの方法、フィジカルアセスメントから得た情報をどのようにケアに生かせばよいのかについて授業を行う。慢性閉塞性肺疾患（COPD）の評価法と臨床的知見に関して講義する。</p> <p>（39 中川 真由美／1回）</p> <p>高度看護実践看護師に必要な臨床検査結果の診断の意義と評価について授業を行う。</p>	オムニバス方式

<p>専 門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学 ）</p>	<p>がん看護に関する病態生理 学</p>	<p>（概要） がん看護に必要ながんの生物学・分子生物学、病理学、診断学、化学療法、放射線療法、手術療法、遺伝子診断に関する今日の問題を理解し、がん看護の実践臨床に活かすための指導を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 片岡 英幸／12回） 分子生物学、細胞周期、発癌機構、発癌・浸潤・転移の機序、腫瘍免疫学、自然免疫、免疫療法、がん代謝、ワールブルグ効果、画像診断学、CT、MRI、PET、超音波、化学療法概論、放射線治療概論、手術治療について、各論では肺がん、肝がん、胃がん、乳がんについて病態生理、診断、治療を教授する。</p> <p>（22 北村 幸郷／1回） 細胞病理学および組織病理学において、免疫組織化学や分子病理学的手法などを用いて、形態学的変化のみならず遺伝子構造の異常も含めて悪性腫瘍の特徴を教授する。</p> <p>（25 本倉 徹／1回） 白血病、悪性リンパ腫などの造血器悪性腫瘍に関する病態生理、疾患分類、臨床症状、特殊検査、鑑別診断、治療法、予後について教授する。</p> <p>（36 笠城 典子／1回） がんの遺伝因子と環境因子の相互作用、がんの遺伝子異常、遺伝性腫瘍の病態生理、Two-hit説、遺伝性腫瘍の種類、特徴、遺伝学的検査などを解説する。さらに代表的な遺伝性腫瘍についての診断フロー、サーベイランス、家族への影響を説明し、遺伝医療の役割について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>がん看護に関する理論</p>	<p>（概要） がん患者およびその家族の対象理解、取り巻く現象や看護を説明する看護理論について教授する。がん看護に関する理論やモデルの理解を深めるとともに、がん看護の中心概念に対する理解を深め、がん患者の看護援助に関する全体的な見方を明確にしていく。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（37 谷村 千華／11回） 1. がん患者の心理過程を説明する看護理論を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。 2. がん患者のストレス・コーピングを説明する看護理論を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。 3. がんサバイバーを説明する看護理論を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。 4. 危機理論の概要を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。 5. セルフケア・自己効力感理論の概要を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。 6. がん患者およびその家族のQOLを支える看護理論を活用した看護援助について検討する。 7. 看護実践場面の事例を取り上げ、その事例に看護援助を行う枠組みとして、理論を適用し、帰納的に振り返り、現象の説明や課題を検討する。</p> <p>（14 鈴木 康江／2回） がん患者の家族看護に適用できる家族理論を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。看護実践場面の事例を取り上げ、その事例に看護援助を行う枠組みとして、理論を適用し、帰納的に振り返り、現象の説明や課題を検討する。</p> <p>（16 松浦 治代／2回） がん患者の看護に適用できるエンパワーメント理論を学び、事例を通して、理論を適用する根拠と意義、理論の活用方法を検討する。看護実践場面の事例を取り上げ、その事例に看護援助を行う枠組みとして、理論を適用し、帰納的に振り返り、現象の説明や課題を検討する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学）</p>	<p>がん治療支援に関わる看護 援助論</p>	<p>（概要） がん患者およびその家族への意思決定・遺伝子診断・病名・予後告知に伴う援助法及び手術療法や化学療法や放射線療法などの治療選択・治療に関する援助法について教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（11 中條 雅美／7回） 1. がん患者の意思決定を支える看護援助を学び、検討させる。 2. 手術療法を受ける患者・家族の看護援助法として、手術の合併症予防、創傷管理、機能・器質的变化（ボディイメージ等）に対するセルフケア支援などについて検討させる。 3. 化学療法を受ける患者・家族への援助法と有害事象の予防、化学療法薬暴露予防について享受する。 4. 放射線療法を受ける患者・家族の有害事象予防と援助法、放射線被ばく防御に関する教育・相談活動について教授する。</p> <p>（16 松浦 治代／2回） がんの予防・早期発見の視点から、がんの1次予防・2次予防・3次予防について教授する。</p> <p>（36 笠城 典子／2回） がん遺伝子カウンセリングの役割や看護援助法について教授する。</p> <p>（43 大庭 桂子／4回） がん患者に対する予後告知のあり方について討論するとともに、終末期がん患者著家族が直面する問題への看護援助法について、またがん患者に対する予後告知のあり方について討論させ、終末期がん患者著家族が直面する問題への看護援助法について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>緩和ケア特論 I</p>	<p>（概要） がんによっておこるあらゆる苦痛を全人的にとらえ緩和するための方法について学ぶ。多職種とのチーム医療のあり方とその中で看護独自の役割を明確にすることができるよう指導する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（11 中條 雅美／5回） 1. オーストラリアで実践されているシームレスケアの方法について教授する。 2. 緩和ケアの国内外の取り組みについて文献的検討させる。 3. 緩和ケアにおけるキュアについて学びキュアとケアが融合した看護援助法について教授する。 4. 緩和ケアが必要な患者の栄養不良とそれに対する栄養法を知り、その看護援助法について教授する。 5. 緩和ケアが必要な患者・家族に対する多職種によるチームアプローチの方法について教授する。 6. 緩和ケアが必要な患者が、施設から在宅に移行する際の支援方法について教授する。 7. 緩和ケアが必要な患者の在宅医療とケアの在り方について教授する。 8. 緩和ケアにおける専門看護師の役割（実践、相談、調整、研究、倫理調整、教育）と役割開発について教授する。</p> <p>（8 萩野 浩／5回） 緩和ケアが必要な患者のADLの低下の状態を知り、その看護援助法について教授する。</p> <p>（43 大庭 桂子／5回） 1. 緩和ケアを受ける患者・家族の身体・精神・社会的苦痛とそれに対するケアについて教授する。 2. 患者家族の死生観に対する悩み、死の恐怖、人生の意味の探究などの苦痛とそれに対するケアについて教授する。 3. 看取りや、死ぬ前のケアと準備、エンゼルケアについて教授する。 4. 代替・補完療法について調べ、それに対する看護の在り方を検討させる。</p>	<p>オムニバス方式</p>

専 門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学 ）	緩和ケア特論Ⅱ	<p>（概要） がん患者が呈する症状をアセスメントし、適切な看護支援や援助法を理解し、実践場面での看護の諸問題について探求させる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（11 中條 雅美／4回） 1. 症状マネジメント（IASM・Total Pain）の考え方について学ばせる。 2. 疼痛・倦怠感・食欲不振の発現メカニズムの理解と、各症状によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援について学ばせる。 3. 事例検討として、症状マネジメントモデルを用いて事例への適用を図る。</p> <p>（43 大庭 桂子／9回） 悪心・嘔吐・せん妄・腹水・末梢神経障害・不安・イレウスの発現メカニズムの理解と、各症状によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援について学ばせる。</p> <p>（44 三好 陽子／2回） 便秘と不眠の発現メカニズムの理解と、各症状によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援について学ばせる。</p>	オムニバス方式
	緩和ケア演習Ⅰ	<p>（概要） がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解したうえで、援助の基本となるコミュニケーション法を習得し、それを生かした患者・家族・スタッフへの身体・心理・社会・霊的な援助を適切に提供する能力を養う。また、そのために必要な調整能力を養うことのできるよう指導する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回）</p> <p>（11 中條 雅美／24回） 1. 緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション技法について検討し、事例を基にしてコミュニケーション技術を教授する。 2. 緩和ケアを必要とする患者・家族へのコンサルテーションの在り方を事例検討させる。 3. 緩和ケアを必要とする患者・家族へのがん相談支援の在り方について検討し、がん相談支援技術を習得させる。 4. 緩和ケアを必要とする患者・家族へのグループ介入のあり方を検討し、シナリオを基にしてファシリテーター技術を習得させる。 5. 緩和ケアを必要とする患者・家族の悲嘆とそれに対するケアについて検討し、事例を基にしてグリーフワークの技術を習得させる。 6. 緩和ケアスタッフに対する精神的負担とその援助法（相談・カンファレンス・デスカンファレンス）について検討し、事例を基にして援助技術を習得させる。 7. 緩和ケアが必要な患者・家族における調整について検討するとともに、継続療養支援が必要ながん患者の事例を基に、退院計画、薬物療法、理学療法、在宅ケアなどにおけるCNSのコーディネーション機能を生かした援助計画を作成し、発表させる。</p> <p>（8 萩野 浩／6回） 緩和ケアが必要な患者に対する理学療法技術を習得させる。</p>	オムニバス方式
	緩和ケア演習Ⅱ	<p>がん患者・家族がんに起こるあらゆる苦痛を全人的にとらえ緩和するための看護の在り方について学ぶ。また、がん患者・家族や看護援助を行っているスタッフに対する教育方法について指導する。</p> <p>1. 患者を担当する看護師や教員の指導のもとに、がんがもたらす身体的苦痛に対する臨床問題を特定し、看護実践計画書を作成させる。 2. 患者を担当する看護師や教員の指導のもとに、がんがもたらす心理・社会・霊的苦痛に対する臨床問題を特定し、看護実践計画書を作成させる。 3. 緩和ケアが必要な患者・家族のニーズを把握し、患者教育内容を検討させる。 4. 緩和ケアを実践している看護師のニーズを把握して看護教育内容を検討させる。</p>	

専門 家 養 成 科 目 （ 保 健 学）	がん看護学実習Ⅰ	<p>がん看護専門看護師が行っている活動場面を通して、がん専門看護師の6つの役割（実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整）の実際を学ぶことができるよう指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護専門看護師がもつ高度な専門的知識と技術及び倫理的な態度が、実際の場面（実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究）でどのように機能しているかを理解できるよう指導する。 2. がん看護専門看護師が、地域、組織、チームの中での役割の発揮の仕方を学ぶことができるよう指導する。 3. がん看護専門看護師としての役割獲得に向けての戦略としての、自立的な働き方、タイムマネジメント等について学ぶことができるよう指導する。 4. がん看護専門看護師の役割について、学生自身の課題を見出すことができるよう指導する。 	
	がん看護学実習Ⅱ	<p>がんの診断・治療過程を理解し、緩和ケアを受けている患者の診断・治療・療養過程全般を管理するための高度な臨床判断能力と、患者に必要な緩和治療・緩和ケアに対して専門看護師としての卓越したケアを行う能力を養う。また、地域の保健医療福祉との連携のもと、地域で暮らすがん患者と家族の療養生活を支援するための援助法について学ぶことができるよう指導する。</p> <p>I（医行為）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん診療の場で、がんの専門医・がん看護専門看護師と共に、主訴や検査所見などをフィジカルアセスメント、臨床薬理学、がん病態生理学を基に統合した医学アセスメントと看護アセスメントを行い、看護の視点から緩和目的で治療を受ける患者の身体管理と治療遂行支援に必要な臨床判断過程を学ぶことができるよう指導する。 2. 緩和目的の治療を受けている患者の心身のアセスメントと管理、症状緩和に必要な技術を臨床指導医の指導のもと実施することができるよう指導する。 3. 患者の包括的なアセスメントに基づき、がんが患者の生活に及ぼす影響を看護の立場から判断し、症状緩和のためのキュアとケアを融合した援助法をエビデンスに基づき立案・検討し、卓越したケアを提供することができるよう指導する。 <p>II（地域連携）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 地域医療連携に関わる保健医療福祉に従事する専門家の活動について理解し、患者が医療施設から地域へ円滑に移行する方略について理解することができるよう指導する。 5. 地域で暮らす患者と家族の療養生活の実際を理解し、地域医療連携や資源の活用におけるがん看護専門看護師の役割について考察することができるよう指導する。 	
	がん看護学実習Ⅲ	<p>複雑で対応困難な問題をもつがん患者及び家族に対する高度な専門知識を用いた臨床判断、技術を統合し倫理的な態度を持って、適切で質の高い看護ケアを提供する能力を養うことができるとともに、組織のニーズに合わせて、がん看護専門看護師としての役割（直接ケア、コンサルテーション、教育、調整、倫理調整、研究）を計画・実施・評価することができるよう指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者の全人的な苦痛及び家族の理解を深め、高度な専門知識を用いた臨床判断ができるよう指導する。 2. がん患者とその家族に対して、フィジカルアセスメント、症状マネジメントや心理社会的介入方法等の専門的知識及び熟練した技術を用いて、がん看護専門看護師としての実践を習熟できるよう指導する。 3. がん患者とその家族に対して適切なケアが提供できるように、保健医療福祉に従事する専門家間の調整のあり方を学ぶことができるよう指導する。 4. がん患者とその家族に関連する倫理的な問題や葛藤に対して、患者の尊厳を守る倫理的な調整のあり方を学ぶことができるよう指導する。 5. 看護職者をはじめとする保健医療福祉に従事する専門家からのニーズに応じて相談に対応することができるよう指導する。 6. 看護職者をはじめとする保健医療福祉に従事する専門家に対して、ニーズに応じた教育を計画し実施することができるよう指導する。 7. がん看護専門看護師の役割について理解を深めるとともに、自己の課題を明らかにすることができるよう指導する。 	

特別研究	医科学特別研究	<p>(概要) 複数の指導教官の指導により修士論文に関わる研究及び与えられた研究テーマを完結するにあたり、必要な技術の修得を行い、得られた結果を十分に考察できる能力を身につける。下記に挙げる各研究領域の中から、教授と准教授が担当し、助教も参加して行う。</p> <p>(26 植木 賢) 医療機器分野でのイノベーション創出のため、本学でこれまで取り組んできた医工農連携（医療機器開発）の現場に参加し、医療機器開発プロセスとその課題を検討し、結果をまとめ考察し口頭発表と修士論文作成を行う。</p> <p>(7 久留 一郎) 自身の研究テーマに関連したin vitroでの細胞障害モデルへの体性幹細胞の共培養に関連する先行研究論文を収集し、既知の事項と未知の事項を整理することで研究テーマを絞り込む。実際に細胞障害モデルと体性幹細胞の共培養を行い、その障害の程度を定量し、体性幹細胞の細胞保護効果を検証し、結果をまとめ考察し口頭発表と修士論文作成を行う。助教（61 経遠智一）が、自身の研究テーマに関する先行論文、研究をふまえて、ヒトES細胞およびヒトiPS細胞の分化に関する未知の現象に対してのテーマについて結果をまとめ考察し、修士論文作成と口頭発表の指導を補助し、その割合は0.2である。</p> <p>(34 白吉 安昭) 自身の研究テーマに関連するヒトES細胞とその分化誘導系に関する先行研究を収集し、未知の事項に関する研究テーマを絞り込み、ヒトES細胞の分化指標を定量化し、結果をまとめ考察することで口頭発表と修士論文作成を行う。</p> <p>(6 汐田 剛史) 肝疾患の病態を鑑み、肝疾患の再生医療に関する研究を指導し、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(33 土谷 博之) 肝疾患の病態と治療に関する研究を指導し、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(59 板場 則子) 肝疾患の病態を鑑み、肝疾患の再生医療に関する研究を指導し、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(5 畠 義郎) 自身の研究テーマに関連する脳機能発達のメカニズムに関する先行研究論文を収集し、未知の事項に関する研究テーマを絞り込む。脳機能や神経回路における種々の分子の関与を生理学、形態学的手法により検討し、結果をまとめ考察して、口頭発表および修士論文の作成を行う。助教（54 一坂史志、55 佐藤武正、57 亀山克朗）の1名が指導を補助し、その割合はそれぞれ0.2である。</p> <p>(32 中村 貴史) 自身の研究テーマに関連したがん遺伝子治療（腫瘍溶解性ウイルス療法）の開発研究に関連する先行研究論文を収集し、既知の事項と未知の事項を整理することで研究テーマを絞り込む。実際に新規の腫瘍溶解性ウイルスを作製し、様々な種類のがん細胞と正常細胞において、その特性を解析するとともに、担がんマウスモデルにおいて、その腫瘍特異性ならびに抗がん効果と安全性を検証し、結果をまとめ考察し口頭発表と修士論文作成の指導を行う。なお、助教（58 黒崎創）は指導を補助し、その割合は0.2である。</p> <p>(4 久郷 裕之) 自身の研究テーマに関連した染色体医工学を基盤とした老化、がん化分子機構およびそれに基づく医療応用に関連する先行研究論文を収集し、既知の事項と未知の事項を整理することで研究テーマを絞り込み、老化および発がんに関わるシグナル伝達経路の解析から結果をまとめ考察し口頭発表と修士論文作成を行う。なお、助教（56 大平崇人）が指導を補助し、その割合は0.2である。</p> <p>(31 香月 康宏) 自身の研究テーマに関連する創薬開発に関わる先行研究を収集し、未知の事項に関する研究テーマを絞り込み、染色体医工学技術を利用した創薬開発などについての結果をまとめ考察することで口頭発表と修士論文作成を行う。なお、助教（53 平塚正治）が指導を補助し、その割合は0.2である。</p>	
------	---------	---	--

- (1 初沢 清隆)
細胞におけるエンドサイトーシス反応の未知の分子機構を明らかにするため、研究の策定法および手技の実施を指導する。また、新規知見を得て関連学会で成果発表できるよう研究指導を行う。
- (28 堀 直裕)
遺伝子の転写制御に関する機能配列の役割・配列間相互作用・配列多様性と機能との関連を明らかにする研究課題に対して、関連学会で成果発表できるよう研究指導を行う。
- (29 吉野 三也)
免疫学領域の研究課題について、自分のアイディア、あるいは設定された課題に取り組み、特論、演習で得た学習内容を生かしてデータの解析とまとめ、プレゼンテーションの作成と発表、論文執筆の基本までを最低限身につけ、実践するための指導を行う。また、研究推進の達成に必要な協力者とのコミュニケーションについても自分自身で実践するための指導を行う。
- (2 竹内 隆)
分子遺伝学等の手法を用いて発生や再生過程で組織が適切な形態、サイズ、機能の器官を形成するしくみの解明をはかることを研究課題とし、研究指導を行う。
- (3 岡田 太)
腫瘍モデル動物についてヒトの病態と突合せながら作製及び評価できる技能を習得することを目的として、腫瘍に関わる実験病理学的な研究指導を行う。
- (30 尾崎 充彦)
腫瘍モデル動物から得られた組織を用い、遺伝子及びその発現異常を解析する方法の習得を目的として、腫瘍に関わる実験病理学的な研究指導を行う。
- (19 網崎 孝志)
変量効果モデルや階層ベイズ法などに基づく手法を、集団薬物動態解析や分子動力学シミュレーション軌跡データ解析に応用することを課題として研究指導を行う。また、分子動力学法を用いて、タンパク質と核酸・薬物の相互作用に関する課題の研究指導を行う。
- (20 浦上 克哉)
認知症の診断、治療評価のために必要な検査法の開発や改良を行う。アルツハイマー病の診断マーカーとして髄液中アミロイドβ蛋白が知られている。しかし、アルツハイマー病の真の病態に関与しているのは、アミロイドβ蛋白オリゴマーである可能性が考えられてきている。しかし、アミロイドβ蛋白オリゴマーの測定法が確立していない。このアミロイドβ蛋白オリゴマーの測定法の確立を目指す。アルツハイマー病では嗅覚機能の低下が初期変化であることが報告されている。この初期変化をとらえるためには、嗅覚機能検査が必要である。しかし、簡便で精度の高い検査法が確立されていない。そこで、アルツハイマー病の早期診断に役立つ嗅覚機能検査キットの開発を行う。
- (21 森 徹自)
神経系の発生、および成体脳におけるニューロン新生について、その分子メカニズムの解明を目指す。特にマウスなどの実験動物を用いたin vivo実験によって、細胞増殖、分化に関わる遺伝子産物の機能探索を研究課題として指導する。
- (18 二宮 治明)
ニーマンピック病C型、ゴーシェ病などの遺伝性脂質代謝異常症の病態解明を目的として、培養細胞および実験動物を用い、生化学的および組織学的手法による研究を行う。
- (22 北村 幸郷)
細胞病理学、組織病理学を主として、細胞診、組織検査とその技術、病理解剖などについて、それらの標本の作製方法の研究ならびに、一般染色法、免疫組織化学的手法、電子顕微鏡、遺伝子検索などを用いて、病態を可視化して、病態の解明、診断技術の向上に役立てるべく研究を行う。
- (23 鯉岡 直人)
脳波、心電図、呼吸運動などの生体信号を時系列データ化して、線形解析、非線形解析を行う。特に非線形解析の中で複雑系解析を利用して、新しい生体現象を探索する。

特別研究	医科学特別研究	<p>(38 藤原 伸一) タンパク質や核酸などの生体高分子を対象とした分子動力学シミュレーションを課題として研究指導を行う。生体高分子へのリガンド結合の有無による動的立体構造の違い、アミノ酸の変異に伴うリガンド結合能変化などに関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(39 中川 真由美) 遺伝子多型は、医学分野では、病気への罹り易さや、重症度、薬剤感受性などに関与していると考えられている。遺伝子多型の迅速簡便な解析法の研究や、疾患などとの関連性に関する研究について指導する。</p> <p>(47 上田 悦子) 遺伝子機能と栄養素やその他の食品成分との関連性が明らかにされたことを基にして、分子のレベルから栄養学にアプローチし、生活習慣病の予防や軽減さらには治療に役立てるための栄養生化学に着目した解析を中心とした研究指導を行う。</p> <p>(48 高村 歩美) アルツハイマー型認知症のバイオマーカーや発症機序に関する研究を行う。病態と発症機構に関する仮説を学び、生化学的な定量・定性分析法を習得して早期診断の客観的評価の指標となる因子を探索する。また、それらの因子と発症との関連をモデル細胞や動物を用いて明らかにする。</p> <p>(49 下廣 寿) 画像検査では軽度な肝脂肪化の判定は困難である。そこで、肝脂肪化の新たな診断技術の構築に応用できるバイオマーカーを検索させる。そして肝生検が最終診断であった非アルコール性脂肪肝炎(NASH)等の発症を確定診断できる技術応用に発展させる。</p> <p>(50 佐藤 研吾) 近年注目されている3D/4D超音波画像を駆使し、新たな超音波画像の診断法の確立を目的とする。特に、消化管疾患に対するVirtual Endoscopyの開発や運動ニューロン疾患における超音波診断法の確立に向けて、学生ヘテラマを与え研究指導を行う。</p> <p>(27 難波 栄二) ゲノム医療が急速に進展し、臨床医療にも応用されてきている。そこで、ゲノム医療に重要な遺伝学的診断や遺伝病の治療などをテーマにして研究指導を行う。次世代シーケンサーなどの解析技術やシャペロン療法など、最新の技術を中心に研究を進める。</p> <p>(36 笠城典子) ゲノム医療が急速に進展し、臨床医療にも応用されてきている。そこで、ゲノム医療・遺伝医療に関する医療職者の認識および課題の明確化、対応に関する研究指導を行う。さらに、ゲノム医療・遺伝医療を必要としている人が適切に医療を受けられるための課題を明らかにし、遺伝カウンセリングの充実を含む支援についての研究指導を行う。</p>
------	---------	--

<p>特別研究</p>	<p>保健学特別研究</p>	<p>(概要) コースのテーマである包括的な地域支援を目標とした研究の計画と遂行に必要な知識や技能について教授する。</p> <p>(13 花木 啓一) 成長・発達と生活習慣病の視点から、地域で生活する小児期、思春期、成人期の対象者の健康課題からリサーチクエストを導きだし、それを解決するための保健学に立脚した研究方法の立案と実施について指導する。</p> <p>(12 山本 美輪) 老年期にある高齢者の援助や課題に対する看護についての調査研究を実施する。特に、高齢者看護における倫理的問題や認知症ケアにおいて高齢者やその家族のQOLを支援する看護における科学的根拠や調査研究について指導する。</p> <p>(14 鈴木 康江) 女性の性と生殖にかかる健康問題、医療システムと看護管理の現代的課題について調査、研究する。</p> <p>(15 佐々木 くみ子) 現代社会ではマタニティサイクルとライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルスに関連する多様な健康課題が存在する。課題解決のための保健学研究を指導する。</p> <p>(17 吉岡 伸一) 学校、職場、社会における精神保健医療福祉に対する課題や、精神、知的障害やてんかんのある人の地域生活における課題について、医学、社会医学、看護学の観点から、研究指導を行う。</p> <p>(16 松浦 治代) 地域で生活する人々とその支援者を対象とし、住民主体の効果的な活動のあり方、住民が生涯を通して継続的に安心して生活できる包括的ケアシステムの構築、連携協働のありかた、支援方法等を探究できるように研究指導する。</p> <p>(35 安藤 泰至) 現代の医学・医療の急速な発展に伴って生じるさまざまな生命倫理・医療倫理の問題について、人間の生死や文化・社会についての人文・社会学の観点をふまえながら、看護の専門家としてどのような取り組みができるのか研究指導する。</p> <p>(36 笠城 典子) がんゲノム情報に基づき個々人に最適な医療を提供する「がんゲノム医療」が臨床医療で動き始めている。そこで、看護職者をはじめとした医療職者およびがん患者・家族を対象にがんゲノム医療に関する認識を調べ、がんゲノム医療の普及および支援のための看護職者の役割について研究指導を行う。</p> <p>(37 谷村 千華) 慢性期・慢性疾患を持つ患者および家族に関する現象や看護、測定指標の開発や保健教育プログラムの実践における新しい知見を得るための研究指導を行う。そのために、定期的な抄読会や個別指導を行うとともに、他の教員からの指導・助言を受けられる環境や、学生同士が討論する環境を整える。</p> <p>(8 萩野 浩) 運動器疾患の予防、援助、治療の関する調査研究を実施する。具体的には、地域高齢者を対象とした運動機能評価、運動療法の介入、栄養指導、食事指導の介入効果や効果発現のための援助方法について検討する。</p> <p>(9 深田 美香) 人々が住まう生活環境は多様であり、個々人はその環境の中で自分らしく生活したいと望んでいる。それぞれの地域特性に応じた包括的地域支援、生活機能を維持しながら安心して生活できるケアの現状と課題を探究し、特別研究に発展させる。包括的地域支援を実践する看護職の育成上の課題について研究指導を行う。</p>	
-------------	----------------	--	--

<p>特別研究</p>	<p>保健学特別研究</p>	<p>(10 片岡 英幸) 聴覚、平衡機能、音声、などの感覚運動機能、口腔・咽頭、気道、食道における咀嚼機能、嚥下機能、呼吸機能、睡眠などについて画像解析、信号解析などの手法を用いて課題を解決する研究方法の立案と実施について指導する。</p> <p>(11 中條 雅美) 成人のクリティカル分野や慢性期、およびがん看護に関する論文クリティークを行った後に、リサーチクエストを明確にし、それを明らかにするための研究指導を行う。</p>	
-------------	----------------	--	--

授 業 科 目 の 概 要			
（医学系研究科医科学専攻（博士後期課程））			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 盤 的 教 育 科 目	医科学研究特論	医科学研究を行う上での基本的姿勢とマナーを習得させ、医療におけるコミュニケーション、研究を始めるにあたって倫理審査の必要性と動物実験計画書、さらに医療文書の作成などを習得させ、医科学研究における心と科学の両面の理解を深める。また、人間や人間集団を対象とした医学研究を行う上での基本的マナー、ヒト由来組織・細胞・DNAの取り扱い、疫学の倫理指針、個人情報保護などのルール、さらにデータ解析法や統計解析法など研究の基本的的方法論、研究不正の防止の基本的事項を修得する。	
	生命・医療倫理学特論	<p>（概要）</p> <p>医療現場における生命・医療倫理の修得を目的とする。「医師の職業倫理指針」（日本医師会）、臨床研究を行う上で注意すべき医の倫理、ヒトを対象とした医学研究の倫理指針、癌治療者への適切な癌告知とインフォームドコンセント、人体試料の取扱いに関する医療機関が人体試料の管理・保管、利用目的、個人情報保護に関する規定等を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（48 梅北 善久／1回） 人体資料の取扱いを通じた「生命倫理」、「医の倫理」について講義する。</p> <p>（50 山崎 章／1回） がん治療に関する臨床試験を通じて、適切ながんの告知、インフォームドコンセントの取得などについて講義する。</p> <p>（57 三明 淳一郎／2回） 日本医師会による「医師の職業倫理指針」および本学の倫理審査委員会について講義する。</p> <p>（35 大林 徹也／2回） 大学等における動物実験を伴う医学・生命研究を行うために必要な法律やガイドライン、倫理に関して講義する。</p> <p>（54 難波 栄二／1回） 遺伝子組換え実験を行うために必要な知識・手続き等について講義する。</p> <p>（52 前垣 義弘／1回） 臨床研究を行う上で注意すべき医の倫理、ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、ヒトを対象とした医学研究の倫理指針、実験動物と3つのR、動物実験とボロニア宣言について講義する。</p>	オムニバス方式

<p>基盤的教育科目</p>	<p>高次基盤医学特論</p>	<p>感染・免疫・アレルギー、生活習慣病、臨床腫瘍、脳と心の各分野のわが国のみならず世界的に重要な疾患をベースにした最新の臨床医学・医療の知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(49 磯本 一／1回) 我が国では肝細胞癌により年間約3万5千人が死亡し、今後も増加傾向にある。肝癌の約85%はウイルス肝炎に関連しており、これら患者では腫瘍マーカーや画像検査を組み合わせることで早期発見することが肝要である。肝癌の治療方針および予後には、肝癌自体とともに肝実質機能が強く関与しており、肝機能障害を踏まえた肝細胞癌分類が各国から提案されている。なお、現在肝発癌および肝癌治療後の再発抑制を目指して各種の薬物が検討されている。</p> <p>(61 大石 徹郎／1回) 主な婦人科悪性腫瘍は子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌である。頸癌の発生にはヒトパピローマウイルス (HPV) が深く関与する。若年者頸癌が増加しており、根治性と機能温存を両立させた治療法が求められる。子宮体癌は増加傾向にある。体癌の多くはEstrogen依存性であり、予後は比較的良好である。卵巣癌は年間約4,200人が死亡して婦人科がんのなかで最も死亡率の高い癌である。治療としては可及的腫瘍減量術と化学療法が行われる。</p> <p>(56 大槻 均／1回) わが国の寄生虫症は減少してきたが、世界的には現在も多く多くの寄生虫感染がみられる。今後は、海外からの輸入感染症に注意しておく必要がある。一方、国内でも赤痢アメーバ症、多包条虫症、裂頭条虫症、旋尾線虫症など増加している寄生虫症もある。寄生虫の診断のためには、主治医が寄生虫症を疑い、問診や検査を行うことが重要である。わが国の寄生虫症の動向を紹介し、寄生虫症をどのような場合に疑うか、症例も提示しながら解説する。</p> <p>(60 岡田 晋一／1回) 消化器感染症のうち临床上重要なポイントとして、感染の病原体、感染経路とともに流行の原因となる院内感染、食中毒、保育園などの集団感染につき解説します。また、消化器感染症は地域や小集団内での感染は社会的問題になりうることもあることも示した上で感染性胃腸炎の代表的な病原体と臨床的特徴について解説する。</p> <p>(58 加藤 雅彦／1回) 現在わが国で増加しているメタボリックシンドロームにおける心血管系の危険因子と糖尿病について、診断と対応法について説明する。</p> <p>(59 八島 一夫／1回) 生活習慣病は食事、喫煙、飲酒、運動習慣などが発症・進行に大きく関わっている。食物は摂取後、消化管系で消化、吸収、代謝されるため、食習慣は消化器疾患に影響を及ぼすと考えられる。本講義では特に、食道・胃・大腸・膵臓がん、胃十二指腸潰瘍、膵炎と生活習慣との関係、予防について解説する。</p> <p>(55 松尾 聡／1回) この講義では、脳の血管支配、脳代謝と脳血流量、脳血流調節、脳脊髄液、頭蓋内圧と脳灌流圧、血液脳関門、脳浮腫、起立性低血圧について概説する。脳は複雑な統合機能を担っている器官であり、代謝量が多い。そのエネルギーは血流によって運ばれるグルコースと酸素により賄われている。従って、脳血流障害は、脳組織に重篤なダメージを与える。</p> <p>(51 兼子 幸一／1回) わが国の自殺者は1998年以降急増しており、3万人／年以上で推移している。米子市における自殺者の特徴は50代以上が全体の6割以上を占め、中高年の自殺が目立つ。自殺原因のトップは、元来「健康問題」であったが、最近では「経済問題」が増加している。また、自殺者の大半がうつ病を併発しており、自殺の予防にはうつ病の早期発見、治療が必要である。早期発見は山間地型介入と都市型介入に分かれ、前者はアンケートの実施やハイリスク群の訪問など比較的個別に対応可能であるが、後者では個別での対応には限界があり啓発活動やネットワーク作りなどが主体となる。うつ病の治療については専門医のみならず受診率の高いプライマリケア医のうつ病についての習熟も重要である。また特に本人に病識がない場合は家族の適切な介入も重要となる。</p>	<p>オムニバス方式</p>
----------------	-----------------	--	----------------

スペシャリスト教育科目（医科学）	知財戦略特論 II	<p>（概要） 知的財産権（特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権）に関する基礎知識に関する講義のほか、医療分野での出願戦略や知財マネジメントに関して実例をもとに学ぶ。また、最新の知財に関するトピックとして、ビジネスモデル特許やバイオインフォマティクス特許に関する内容も扱う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（53 植木 賢・62 上原 一剛／7回）（共同） 人間の創造活動により生み出される無形財産である知的財産について概説するとともに、知的財産権の一つである特許に関する知識を教授する。また、医療分野における出願、特許、権利行使、知財マネジメントの事例を紹介しつつ、医療分野の出願戦略と知財マネジメントについて説明する。</p> <p>（63 大原 高秋／5回） 小発明、デザイン、ブランド、著作物などの具体例を取り上げつつ、実用新案権、意匠権、商標権、著作権について概説する。国際出願に関連してPCT制度やWIPOについての基礎知識を教授する。さらに、ビジネスモデル特許やバイオインフォマティクス特許など、最新の知財戦略に関して事例を踏まえつつ説明する。</p> <p>（64 奥野 彰彦／3回） 海外（アメリカやヨーロッパなど）の知的財産制度を日本の知的財産制度と比較しつつ説明する。また、知財に関する最新トピックスについて実例をもとに解説する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	知財戦略演習 II	<p>研究開発現場へ参加して現場でのニーズや課題を抽出し、その課題に対する解決策を起業を目的とした取り組みに関してグループワークによるディスカッションを通じて見出していく演習を行うとともに、この過程で得られた発明を、知的財産権に仕上げるための演習も行う。対象領域の周辺技術に関する知的財産に関する情報収集などの実習も実施する。</p>	共同
	分子応答制御学特論 I	<p>（概要） 生体機能の恒常性は、様々な細胞が環境に応じ適切に制御されることで維持される。生体に侵入した異物に対する応答や防御反応もその一つである。これらは、遺伝子レベルでの発現やリン酸化などによる分子機能変化により制御されている。本特論では、外界の環境に応じた細胞の分子応答制御について、具体的な例を挙げその科学的問題点と解決に向けた研究手法等を概説し、また、それらの破綻と疾患との関連について講義する。先導的教育・研究・医療人となるべく指導する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 初沢 清隆／8回） 外界の環境に応じた細胞の分子応答について講義する。</p> <p>（23 堀 直裕／7回） 塩基配列の大量解読による細胞や個体の機能解析、解析と関連する生物情報学について講義する。</p>	オムニバス方式
	分子応答制御学演習 I	<p>教員と議論のうえ、外界の環境に応じた細胞の分子応答制御に関するテーマに関する原著論文を選択し、内容についてプレゼンテーションする。準備においては、関連論文もフォローし、研究の背景、内容、そして手技・手法等の詳細について分かり易いプレゼンテーションを行う。質疑応答と全体討論を通じ、論文内で明らかにされた現象やその分子機構そして問題点等を共有し理解する。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。</p>	共同
	感染防御機構学特論 I	<p>免疫学の教科書レベルの知識を備えていることを前提に、実際の免疫反応や現象、疾患においてそれらの知識では説明できない部分があることを意識する。その上で、それらの矛盾点に対する現在の研究の進展などについて、最新の論文などをテキストとして学習し、理解を深める。</p>	
	感染防御機構学演習 I	<p>感染防御機構学特論 I の学習内容を前提に、自分の興味ある内容に関する最新の論文を年間10本程度精読の上、少人数でのプレゼンテーション、質疑応答を行う。これらに必要な文献の効率的な検索方法、文献管理ソフトウェア、各種データベース、データ解析ソフトウェアなど必要なものの使い方にも習熟する。また、他者のプレゼンテーションを聞き、討議する能力も高める。</p>	

スペシャリスト教育科目（医科学）	高次発生生物学特論 I	<p>(概要)</p> <p>発生過程や再生過程で、どのようにして適切な形態、サイズ、機能を有する器官を形成するかは発生生物学上の最重要課題の一つである。また、この課題の解決は再生医療の発展に寄与する。本講義では、発生過程や再生過程での器官形成に的を絞り、その分子機構について講義する。</p>	
	高次発生生物学演習 I	<p>発生過程や再生過程での器官形成について自身でテーマを設定し、古今の主要研究の論文や最新の重要論文を自身で探索、選択、講読する。そして、一連の研究論文を講読の上、総説的な発表と質疑応答を行う。同時に問題点や新たな課題を考察し、さらにその解決のためにはどのような研究が必要かも提案する。一方、他者の発表に対して批判的な検討を行う。これらを通じて研究者としての基礎能力を涵養する。</p>	
	先端腫瘍学特論 I	<p>(概要)</p> <p>主として実験病理学の観点から先進の腫瘍学に関して教授する。腫瘍の発生から再発・浸潤・転移を含む悪性化に至る過程に関わる要因を腫瘍側ならびに宿主側、そしてその両者の相互作用の切り口から自ら考えることのできる能力を身につける。これら一連の過程に関わる研究を遂行するために不可欠となる腫瘍学の概論や方法論、ならびにトピックスについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 岡田 太／8回)</p> <p>腫瘍の発生メカニズムについて実験病理学の観点から講義する。</p> <p>(25 尾崎 充彦／7回)</p> <p>腫瘍の悪性化メカニズムについて実験病理学の観点から講義する。</p>	オムニバス方式
	先端腫瘍学演習 I	<p>腫瘍分野における実験病理学に関する主要研究の論文や最新の重要論文を学生自身で探索、選択させる。その論文を熟読し、当該論文の新規性や独創性について他者にわかりやすく説明、質疑応答を行う。これらを通じて、自身が行っている研究テーマにおける問題点や新たな課題を探索し、基礎腫瘍学研究者としての基礎能力を涵養する。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。</p>	共同
	行動神経科学特論	<p>(概要)</p> <p>外界の状況や内的刺激は脳内で処理されたのち、最終的には動物の行動として発現する。この科目では各種刺激が脳内でどのように処理されるか、各種行動を引き起こす脳内機構は何か、特定の行動がいかんして選択されるか、さらに行動の社会的意義や疾患とのかかわりについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 畠 義郎／6回)</p> <p>神経行動学研究による様々な行動の神経基盤に関する講義を行う。</p> <p>(41 一坂 史志／3回)</p> <p>行動選択の神経機構に関する講義を行う。</p> <p>(42 佐藤 武正／3回)</p> <p>行動を生成、制御する神経機構に関する講義を行う。</p> <p>(44 亀山 克朗／3回)</p> <p>内的、外的環境評価の神経機構に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式

スペシャリスト教育科目（医科学）	行動神経科学演習	行動神経科学は生理学、解剖学、分子生物学、行動学など多様な学問分野からなる学際領域である。それらを統合的に理解するため、国内外の研究の動向と最新の研究課題について系統的に学習することで、自ら考察し結論を得る能力とその考えを他の研究者に納得させる能力を育成し、先導的教育・研究者・医療人となるべく指導する。 上記の内容を4名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同
	遺伝子・染色体機能医工学特論	（概要） 遺伝子および染色体レベルにおける発現制御メカニズムの原理を理解する。さらに細胞核内で生じているダイナミックなゲノム動態について、最新の知見と合わせ講義を行う。加えて、染色体やクロマチン構造の解析技術の実践に役立つ最新の情報を提供する。そのビジネス応用を含む。 （オムニバス方式／全15回） （4 久郷 裕之／8回） 遺伝子および染色体レベルにおける発現制御に関して講義をおこなう。 （26 香月 康宏／7回） ゲノムライティングにおける長鎖ゲノム合成技術開発およびその利用法とそのビジネス応用についての講義を行う。	オムニバス方式
	遺伝子・染色体機能医工学演習	遺伝子、染色体が正常に機能するための必要条件や、その異常になるメカニズムについて学び、実際に行ってみる。異常になった細胞への正常機能を有する遺伝子、染色体の補完による機能回復の機構を理解する。国内外の最新研究の動向と研究課題について学習し、自ら考察し結論を得る能力とその考えを他の研究者に効果的に伝える能力を育成し、先導的教育・研究者・医療人及び起業家となるべく指導する。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同
	分子医学特論	難治疾患の治療のポイントとなる病態の分子細胞生物学的な機構を理解する。特にがん遺伝子治療（腫瘍溶解性ウイルス療法）の発展を可能にしたがん細胞でのシグナル伝達や遺伝子発現機構を理解し、さらに様々なウイルスの複製機構を理解することにより、本療法のコンセプトについて理解を深める。そのビジネス応用を含む。先導的教育・研究者・医療人となるべく指導する。	
	分子医学演習	がん細胞のみを標的破壊する腫瘍溶解性ウイルスの制御機構と制御技術を学び、がん細胞に対する抗がん効果に繋がる機構を理解し、実際に行ってみる。国内外の先行研究の動向と最新の研究課題について系統的に学習し、自ら考察し結論を得る能力とその考えを他の研究者に納得させる能力を育成し、先導的教育・研究者・医療人となるべく指導する。	
	腫瘍生物学特論	（概要） 悪性腫瘍の病態を生物学的視点より解析し、有効な診断法、治療法（化学療法を含む）、予防法の確立に繋がるような腫瘍学の統合的理解を深める講義を行い、腫瘍学のスペシャリストを育成するよう指導する。 （オムニバス方式／全15回） （6 汐田 剛史／8回） 悪性腫瘍の病因・病態から治療法（化学療法を含む）への展開、さらには生活習慣病との関連や遺伝子改変動物での解析について講義し指導を行う。 （28 土谷 博之／7回） 悪性腫瘍の病態について、酸化ストレス、小胞体ストレス、核内受容体、次世代シーケンサーなどの解析技術の面より講義し、指導を行う。そのビジネス応用を含む。	オムニバス方式
	腫瘍生物学演習	悪性腫瘍の病態を生物学的視点より解析し、有効な診断法、治療法（化学療法を含む）、予防法の開発ができる腫瘍学のスペシャリストを育成することを目的に、啓発的な教育を行い指導する。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同

<p>スペシャリスト教育科目（医科学）</p>	<p>循環再生医学特論</p>	<p>（概要） 生命の発生とそれぞれの器官の発達メカニズムを理解する。特に受精卵細胞からpluripotentialな胎児幹細胞への発生を理解し、さらにmultipotentialな幹細胞（iPS細胞やES細胞等）からそれぞれの組織への分化過程とその各段階での細胞表面マーカーについて講義する。急速に臨床応用されている体性幹細胞（造血幹細胞や脂肪幹細胞等）などからの心血管系への分化と薬物治療との関係を中心に講義を行い、デバイス治療との併用について最新の知見を紹介してゆく。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 久留 一郎／8回） 体性幹細胞の心血管領域での臨床応用に関して講義をおこなう。</p> <p>（29 白吉 安昭／7回） 発生分化ならびに多能性幹細胞（ヒトiPS細胞）に関しての講義を行う。そのビジネス応用を含む。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>循環再生医学演習</p>	<p>多能性幹細胞からの心臓血管系へ分化の仕組みやその制御機構を学び、薬物治療や医療機器との併用の関係を理解し実際に行ってみる。障害された臓器にこれらの細胞を移植する事で心臓機能回復に繋がる機構を理解する。国内外の先行研究の動向と最新の研究課題について系統的に学習し、自ら考察し結論を得る能力とその考えを他の研究者に納得させる能力を育成し、先導的教育・研究者・医療人となるべく指導する。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。</p>	<p>共同</p>
	<p>先進保健学特論</p>	<p>（概要） 人体の成り立ちと疾患について、その背景となる要因を分子レベルから個体レベルまで解説し、さらに研究を進める上で必要になる情報処理について教授する。それとともに、患者の心のケアに関して、遺伝カウンセリングを教授する統合保健学の立場で授業を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（20 森 徹自／3回） 脳は再生が最も困難な臓器である。成体脳においてニューロンの再生と新生は不可能とされてきたが、ヒトを含めた哺乳類の脳内でも、生後脳において限局された領域でニューロンが新生する。この内在性神経幹細胞の性質を理解する事は、脳の再生につながる。神経発生の学的視点も取り入れ、神経幹細胞の増殖・分化機構や、その研究方法を教授する。</p> <p>（19 網崎 孝志／3回） 集団薬物動態解析などの創薬や臨床でのデータ解析や、分子動力学シミュレーションの軌跡データ解析など構造バイオインフォマティクスで用いられる手法について、とくに、階層ベイズ法や回帰・混合モデルと正則法など統計学的機械学習の手法を中心に解説する。</p> <p>（18 二宮 治明／3回） 先天性脂質蓄積症であるニーマンピック病C型（NPC）の病態解析と治療法の探索を行う。NPCは神経変性をきたす致命的な疾患であり、根本的な治療方法はない。原因遺伝子産物の安定化を目的とするシャペロン療法、対照的な薬物療法、さらに遺伝子治療の可能性について解説する。</p> <p>（21 北村 幸郷／2回） 病態の解明に重要な役割を果たす病理学には、病理学総論、病理学各論はもとより、形態学的評価法として、細胞診、病理組織診断、病理解剖などがある。これらの評価法における病態の可視化、病態の解明、診断技術の意義および技術の発展について講義する。</p> <p>（33 藤原 伸一／2回） タンパク質や核酸などの生体高分子の構造・機能解析が果たす役割について教授する。また、そのための手法の1つである分子動力学シミュレーションについて、その基本的事項と応用例について論じるとともに、様々なシミュレーション研究で利用されているモンテカルロ法についても講義する。</p> <p>（31 笠城 典子／2回） ゲノム情報（遺伝情報）に基づいた個人にとって最善の医療を提供しようとするゲノム医療が急速に進展している。ゲノム医療を理解し、推進していくために、遺伝学の基礎、ゲノム情報（遺伝情報）の特徴、家系図の意義、遺伝カウンセリング、遺伝学的検査について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>スペシャリスト教育科目（保健学）</p>	<p>統合保健学研究方法特論</p>	<p>（概要） 保健学コースでは、「心と科学の統合」の理念を基盤にして、看護系と臨床検査医学系の教員が、それぞれの立場からオムニバス方式の授業を行う。統合保健学特論では、包括的な地域支援を目標とした研究遂行に必要な保健学研究手法の多様性、生活習慣病・がん・運動器疾患・認知症等の実践的理解とそれに関わる倫理問題や支援方法についての統合的理解について授業を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（30 安藤 泰至／2回） 保健学のあらゆる実践領域において、さまざまな形で倫理問題が関わってくる。本講義では、生殖補助技術、出生前診断、遺伝子治療、臓器移植、終末期医療と安楽死などの生命倫理の諸テーマについての議論の現状を紹介、整理しながら、保健学研究者として必要な「倫理」への意識や倫理的思考力を養成する。</p> <p>（9 深田 美香／2回） 補完代替医療の利用頻度は増加傾向にあり、約半数のがん患者が、補完代替医療を利用している。しかし、科学的検証が十分でない補完代替医療も多く、患者がその質を見極めるためには医療者による支援は重要である。補完代替医療をめぐる患者医療者間コミュニケーションと補完代替医療のエビデンスについて講義する。</p> <p>（8 萩野 浩／2回） ロコモとは筋肉、骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器に障害が起こり、「立つ」「歩く」といった基本的動作の能力が低下し、進行すると介護が必要となるリスクが高い状態のことを指す。その診断と早期発見による要介護状態の改善について説明する。</p> <p>（13 花木 啓一／2回） 生活習慣病の各病態の理解とともに、地域支援の視点から見た生活習慣病発症予防のための研究を遂行するために必要な能力の涵養を目的とする。先行研究の抄録等を例に、研究の妥当性と論文化の方法論についての理解を深める。</p> <p>（37 高村 歩美／3回） アルツハイマー型認知症の原因は完全に解明されていないが、様々な仮説が存在する。現在行なわれている仮説に基づく治療法や診断法について解説する。また、アルツハイマー型認知症の診断は、問診、診察、神経心理検査、画像検査、血液検査、脳脊髄液検査等を用いて行われる。これらの客観的および主観的評価の中から、発症や病態の進行と関連するバイオマーカーである脳脊髄液検査や画像検査について講義する。</p> <p>（12 山本 美輪／4回） 超高齢社会である日本は、様々な高齢者問題を抱えおり、看護職として迅速に対応することが求められている。これらの背景より、虐待や老々介護、介護殺人等の高齢者の倫理的問題や、認知症ケアに関する看護実践や研究について講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
-------------------------	--------------------	--	----------------

<p>スペシャリスト教育科目（保健学）</p>	<p>成人・高齢者保健学特論</p>	<p>（概要） 成人・高齢者におけるがん、老化、呼吸障害について科学的根拠に基づいて、その予防対策、治療とともに、罹患後の生活システムの構築について統合保健学の立場から授業を行う。成人・高齢者における慢性疾患、呼吸障害、がん健診、終末期医療等に関する専門的知識を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 片岡 英幸／3回） がん・アレルギー・音声機能・嚥下機能などについて、分子生物学、電気生理学、解剖生理学、病態生理学、診断学、治療学など様々な観点で総合的に講義し、研究方法のあり方を教授する。</p> <p>（11 中條 雅美／3回） がん患者とその家族に対する保健・看護学における国内外の動向およびがん患者に対する心理社会的グループ療法について教授する。</p> <p>（22 鯉岡 直人／3回） 在宅酸素療法の臨床的意義と問題点について、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、中枢性睡眠時無呼吸症候群について最近の文献をもとに講義する。情報通信技術を利用した遠隔モニタリングが植え込み式心臓ペースメーカー、在宅酸素療法、在宅持続陽圧呼吸療法に応用されている。遠隔モニタリングの仕組み臨床応用に関して、最近の文献をもとに講義する。</p> <p>（32 谷村 千華／3回） インストラクショナルデザイン、アクティブラーニング、自己効力感理論などの学習理論を用いて慢性疾患を持つ患者の認知や感情に働きかけながら行動変容を促進する患者教育プログラムの設計について学ぶ。また、学習理論を用いて設計された変形性膝関節症患者のQOLを目指す「膝いきいき教室」のプロセスを振り返りながら、介入研究の計画、実施、評価の方法について学ぶ。さらに、フィリピンで実施している糖尿病患者のピアサポートシステムの構築プロセスを振り返りながら、介入研究の計画、実施、評価の方法について学ぶ。</p> <p>（39 佐藤 研吾／3回） がん治療における超音波検査の概要を解説する。特に消化器・消化管癌における超音波検査画像についての解説をし、健診・精査・治療判定などを他の画像検査と対比して解説をする。文献等を適宜参照し、最新のがん治療に対する超音波検査の位置付けなどを講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>成育地域保健学特論</p>	<p>（概要） 成育の概念である、受精から胎児を経て出生し、成長発達の後に成人し、パートナーと次の世代を産み育てる、つまりライフサイクル／ライフステージにおける健康問題について、地域で生活する母子とその家族への包括的支援という視点からみた保健学に立脚した学際的授業を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（13 花木 啓一／3回） 周産期の胎児・新生児がいかに外界へ適応し人生を歩み出していくか、その過程をたどる。その後の小児と家族の生活習慣の積み重ねにより、小児期・思春期にどのような健康問題が生じ、地域のなかでどのような支援が必要となるのか、地域小児保健学の立場から授業する。</p> <p>（15 佐々木 くみ子／4回） ライフサイクルとマタニティサイクルの連続性と多様性を踏まえた上で、地域で生活する母子とその家族が抱えるリプロダクティブヘルスに関連する健康課題と包括的支援について、妊婦の生活習慣が妊娠経過に及ぼす影響、妊娠期からの切れ目ない養育支援について授業を行う。</p> <p>（14 鈴木 康江／4回） 地域で周産期医療人育成するための工夫や地域周産期医療の実態と課題について考察し、これから安心・安全な助産、医療を提供するための支援について考察する。</p> <p>（34 中川 真由美／4回） アレルギーは、子どもにも高頻度に認められ、患者数は年々増加の一途をたどっている。アレルギーには生活習慣の改善により制御・予防できるものもあり、地域の小児をもつ家族に正しい知識を広めていく取り組みも重要である。アレルギーについて、発症機序や特徴、生活習慣との関連などを中心に講義を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>スペシャリスト教育科目（保健学）</p>	<p>地域保健学特論</p>	<p>（概要） 日本における高齢化現象は加速し、対策が急務となっている。山陰地区は全国有数の高齢化地域で、地域に密着した対応が求められている。認知症や精神障害を中心に地域医療のあり方や支援対策の実践と問題点を明らかにする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（17 吉岡 伸一／4回） 精神障害者（てんかん、知的障害など）を対象に、地域生活を営み、自立する上で生じる問題点や効果的な地域医療支援システムの構築、保健医療福祉専門職が担う役割について教授する。また、家庭・学校・職場のメンタルヘルスについて、予防的視点を取り入れ、問題解決に向けた方策についての研究方法を探る。</p> <p>（16 松浦 治代／4回） 地域で生活する人を個別・集団を単位として捉え支援する方法、地域住民を支援する専門職の役割及び連携・協働のあり方について、討議を含めた講義を行う。また、地域住民を支援する関係者の質の向上、人材育成のあり方についても、歴史的背景を含め講義検討する。</p> <p>（12 山本 美輪／4回） 認知症高齢者が家族と共に住み慣れた地域でそのQOLを尊重された生活ができるよう”その人らしさ”を支える看護や、高齢者看護に関する倫理的問題（高齢者虐待、老々介護等）について、看護職の倫理原則や変化している家族形態より問題点を明らかにし、倫理的問題に対する看護について考察する。</p> <p>（37 高村 歩美／3回） 認知症の中で特に有病率が高いアルツハイマー型認知症の病態について解説する。アルツハイマー型認知症は、進行を遅らせる症候改善薬はあるものの、病態惹起分子を標的とした根本治療薬は未だ開発されていない。困難を極めていますが急務である新たな治療法や早期診断法の開発研究について、これまでの経緯やこれからの課題について講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>アドバンス教育科目（医科学）</p>	<p>分子応答制御学特論Ⅱ</p>	<p>（概要） 生体は外界の環境あるいは老化などに伴う内部環境の変化に対し、様々な分子応答を引き起こし防御と適応により柔軟に応答する。ミトコンドリアやライソソームをはじめとし、近年注目されているこれら細胞内小器官どうしの接触する微小環境に着目し、異物に対する反応、炎症反応、抗原提示反応、細胞死などに関する先端的研究について講義する。講義を通じ、各々がテーマに沿った研究計画をシュミレーションし討議する。先導的教育・研究・医療人となるべく指導する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 初沢 清隆／8回） 細胞内外の環境変動による細胞内小器官レベルの分子応答について講義し、内容について研究計画のシュミレーションを議論する。</p> <p>（23 堀 直裕／7回） DNAやRNAの配列解析による細胞や個体の状態研究の現状と可能性について講義し、研究計画を議論する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>分子応答制御学演習Ⅱ</p>	<p>細胞内外の環境変動による細胞の分子応答制御における最新研究について、学内で開催されるセミナー参加、および原著論文の内容についてのプレゼンテーションを通じて理解深める。前者では先端研究を行う研究者の研究マインドに触れ、また後者では、原著論文の研究背景、内容、そして手技・手法等の詳細についてプレゼンテーションする。いずれも、質疑と全体討論を通じ、新規に解明された分子機構や問題点等を共有し理解する。以上から、医科学研究者としての知識・思考・プレゼンテーションなど基本能力の涵養をはかる。先導的教育・研究・医療人となるべく指導する。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。</p>	<p>共同</p>
	<p>感染防御機構学特論Ⅱ</p>	<p>免疫学のなかで自分の興味あるトピックを選択し、基礎から最新の話まで、他者に講義できるレベルに達する幅広く深い知識を養うことを目標とする。最新の論文や総説、Annual Reviews of Immunologyなどの年次総説集などをテキストとして通読し、教官とのディスカッションを介して理解を深める。</p>	

アドバンス教育科目（医科学）	感染防御機構学演習Ⅱ	感染防御機構学特論Ⅱの学習内容を前提に自分の興味あるトピックや自身の研究内容について、学会発表形式の英文プレゼンテーションを行う。これらに必要な文献の効率的な検索方法、文献管理ソフトウェア、各種データベース、データ解析ソフトウェアなど必要なものの使い方も習熟する。また、他者のプレゼンテーションを聞き、討議する能力も高める。	
	高次発生生物学特論Ⅱ	（概要） 発生生物学はこれまで分子生物学、細胞生物学、遺伝学等の発想やこれら分野で開発された様々なテクノロジーを駆使しながら発展してきた。逆に発生工学や人工幹細胞のように発生生物学の研究が生命科学や医学で汎用されるテクノロジーに応用された例も数多い。本講義では、発生生物学におけるテクノロジーの役割について、また、発生生物学が他分野に寄与するテクノロジーの創出について講義を行う。これらの講義を通じて、発生生物学への理解を深め、同時に課題とそれを克服するための新しいテクノロジーや発想を考察させる。	
	高次発生生物学演習Ⅱ	以下の（1）～（4）について、自身でテーマを設定し、一連の研究論文を講読の上、総論的な発表と質疑応答を行う。（1）生命科学・医学分野のテクノロジーを駆使した発生生物学の研究、（2）発生生物学の研究が他分野で汎用されるテクノロジーに応用された研究、（3）発生生物学に、まだ用いられていないが、今後その応用により発生生物学に大きく寄与できる研究、（4）他分野で、まだ用いられていないが、今後その応用により大きく寄与できる発生生物学研究。一方、他者の発表に対して批判的な検討を行う。これらを通じて研究者としての基礎能力を涵養する。	
	先端腫瘍学特論Ⅱ	（概要） 先進の腫瘍学研究を実験病理学の観点から俯瞰的に教授する。臨床における問題点を基盤とし、問題解決を目指した実験病理学的解析法の構築やそこから得られた結果と臨床病理学的所見との突合、さらには革新的な診断や治療への展開を目指した包括的な研究方法について講義する。また、次世代の腫瘍学を展望するための実践的方法論を身に付け、研究原理の開発ができる能力を修得させる。 （オムニバス方式／全15回） （3 岡田 太／8回） 臨床上の問題点を解決するための先進的実験病理学的解析法を講義する。 （25 尾崎 充彦／7回） 実験病理学的解析から得られた知見を臨床応用するための方法論を講義する。	オムニバス方式
	先端腫瘍学演習Ⅱ	腫瘍分野における実験病理学に関する主要研究の論文や最新の重要論文を学生自身で探索、選択させる。その論文を熟読し、当該論文の新規性や独創性について他者にわかりやすく説明、質疑応答を行う。これらを通じて、自身が取り組んでいる研究テーマにおける問題点や新たな課題を探索し、革新的な診断及び治療法の基盤構築を目指す研究者としての基礎能力を涵養する。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同
	神経機能再生学特論	脳機能の再生のためには神経細胞の再生や神経回路の再構築が必須である。さらに身体機能の再生においては、再生・新生した組織が、他の身体部分と調和しながら機能することで、初めて機能再生が達成される。そこで神経細胞の増殖や神経回路構築のメカニズム、神経機能の可塑性メカニズムについて学ぶ。	

アドバンス教育科目（医科学）	神経機能発達学特論	脳機能は遺伝情報だけでなく発達期の内的、外的環境からの刺激に対して適応的に発達する。そのため生育環境が感覚や運動のみならず人格などの高次な精神機能にも影響する。そこで、神経系の形成過程や、発達期に顕著な環境適応能力について概説し、神経系の可塑性と機能再生医学への応用について講義する。	
	染色体医工学特論	（概要） 染色体医工学技術の基本的技術（染色体を切る、繋げる、移す）とその様々な利用方法（基礎から応用研究：生命現象の解明から医薬品開発）について講義を行う。さらに、この技術で開発された人工染色体構築の理論的解説を行う。加えて、この知識をビジネスモデルに転用できるノウハウを身につけさせる。 （オムニバス方式／全15回） （4 久郷 裕之／8回） 染色体医工学技術に関する講義を行う （26 香月 康宏／7回） 人工染色体を利用した応用研究（染色体治療や医薬品開発）に関する講義を行う。	オムニバス方式
	染色体医工学演習	染色体医工学に関する国内外の研究の動向と最新の研究課題について学習し、染色体医工学技術の演習を通して実践し、染色体医工学に關しての基本的知識や技能に基づいて自ら考察し結論を得る能力とその考えを他の研究者に効率よく伝える能力を育成し、先導的教育・研究者・医療人及び起業家となるべく指導する。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同
	腫瘍生物応用医科学特論	（概要） 悪性腫瘍の診断、治療（化学療法を含む）、予防に関する基礎的な理解を起点として、どのように応用されているかを、実際の例を示しながら、医科学的視点より解説し理解を深める講義を行う。そのビジネス応用を含む。腫瘍学の臨床展開を図ることを目的とし、指導する。 （オムニバス方式／全15回） （6 汐田 剛史／8回） 消化器領域の悪性腫瘍について、医科学的視点より、実際の診断、治療（化学療法を含む）、予防に関わる事例を明示し、指導する。 （28 土谷 博之／7回） 悪性腫瘍のゲノム解析に基づく先進的な方法を解説し、実際的な解析の方法論を指導する。	オムニバス方式
	腫瘍生物医科学演習	悪性腫瘍の病態を腫瘍生物学に加え、医科学的視点より解析することで、腫瘍学の理解を深めることを目的とする、具体的には、悪性腫瘍を生化学、遺伝学、病理学、薬理学などの医科学的視点より解析し、教育を行い指導する。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同
	組織工学特論	（概要） 再生医療を実現化するには細胞の足場を供給する組織工学技術の開発が必要である。組織工学技術を細胞をシート状に重層して組織を作成するボトムアップ方式と脱細胞化マトリックスなどの臓器鋳型の中に細胞を挿入するトップダウン方式について講義を行い、薬物治療および医療機器との併用による最新の知識を紹介してゆく。 （オムニバス方式／全15回） （7 久留 一郎／8回） 脱細胞化マトリックスと細胞シート技術に関する講義を行う。 （29 白吉 安昭／7回） 幹細胞のニッチに関して細胞外マトリックスを含めて講義を行う。そのビジネス応用を含む。	オムニバス方式
	組織工学演習	組織工学に関する国内外の先行研究の動向と最新の研究課題について系統的に学習し、組織工学技術の演習を通して実践し、幹細胞医学と組織工学及び薬物治療と医療機器との融合に關しての基本的知識や技能に基づいて自ら考察し結論を得る能力とその考えを他の研究者に納得させる能力を育成し、先導的教育・研究者・医療人となるべく指導する。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で実施する。	共同

アドバンス教育科目（医科学）	腫瘍治療学特論	難治疾患の治療のポイントとなる病態の分子細胞生物学的な機構を理解する。特にがん遺伝子治療（腫瘍溶解性ウイルス療法）の発展を可能にしたがん細胞でのシグナル伝達や遺伝子発現機構を理解し、さらに様々なウイルスの複製機構を理解することにより、本療法のコンセプトについて解説する。さらに、非臨床POC（Proof of Concept）の取得、治験開始を充足する非臨床試験データの収集、製剤のGMP準拠製造の実施、および規制当局への対応について概説し、腫瘍溶解性ウイルス療法の実現化について理解を深める。	
	腫瘍治療学演習	がん細胞のみを標的破壊する腫瘍溶解性ウイルスの制御機構と制御技術を学び、がん細胞に対する抗がん効果に繋がる機構を理解し、実際に行ってみる。国内外の先行研究の動向と最新の研究課題について系統的に学習し、自ら考察し結論を得る能力とその考えを他の研究者に納得させる能力を育成し、先導的教育・研究者・医療人となるべく指導する。	
	先進保健学統合演習	<p>（概要） 遺伝子の異常がもたらす疾患の発症メカニズム、疾患モデル動物を用いた病態や治療方法、分子動力学の研究について最新の事例を提示することで演習させる。その際に、研究方法のひとつとして有用なバイオインフォマティクス、遺伝カウンセリングについて教授することで、統合保健学の立場から、探索的演習の基盤となる統合的演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（20 森 徹自／3回） 成体脳におけるニューロン新生のメカニズムについて、神経発生学的視点を取り入れて、その研究方法を教授する。実験動物を用いたin vivo実験から得られるデータについて分析・討論することで演習を行い、研究を行う上での基礎力を高める。</p> <p>（19 網崎 孝志／2回） 集団薬物動態解析や臨床研究などの創薬や臨床でのデータ解析や、分子動力学シミュレーションの軌跡データ解析など構造バイオインフォマティクスで用いられる手法について、文献講読をとおして、統計学的解析の考え方や機械学習の実例について議論することで、研究の基礎力を高める。</p> <p>（18 二宮 治明／2回） 先天性脂質蓄積症であるニーマンピック病C型（NPC）の病態解析と治療法の探索を行う。NPCは神経変性をきたす致命的な疾患であり、根本的な治療方法はない。原因遺伝子産物の安定化を目的とするシャペロン療法、対照的な薬物療法、さらに遺伝子治療の可能性について教授、議論することで、研究力を涵養する。</p> <p>（21 北村 幸郷／3回） 病態の解明に重要な役割を果たす病理学には、病理学総論、病理学各論はもとより、形態学的評価法として、細胞診、病理組織診断、病理解剖などがある。これらの評価法について症例を検討し、病態の理解、診断技術の原理や技術の活用法を習得することで、研究力を高める。</p> <p>（33 藤原 伸一／2回） タンパク質や核酸などの生体高分子の構造・機能解析のための手法の1つである分子動力学シミュレーションについて、文献を通してその有用性や限界について議論する。併せて、GPUなどを用いた分子シミュレーションの高速化についても演習形式で理解を深める。</p> <p>（31 笠城 典子／3回） 遺伝性疾患が考えられる事例を用いて家系図を作成し、遺伝形式を推定し、リスク評価を行う。患者・家族へ遺伝カウンセリングを紹介するうえでの説明や相談への対応について演習する。さらに、患者・家族の立場に立って心情やわかりやすい説明について考察する。</p>	オムニバス方式

<p>アドバンス教育科目（医科学）</p>	<p>先進保健学探索演習</p>	<p>(概要) 遺伝子の異常がもたらす疾患の発症メカニズム、疾患モデル動物を用いた病態や治療方法、分子動力学の研究について最新の事例を提示することで演習させる。その際に、研究方法のひとつとして有用なバイオインフォマティクス、遺伝カウンセリングについて教授することで、統合保健学の立場から課題を定めた探索的演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(20 森 徹自／3回) 成体脳におけるニューロン新生のメカニズムについて、神経発生学的視点を取り入れて、その研究方法を教授する。実験動物を用いた in vivo実験から得られるデータについて分析・討論することで演習を行い、特別研究へと発展させる。</p> <p>(19 網崎 孝志／2回) 集団薬物動態解析や臨床研究などの創薬や臨床でのデータ解析や、分子動力学シミュレーションの軌跡データ解析など構造バイオインフォマティクスで用いられる手法について、文献講読をとおして、特別研究へと発展させる。</p> <p>(18 二宮 治明／2回) 先天性脂質蓄積症であるニーマンピック病C型（NPC）の病態解析と治療法の探索を行う。NPCは神経変性をきたす致命的な疾患であり、根本的な治療方法はない。原因遺伝子産物の安定化を目的とするシャペロン療法、対照的な薬物療法、さらに遺伝子治療の可能性について研究し、特別研究へと発展させる。</p> <p>(21 北村 幸郷／3回) 病態の解明に重要な役割を果たす病理学には、病理学総論、病理学各論はもとより、形態学的評価法として、細胞診、病理組織診断、病理解剖などがある。これらの評価法について症例を検討し、病態の理解、診断技術の原理や技術の活用法を習得して、特別研究へと発展させる。</p> <p>(33 藤原 伸一／2回) タンパク質や核酸などの生体高分子の構造・機能解析のための手法の1つである分子動力学シミュレーションについて、文献を通してその有用性や限界について演習をさせる。併せて、GPUなどを用いた分子シミュレーションの高速化についても演習することで、特別研究へと発展させる。</p> <p>(31 笠城 典子／3回) 遺伝性疾患が考えられる事例を用いて家系図を作成し、遺伝形式を推定し、リスク評価を行う。患者・家族へ遺伝カウンセリングを紹介するうえでの説明や相談への対応について演習する。さらに、医療職の役割および実践内容について考察することで、特別研究へと発展させる。</p>	<p>オムニバス方式</p>
-----------------------	------------------	--	----------------

<p>アドバンス教育科目（保健学）</p>	<p>成人・高齢者保健学統合演習</p>	<p>(概要) 成人・高齢者におけるがん、老化、呼吸障害について科学的根拠に基づいて、その予防対策、治療とともに、罹患後の生活システムの構築について、統合保健学の立場から統合的な演習を行う。成人・高齢者における慢性疾患、呼吸障害、がん健診、終末期医療等に関する専門的知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10 片岡 英幸／3回) がん・アレルギー・音声機能・嚥下機能などについて、分子生物学、電気生理学、解剖生理学、病態生理学、診断学、治療学など様々な観点で総合的に講義し、研究方法のあり方を教授する。</p> <p>(11 中條 雅美／3回) がん患者とその家族に対する保健・看護学における国内外の動向およびがん患者に対する心理社会的グループ療法について教授する。</p> <p>(22 鯉岡 直人／3回) 在宅酸素療法の臨床的意義と問題点について、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、中枢性睡眠時無呼吸症候群について最近の文献をもとに講義する。情報通信技術を利用した遠隔モニタリングが植え込み式心臓ペースメーカー、在宅酸素療法、在宅持続陽圧呼吸療法に応用されている。遠隔モニタリングの仕組み臨床応用に関して、最近の文献をもとに講義する。</p> <p>(32 谷村 千華／3回) インストラクショナルデザイン、アクティブラーニング、自己効力感理論などの学習理論を用いて慢性疾患を持つ患者の認知や感情に働きかけながら行動変容を促進する患者教育プログラムの設計について学ぶ。また、学習理論を用いて設計された変形性膝関節症患者のQOLを目指す「膝いきいき教室」のプロセスを振り返りながら、介入研究の計画、実施、評価の方法について学ぶ。さらに、フィリピンで実施している糖尿病患者のピアサポートシステムの構築プロセスを振り返りながら、介入研究の計画、実施、評価の方法について学ぶ。</p> <p>(39 佐藤 研吾／3回) がん治療における超音波検査の概要を解説する。特に消化器・消化管癌における超音波検査画像についての解説をし、健診・精査・治療判定などを他の画像検査と対比して解説をする。文献等を適宜参照し、最新のがん治療に対する超音波検査の位置付けなどを講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
-----------------------	----------------------	--	----------------

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">アドバンス教育科目（保健学）</p>	<p>成人・高齢者保健学探索演習</p>	<p>（概要） 成人・高齢者におけるがん、老化、呼吸障害について科学的根拠に基づいて、その予防対策、治療とともに、罹患後の生活システムの構築について保健学の立場から、課題を定めた探索的演習を行う。演習を行う。成人・高齢者における慢性疾患、呼吸障害、がん健診、終末期医療等に関する専門的知識を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（10 片岡 英幸／3回） がん・アレルギー・音声機能・嚥下機能などについて、分子生物学、電気生理学、解剖生理学、病態生理学、診断学、治療学など様々な観点で総合的に講義し、研究方法のあり方を教授する。</p> <p>（11 中條 雅美／3回） がん患者とその家族に対する保健・看護学における国内外の動向およびがん患者に対する心理社会的グループ療法について教授する。</p> <p>（22 鯉岡 直人／3回） 在宅酸素療法の臨床的意義と問題点について、閉塞性睡眠時無呼吸症候群、中枢性睡眠時無呼吸症候群について最近の文献をもとに講義する。情報通信技術を利用した遠隔モニタリングが植え込み式心臓ペースメーカー、在宅酸素療法、在宅持続陽圧呼吸療法に応用されている。遠隔モニタリングの仕組み臨床応用に関して、最近の文献をもとに講義する。</p> <p>（32 谷村 千華／3回） インストラクショナルデザイン、アクティブラーニング、自己効力感理論などの学習理論を用いて慢性疾患を持つ患者の認知や感情に働きかけながら行動変容を促進する患者教育プログラムの設計について学ぶ。また、学習理論を用いて設計された変形性膝関節症患者のQOLを目指す「膝いきいき教室」のプロセスを振り返りながら、介入研究の計画、実施、評価の方法について学ぶ。さらに、フィリピンで実施している糖尿病患者のピアサポートシステムの構築プロセスを振り返りながら、介入研究の計画、実施、評価の方法について学ぶ。</p> <p>（39 佐藤 研吾／3回） がん治療における超音波検査の概要を解説する。特に消化器・消化管癌における超音波検査画像についての解説をし、健診・精査・治療判定などを他の画像検査と対比して解説をする。文献等を適宜参照し、最新のがん治療に対する超音波検査の位置付けなどを講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>成育地域保健学統合演習</p>	<p>（概要） 保健学の立場から、地域で生活する母子とその家族が抱えるライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける健康課題を探究することに加え、探究し明確化された健康課題に対して科学的根拠に基づく対象者中心の包括的な支援を開発するプロセスについて、統合保健学特別研究につながる実践的授業を中心に、統合的演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（15 佐々木 くみ子／4回） 地域で生活する母子とその家族が抱えるリプロダクティブヘルスに関連する多様な健康課題について、妊娠期の妊婦の生活習慣に関連する健康課題や妊娠期からの養育支援に関連する健康課題について、包括的な支援システムや支援方法を開発する過程について実践的演習を行う。</p> <p>（14 鈴木 康江／4回） 地域で周産期医療人育成するための工夫や地域周産期医療の実態と課題について考察し、これから安心・安全な助産、医療を提供するための支援について演習形式で理解を深める。</p> <p>（13 花木 啓一／3回） 周産期の胎児・新生児の外界への適応過程を過程をたどり、その後の小児と家族の生活習慣の積み重ねにより生じた、小児期・思春期の健康問題についての演習を実施する。特論での授業内容を踏まえ、地域の小児に必要な支援について、演習形式で理解を深める。</p> <p>（34 中川 真由美／4回） アレルギーは子どもで高頻度に認められ、慢性的な症状を呈する場合、子どものQOLに強く影響する。日常生活・生活習慣の改善により制御・予防できるものもあり、正しい知識や対策を地域に広く啓蒙していく必要がある。その支援方法について演習形式で理解を深める。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">アドバンス教育科目（保健学）</p>	<p>成育地域保健学探索演習</p>	<p>（概要） 保健学の立場から、地域で生活する母子とその家族が抱えるライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける健康課題を探究することに加え、探究し明確化された健康課題に対して科学的根拠に基づく対象者中心の包括的な支援を開発するプロセスについて、統合保健学特別研究につながる実践的授業を中心に、課題を定めた探索的演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（15 佐々木 くみ子／4回） 地域で生活する母子とその家族が抱えるリプロダクティブヘルスに関連する多様な健康課題について、妊娠期の妊婦の生活習慣に関連する健康課題や妊娠期からの養育支援に関連する健康課題について、包括的な支援システムや支援方法を開発する過程について実践的演習を行う。</p> <p>（14 鈴木 康江／4回） 地域で周産期医療人育成するための工夫や地域周産期医療の実態と課題について考察し、これから安心・安全な助産、医療を提供するための支援について演習形式で理解を深める。</p> <p>（13 花木 啓一／3回） 周産期の胎児・新生児の外界への適応過程を過程をたどり、その後の小児と家族の生活習慣の積み重ねにより生じた、小児期・思春期の健康問題についての演習を実施する。特論での授業内容を踏まえ、地域の小児に必要な支援について、演習形式で理解を深める。</p> <p>（34 中川 真由美／4回） アレルギーは子どもで高頻度に認められ、慢性的な症状を呈する場合、子どものQOLに強く影響する。日常生活・生活習慣の改善により制御・予防できるものもあり、正しい知識や対策を地域に広く啓蒙していく必要がある。その支援方法について演習形式で理解を深める。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>地域保健学統合演習</p>	<p>（概要） 認知症の予防に関する地域疫学調査、成人におけるストレスへの対応や高齢者を取り巻く諸問題、職がや学校でのストレス評価法、さらに地域看護における活動方法、高齢者の倫理的問題と認知症ケアについて具体的なテーマを選択し、保健学の立場から統合的な演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（17 吉岡 伸一／4回） 精神障害者（てんかん、知的障害、発達障がいなど）の社会的自立に向けた精神医学的課題について、医療福祉的観点から研究方法や支援の在り方を指導する。個人、社会（学校、家庭、職場）におけるストレス評価方法や管理方法について教授し、ストレス対応の立場から多職種連携向上への実践的な問題についても指導する。</p> <p>（16 松浦 治代／4回） 住民主体の健康増進、予防活動の支援に用いられる理論、モデル、支援方法について、また、継続的に地域で生活するため包括ケアシステムのあり方について看護職をはじめ医療・福祉専門職の役割について文献から実践事例を検討し、問題解決に向けた対策・研究方法について指導する。</p> <p>（12 山本 美輪／4回） 認知症高齢者やその家族が共に住み慣れた地域でそのQOLを尊重され生活できるような”その人らしさ”を支える看護や高齢者看護に関する倫理的問題（高齢者虐待、老々介護等）について、認知症ケアの動向や看護職の倫理原則、変化している家族形態より問題点を明らかにし、倫理的問題に対する看護について指導する。</p> <p>（37 高村 歩美／3回） 認知症補助診断として有用な脳脊髄液検査の定量分析法や、認知症に関わる遺伝子変異の存在を明らかにする遺伝学的検査の手法を指導する。また、データの解析方法を学び、病態の進行や発症予測を捉える因子としての有用性を結論付けることができるように指導する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>アドバンス教育科目（保健学）</p>	<p>地域保健学探索演習</p>	<p>（概要） 認知症の予防に関する地域疫学調査、成人におけるストレスへの対応や高齢者を取り巻く諸問題、職がや学校でのストレス評価法、さらに地域看護における活動方法、高齢者の倫理的問題と認知症ケアについて具体的なテーマを選択し、保健学の立場から、課題を定めた探索的演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（17 吉岡 伸一／4回） 精神障害者（てんかん、知的障害、発達障がいなど）の社会的自立に向けた精神医学的課題について、医療福祉的観点から研究方法や支援の在り方を指導する。個人、社会（学校、家庭、職場）におけるストレス評価方法や管理方法について教授し、ストレス対応の立場から多職種連携向上への実践的な問題についても指導する。</p> <p>（16 松浦 治代／4回） 住民主体の健康増進、予防活動の支援に用いられる理論、モデル、支援方法について、また、継続的に地域で生活するため包括ケアシステムのあり方について看護職をはじめ医療・福祉専門職の役割について文献から実践事例を検討し、問題解決に向けた対策・研究方法について指導する。</p> <p>（12 山本 美輪／4回） 認知症高齢者やその家族が共に住み慣れた地域でそのQOLを尊重され生活できるような”その人らしさ”を支える看護や高齢者看護に関する倫理的問題（高齢者虐待、老々介護等）について、認知症ケアの動向や看護職の倫理原則、変化している家族形態より問題点を明らかにし、倫理的問題に対する看護について指導する。</p> <p>（37 高村 歩美／3回） 認知症補助診断として有用な脳脊髄液検査の定量分析法や、認知症に関わる遺伝子変異の存在を明らかにする遺伝学的検査の手法を指導する。また、データの解析方法を学び、病態の進行や発症予測を捉える因子としての有用性を結論付けることができるように指導する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
-----------------------	------------------	--	----------------

<p>特別研究</p>	<p>統合医科学特別研究</p>	<p>(概要) 複数の指導教官の指導により博士論文に関わる研究及び与えられた研究テーマを完結するにあたり、必要な技術の修得を行い、得られた結果を十分に考察できる能力を身につける。基礎医学教員養成のために、模擬講義等の教育体験の機会を確保する。さらに、国際的視野に基づいた医科学分野の研究を実施する。</p> <p>(1 初沢 清隆) 生体に侵入した異物に対する細胞の分子応答機構、すなわち、認識 (Toll様受容体など)、反応 (エンドサイトーシス、シグナル伝達など) そして応答 (炎症、オートファジー、抗原提示、細胞死など) の解明を目的に行う研究について、論文として公表できるよう指導を行う。</p> <p>(23 堀 直裕) 遺伝子の転写制御に関する機能配列の役割・配列間相互作用・配列多様性と機能との関連を明らかにする研究課題に対して、論文として公表できるよう指導を行う。</p> <p>(24 吉野 三也) 免疫学の基礎から発展的な知識を踏まえて自分の研究課題を設定し、それらを解決するための研究方法を構築、実践する。研究推進に必要な手法の獲得、文献検索、データ解析などを総合的に実践し、自身の研究の筆頭著者論文を完成する。また、研究推進の達成に必要な協力者とのコミュニケーションについても自分で実践する。指導教官はそのための指導を行う。</p> <p>(2 竹内 隆) 発生や再生過程で組織が適切な形態、サイズ、機能の器官を形成するしくみについて新規の知見を得て論文として公表できるよう研究指導を行う。また、国際的視野に基づいた医科学分野の研究指導を行う。</p> <p>(3 岡田 太) 腫瘍モデル動物についてヒトの病態と突合せながら作製及び評価できる技能を習得することを目的として、腫瘍に関わる実験病理学的な研究指導を行う。また、国際的視野に基づいた医科学分野の研究指導を行う。</p> <p>(25 尾崎 充彦) 腫瘍モデル動物から得られた組織を用い、遺伝子及びその発現異常を解析する方法の習得を目的として、腫瘍に関わる実験病理学的な研究指導を行う。</p> <p>(7 久留 一郎) 自身の研究テーマに関連したin vivoでの臓器障害モデルへの多能性幹細胞移植に関連する先行研究論文を収集し、既知の事項と未知の事項を整理することで研究テーマを絞り込む。実際にin vivoの臓器障害モデルを作成し、その障害の程度を定量し、体性幹細胞 (脂肪幹細胞等) の移植効果を検証し、結果をまとめ考察し博士論文作成を行い、口頭発表を行う。助教 (47 経遠智一) が、自身の研究テーマに関しての先行論文、研究をふまえて、ヒトES細胞およびヒトiPS細胞の分化に関する未知の現象に対してのテーマについて結果をまとめ考察し博士論文作成と口頭発表の指導を補助し、その割合は0.2である。</p> <p>(29 白吉 安昭) 自身の研究テーマに関連するヒトiPS細胞の作成とその分化誘導系に関する先行研究を収集し、未知の事項に関しての研究テーマを絞り込み、ヒトiPS細胞の分化指標を定量化し、結果をまとめ考察することで博士論文作成と口頭での発表を行う。</p> <p>(6 汐田 剛史) 肝疾患の病態を鑑み、肝疾患の再生医療に関する研究を指導し、最終的な博士論文の作成を指導する。</p> <p>(28 土谷 博之) 肝疾患の病態と治療に関する研究を指導し、博士論文の作成を指導する。</p> <p>(46 板場 則子) 肝臓を主体とする再生医療研究を指導し、博士論文の作成を指導する。</p>	
-------------	------------------	---	--

(5 畠 義郎)

自身の研究テーマに関連する脳機能発達のメカニズムに関する先行研究論文を収集し、道の事項に関する研究テーマを絞り込む。脳機能や神経回路における種々の分子の関与を生理学、形態学的手法により検討し、結果をまとめ考察して、博士論文の作成と口頭発表を行う。助教(41 一坂吏志、42 佐藤武正、44 亀山克朗)の1名が指導を補助し、その割合はそれぞれ0.2である。

(27 中村 貴史)

自身の研究テーマに関連したがんウイルス療法の開発研究に関連する先行研究論文を収集し、既知の事項と未知の事項を整理することで研究テーマを絞り込む。実際に治療遺伝子を搭載発現した武装化腫瘍溶解性ウイルスを作製し、様々な種類のがん細胞と正常細胞において、その特性を解析するとともに、担がんマウスモデルにおいて、その腫瘍特異性ならびに抗がん効果と安全性を検証し、結果をまとめ考察し口頭発表と博士論文作成の指導を行う。なお、助教(45 黒崎創)は指導を補助し、その割合は0.2である。

(4 久郷 裕之)

自身の研究テーマに関連した染色体医工学を基盤とした老化、がん化分子機構およびそれに基づく医療応用に関連する先行研究論文を収集し、既知の事項と未知の事項を整理することで研究テーマを絞り込み、老化および発がんに関わるシグナル伝達経路の解析および染色体工学基盤技術開発から結果をまとめ考察し博士論文作成と口頭での発表を行う。なお、助教(43 大平崇人)が指導を補助し、その割合は0.2である。

(26 香月 康宏)

自身の研究テーマに関連する創薬開発に関わる先行研究を収取し、未知の事項に関する研究テーマを絞り込み、染色体医工学技術を利用したヒト化モデル動物の創出や創薬開発などについての結果をまとめ考察することで博士論文作成と口頭での発表を行う。なお、助教(40 平塚正治)が指導を補助し、その割合は0.2である。

(19 網崎 孝志)

集団薬物動態・薬力学データを始めとする臨床データや分子動力学シミュレーション軌跡データなどタンパク質立体構造データの解析において、変量効果モデルや階層ベイズ法、独立成分分析などに基づく手法の開発を課題として研究指導を行う。また、分子動力学法を用いて、タンパク質と核酸・薬物の相互作用に関する課題の研究指導を行う。

(20 森 徹自)

成体脳における内在性神経幹細胞の性質について明らかにし、脳の再生を目指した基礎研究を行う。その際にin vivo実験を重視し、遺伝子改変や遺伝子導入手技を用いて、内在性神経幹細胞の性質維持に関する因子の探索を行い、特別研究として指導する。

(18 二宮 治明)

ニーマンピック病C型、ゴーシェ病などの遺伝性脂質代謝異常症の病態解明を目的として、培養細胞および実験動物を用い、生化学的および組織学的手法による研究を行う。

(21 北村 幸郷)

病態の解明に重要な役割を果たす病理学的手法には、細胞診、病理組織診断、病理解剖などがある。博士前期課程で習得したことを踏まえて、それらの標本の作製方法、診断技術について、一般染色標本、免疫組織化学的手法、電子顕微鏡、遺伝子検索などを用いて、病態を可視化して、病態の解明や診断技術をさらに発展させるべく研究を行う。

(22 鱒岡 直人)

脳波、心電図、呼吸運動などの生体信号を時系列データ化して、線形解析、非線形解析を行う。特に非線形解析の中で複雑系解析を利用して、新しい生体現象を探索する。また、模擬講義等の教育体験の機会を確保し、国際的視野に基づいた医科学分野の研究指導を行う。

(33 藤原 伸一)

タンパク質や核酸などの生体高分子を対象とした分子動力学シミュレーション研究を行う。生体高分子へのリガンド結合の有無による動的立体構造の違い、アミノ酸の変異に伴うリガンド結合能変化の解析などを通して、バイオインフォマティクスに関連した統合保健学特別研究を指導する。

特別研究	統合医科学特別研究	<p>(34 中川 真由美) 医学分野に有益な遺伝子多型の解析を主要テーマとし、疾患や薬剤感受性に関わる新たな遺伝子多型の探求や、関連のある遺伝子多型を組み合わせて迅速簡便に解析する方法、臨床への応用などについての研究を指導する。</p> <p>(36 上田 悦子) 遺伝子機能と栄養素や代謝との関連性が明らかにされたことを基にして、分子のレベルから栄養学にアプローチする。栄養生化学手法により、特に糖尿病などの生活習慣病の予防や治療に役立てるための精密で高感度な種々の分析法を用いて指導し、特別研究に発展させる。</p> <p>(37 高村 歩美) 最も頻度が高い認知症であるアルツハイマー型認知症のバイオマーカーに関する研究を行う。様々な病態や発症機序に関する仮説を学ぶと共に、生化学的な定量・定性分析法を習得して早期診断の客観的評価の指標となる因子を探索する。</p> <p>(38 下廣 壽) 画像検査では軽度な肝脂肪化の判定は困難である。そこで、肝脂肪化の新たな診断技術の構築に応用できるバイオマーカーを検索させる。そして肝生検が最終診断であった非アルコール性脂肪肝炎(NASH)等の発症を確定診断できる技術応用に発展させる。</p> <p>(39 佐藤 研吾) 近年注目されている3D/4D超音波画像を駆使し、新たな超音波画像の診断法の確立を目的とする。特に、消化管疾患に対するVirtual Endoscopyの開発や運動ニューロン疾患における超音波診断法の確立に向けて、学生へテーマを与え研究指導を行う。</p>
------	-----------	--

<p>特別研究</p>	<p>統合保健学特別研究</p>	<p>(概要) 統合保健学の立場から、看護系と臨床検査医学系の教員による複数指導体制による授業を行う。コースのテーマである包括的な地域支援を目標とした研究の計画と遂行に必要な知識や技能について教授する。保健学教員養成のために、模擬講義等の教育体験の機会を確保する。さらに、国際的視野に基づいた保健学分野の研究を実施する。</p> <p>(9 深田 美香) 人々が住み慣れた場所で自立した健康生活を送るために地域住民や専門職による支援が重要である。多職種連携による包括的地域支援により生活機能を維持しながら安心して生活できるケアシステムの現状と課題を探究し、特別研究に発展させる。包括的地域支援を実践する看護職に対する教育について研究指導を行う。</p> <p>(10 片岡 英幸) 超高齢化社会を迎える中で、いかに生活の質を充実させるかに重点を置き、聴覚、平衡機能、嗅覚、音声機能、咀嚼機能、嚥下機能、呼吸機能、睡眠などといった感覚器機能を中心として画像解析、信号解析などの手法を用いて課題を解決する研究の実践について指導する。また、国際的視野に基づいた保健学分野の研究指導を行う。</p> <p>(11 中條 雅美) 成人のクリティカル分野や慢性期、およびがん看護に関する論文クリティークを行った後に、リサーチクエストを明確にし、それを明らかにするための研究指導を行う。</p> <p>(12 山本 美輪) 超高齢社会となった日本における高齢者の健康・生活に関連する概念や理論を学び、高齢者を総合的にアセスメントし、またその家族も”看護の対象”とした多角的な援助方法を考察した効果的实践を明らかにするための研究ができるよう指導する。</p> <p>(13 花木 啓一) 成長・発達と生活習慣病の視点から、小児期、思春期、成人期の健康問題とその課題からリサーチクエストを導きだし、それを解決するための保健学に立脚した研究方法の立案と実施について指導する。模擬講義等の教育体験の機会を確保し、国際的視野に基づいた保健学分野の研究指導を行う。</p> <p>(15 佐々木 くみ子) マタニティサイクルとライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルスに関する健康課題を保健学的アプローチによって解決するための研究プロセスを指導する。</p> <p>(14 鈴木 康江) 周産期における母子を中心とした健康課題、また家族や成育環境による母子の発達や健康課題を解決するための実践的研究について指導。助産に関連する様々な課題の解決にむけた研究について指導する。</p> <p>(17 吉岡 伸一) 精神障害の生活実態、社会参加などの地域社会活動に向けた支援、家庭・学校・地域・職場のメンタルヘルス問題、その他様々なストレス要因に関する課題について、保健医療福祉的側面から研究指導を行う。</p> <p>(16 松浦 治代) 住民主体の効果的な活動のあり方、住民が生涯を通して継続的に安心して生活できる包括的ケアシステムの構築、連携協働のありかた、支援方法等、また、値維持で実践される事業構築・評価方法の開発を探究できるよう研究指導する。</p>
-------------	------------------	--